得ス

第四百八十九條　第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條　再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十一條　判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之ヲ管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十二條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ揭クル者之ヲ爲スコトヲ得

一　管轄裁判所ノ檢事

二　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫

四　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十條ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條　檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條　再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條　第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時效期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十六條　再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スルノ效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢事ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條　再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百九十八條　再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下タル者ハ同一ノ原由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十九條　第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條　第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ

上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條　第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百二條　第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百三條　再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ原由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ簡裁判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ職務上ノ權限ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第五百四條　再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百五條　再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ原由ニ因リ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六條　再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條　第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百八條　第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百九條　再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ揭クル者請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ尙有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條　第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條　裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第五百十二條　死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條　第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四

百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第五百十四條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得

第五百十五條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編　非常上告

第五百十六條　判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條　公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第五百十九條　非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條　非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ

一　原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス

二　訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀スモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十一條　非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタル

第五百二十二條　第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編　略式手續

第五百二十三條　區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百二十四條　略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五百二十五條　前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

第五百二十六條　裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

第五百二十七條　略式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第五百二十八條　略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第五百二十九條　第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十條　正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第五百三十一條　正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

第五百三十二條　正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條　略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編　裁判ノ執行

第五百三十四條　裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五百三十五條　裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記錄下級裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス

第五百三十六條　裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三十七條　二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三十八條　死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

第五百三十九條　死刑ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事ハ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條　司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日内ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百四十一條　死刑ノ執行ハ檢事及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ

檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百四十二條　死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行始末書ヲ作リ檢事及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百四十三條　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル孀女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊癒又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百四十四條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百四十五條　前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百四十六條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ揭クル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサルノ虞アルトキ
二　七十歳以上ナルトキ
三　受胎後百五十日以上ナルトキ
四　分娩後六十日ヲ經過セサルトキ
五　刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スルノ虞アルトキ
六　祖父母又ハ父母七十歳以上又ハ擬篤疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ
七　其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百四十七條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢事ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百四十八條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百四十九條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事ハ檢事長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百五十條　逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢事又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添附スヘシ

第五百五十一條　逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百五十二條　逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條　罰金、科料、沒收、追徵、過料、沒收、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百五十四條　沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徵ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡シタル場合ニ於テハ相續財產ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徵ハ相續財產ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

第五百五十五條　法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徵ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五百五十六條　上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一　檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金員ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

第五百五十七條　沒收物ハ檢事之ヲ處分スヘシ

第五百五十八條　沒收ノ執行後三月內ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢事ハ破壞又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢事ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百五十九條　僞造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

僞造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條　押收物ノ還付ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月內ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間內ト雖價值ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百六十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條　裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條　疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百九十一條ノ規定ハ疑義又ハ異議ノ申立及其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第九章　私訴

第一節　通則

第五百六十四條　疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百六十五條　罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百六十六條　第五百五十三條第一項ノ裁判ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九章　私訴

第一節　通則

第五百六十七條　犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財產ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十八條　私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百六十九條　公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ言渡ヲ爲スヘシ

第五百七十條　私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ

第五百七十一條　私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十二條　民事訴訟法中左ニ揭クル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス

ヲ準用ス但シ卽時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

一　訴訟能力
二　共同訴訟人
三　第三者ノ訴訟參加
四　訴訟代理及輔佐
五　訴訟費用
六　擔保
七　訴訟上ノ救助
八　訴訟手續ノ中斷及中止
九　當事者本人ノ出頭
十　訴訟上ノ和解
十一　請求ノ拋棄
十二　訴又ハ上訴ノ取下
十三　强制執行

第五百七十三條　當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百七十四條　辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百七十五條　當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

第五百七十六條　私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

第五百七十七條　私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ

民事部ニ差戻シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章　第一審

第五百七十八條　私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第五百七十九條　訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應シテ之ヲ差出スヘシ

第五百八十條　裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ遲ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ

公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百八十一條　公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ

第五百八十二條　原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條　私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得

第五百八十四條　原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ

被告ハ答辯ヲ爲スヘシ

第五百八十五條　裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命スヘシ

第五百八十六條　公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス

第五百八十七條　裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍內ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

第五百八十八條　檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス

檢事私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者ノ辯論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五百八十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十條　公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十一條　略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十二條　裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

第五百九十三條　當事者召喚ヲ受ケテ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ秩序維持ノ爲退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三章　上訴

第五百九十四條　私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第五百九十六條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第五百九十七條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ
二　法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

第五百九十八條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ
二　判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用

シタルコトヲ理由トスルトキ

第五百九十九條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第六百條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第六百一條　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得

第六百二條　上告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三條　當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條　第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス

第六百五條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲ス

第六百六條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條　前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

一　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス

二　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス

第六百九條　前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除クノ外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條　第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ

第六百十二條　上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第六百十二條　本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百十三條　第二百六十五條ニ規定スル期間ハ本法施行前犯人ヲ知リ又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百十四條　本法施行前免訴ノ決定確定シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第百七十五條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百十五條　本法施行前爲シタル本案前ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百十六條　本法施行前明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ取調ヲ命セラレタル受命判事ハ事件ニ付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六百十七條　本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

本法施行前闕席判決ニ對シテ爲シタル故障申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百十八條　本法施行前爲シタル抗告ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル即時抗告ト看做ス

第六百十九條　本法施行前爲シタル再審ノ訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルモノト看做

ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十三條　本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附　則

第六百十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年五月勅令第二百十五號ヲ以テ同十三年一月一日ヨリ施行）

第六百十五條　明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條　本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條　本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條　本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ原由ノ疏明ヲ爲ササリシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條　本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百二十條　本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六百二十一條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定

ス此ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付スヘシ

第六百三十條　本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ

第六百三十一條　本法施行前提起シタル要償ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百三十二條　本法中市町村吏員ニ關スル規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適用ス

本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

●司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

大正十二年十二月二十九日
勅令第五百二十八號

改正　昭和三年一〇月勅令第二三八號、九年四月第一〇〇號

朕司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス

第二條　地方裁判所檢事局又ハ其ノ管內區裁判所檢事局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、

〔山梨警〕

雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第三條　監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第三條ノ二　警務官タル內務事務官及警務官補タル內務屬ハ特別高等警察事務又ハ外事警察事務ニ關係アル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第四條　左ニ揭ケル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第八號ニ揭ケル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十三號ニ揭ケル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一　帝室林野局ノ事務官、技師、事務官補、屬及技手
二　獵場監守長
三　監獄又ハ分監ノ長タラサル典獄、典獄補及看守長
四　國營獵區事務所長竝營林局署勤務ノ事務官、技師、山林事務官、屬、技手及森林主事
五　國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記
六　北海道廳ノ營林區署勤務ノ技師竝營林區署又ハ營林區分署勤務ノ屬、技手及森林主事
七　公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳ノ地方農林主事、地方農林技師、農林主事補及農林技手
八　狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手
九　帝室林野局技手補
十　獵場監守
十一　看守
十二　國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記竝國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員

〔山梨警〕

十三　北海道廳河川監守

第五條　前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ揭クル罪ニ關スルモノニ限ル

一　前條第一號及第九號ニ揭クル者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪
二　前條第二號及第十號ニ揭クル者ニ在リテハ御獵場ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
三　前條第三號及第十一號ニ揭クル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
四　前條第四號ニ揭クル者ノ中國營獵區事務所長ニ在リテハ國營獵區ニ於ケル狩獵ニ關スル罪、其ノ他ノ者ニ在リテハ國有林野、部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
五　前條第五號及第十二號ニ揭クル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯
六　前條第六號ニ揭クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
七　前條第七號ニ揭クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
八　前條第八號ニ揭クル者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪
九　前條第十三號ニ揭クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪

第六條　警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行フ

警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ

第七條　海船（沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ）ノ船長ハ其ノ船內ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船內ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●司法警察事務上巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムルノ件

明治十四年十月
司法省達甲第五號

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

●司法警察事務上巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムルノ件

明治十四年十月
司法省達丙第一三號

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡査ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシメ不苦候條此旨相達候事

但代理ヲ命スヘキ巡査ノ姓名ハ豫シメ其地方ノ〔軽罪〕竝ノ〔違警罪〕裁判所ヘ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

●巡査警部代理トシテ司法事務ヲ取扱フトキ取扱ニ關スル件

明治十六年二月
司法省達丁第九號

明治十四年十月當省甲第五號布達ニ據リ巡査ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渥テ警部同樣ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令內訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

●司法警察職務規範

大正十二年十二月
司法省刑事局刑事第一〇〇九二號
司法警察官吏　司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者

司法警察職務規範別册ノ通相定メ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ行フ

右訓令ス

司法警察職務規範目次

第一章　總則
第二章　捜査機關
第三章　捜査ノ端緒
第四章　捜査ノ實行
第一節　通則
第二節　通常捜査
第三節　强制捜査
令狀ノ執行
第五章　捜査事件ノ處理
第六章　少年ニ關スル特則
第七章　外國人ニ關スル特則
第八章

司法警察職務規範

第一章　總則

第一條　司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フニハ法令ノ定ムル所ヲ恪守スルノ外本規範ニ遵由スヘシ

第二條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ法令ノ字句ニ拘泥スルコトナク克ク其ノ精神ニ適合セムコトヲ期スヘシ

第三條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ外議ニ動カサレス私情ニ泥マス專ラ公明正大ヲ旨トシ非違ヲ匡正スルノ任務ヲ全ウセムコトヲ期スヘシ

第四條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ居常言行ヲ愼ミ廉潔公正世人ノ疑惑ヲ招カサルコトニ注意スヘシ

第五條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素社會ノ變遷人心ノ趨向ニ留意シ犯罪ニ關スル諸般ノ現象ヲ攷究シ其ノ職責ヲ盡スニ遺憾ナキコトヲ期スヘシ

第六條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ敏活ニシテ機宜ヲ失ハス周密ニシテ遺漏ナキコトヲ期スヘシ

第七條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ冷靜ニシテ感情ニ走ラス常ニ中正穩健ヲ旨トスヘシ

第八條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ道義ヲ尊ヒ人情ヲ重シ淳風良俗ヲ害セサルコトニ注意スヘシ

第九條　司法警察ノ職務ヲ行フニハ祕密ヲ嚴守シテ捜査ノ障礙ト犯行ノ傳播トヲ防止シ且被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第十條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ互ニ連絡協調ヲ保チ共同一致ノ精神ヲ以テ事ニ從フヘシ

第十一條　司法警察ノ職務ハ必要アル場合ニ於テハ執務時間ノ內外ヲ問ハス夜間又ハ休日ト雖之ヲ行フヘキモノトス

第十二條　司法警察ノ職ニ在ル者他ノ司法警察ノ職ニ在ル者ヨリ其ノ管轄區域內ニ於テ取扱フヘキ事項ニ付共助ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ應シ遲滯ナク處理スヘシ

第十三條　司法警察ノ職務ハ共助ニ依リ事實發見ノ目的ヲ達スルニ不便ナルトキニ限リ管轄區域外ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第十四條　書類ヲ作成スルニハ文飾ヲ用キス簡明平易ヲ旨トシ眞實ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第十五條　書類ヲ作成スルニハ法律ニ定メタルモノニ非スト雖年月日ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印シ其ノ所屬ノ官署ヲ表示スヘシ

文字ハ之ヲ改竄スヘカラス挿入削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲其ノ字體ヲ存スヘシ

第十六條　被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ錄取シタルトキハ法律ニ定メタル書類ニ非スト雖之ヲ陳述者ニ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

陳述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ趣旨ヲ記載スヘシ

書類ニハ陳述者ヲシテ任意ニ署名捺印セシムヘシ陳述者署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記シ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印セシムヘシ

第十七條　司法警察ノ職ニ在ル者被疑者又ハ被害者ト親族其ノ他ノ關係ニ因リ他ノ疑惑ヲ招クヘキ虞アルトキハ回避スヘシ

第十八條　司法警察ノ職ニ在ル者其ノ職務ヲ行フニ當リ被疑者其ノ他ノ關係者ノ求アルトキハ官氏名ヲ表示シタル證票ヲ示スヘシ但シ警察官、憲兵ノ將校准士官下士、巡査及憲兵卒制服ヲ著用スル場合ニ於テハ官氏名ヲ告クルヲ以テ足ル

第二章　捜査機關

第十九條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ檢事ノ指揮命令ニ從ヒ捜査ノ事ニ膺ルヘシ

第二十條　警視總監、地方長官（東京府知事ヲ除ク）及憲兵司令官ノ捜査ノ權ハ異常ノ場合ニ於テ之ヲ行フヲ例トス此ノ場合ニ於テモ成ルヘク其ノ處分ヲ檢事ニ讓ルヘシ

第二十一條　司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ニシテ犯罪ノ性質、場所ノ關係又ハ其ノ他ノ事情ニ因リ司法警察官其ノ職務ヲ行フニ不便ナル場合ニ於テ捜査ヲ爲スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ捜査ニ著手シタル司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テ捜査ヲ遂行スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ司法警察官ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條　司法警察官ノ職務ヲ行フ者其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ司法警察官ニ先チ覺知シタルトキハ前條ノ場合ニ非スト雖速ニ捜査ニ著手シタル上司法警察官ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官職務ヲ行フニ至リタルトキハ之ニ讓リ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十三條　司法警察官司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ先チ其ノ職務ノ範圍ニ屬スル被疑事件ヲ覺知シ第二十一條ノ場合ニ該當スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ其ノ旨ヲ通知シテ捜査ヲ委ネ且必要ナル援助ヲ爲スヘシ

第二十四條　司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スルニ當リテハ其ノ

事件職務ノ範圍ニ屬スルヤ否ニ付慎重ナル注意ヲ爲スヘシ

第二十五條　通告處分ヲ認メタル犯則事件ニ付テハ當該官吏ノ告發アル迄ハ司法警察官吏ハ其ノ捜査ヲ當該官吏ニ一任スヘシ但シ當該官吏ノ求アルトキハ必要ナル援助ヲ爲スヘシ

司法警察ノ職ニ在ル者前項ノ犯則事件アリト思料スルトキハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上速ニ當該官吏ニ通知スヘシ

第二十六條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ通常捜査ニ限リ豫メ範圍又ハ條件ヲ定メテ之ヲ爲スヘキコトヲ命令スルコトヲ得

第二十七條　司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトキハ直ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ豫メ捜査ノ命令アリタル場合ハ必要ナル捜査ヲ爲シタル上遲滯ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第二十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査其ノ他ノ職務ニ付補助ヲ要スルトキハ警察官ハ巡査ヲ使用シ憲兵ノ將校准士官下士ハ憲兵卒ヲ使用シ勤令ヲ以テ定メタル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ本來ノ職務ノ關係ニ於テ下僚タルヘキ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルヲ例トス但シ他ノ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルノ必要アルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十九條　司法警察ノ職ニ在ル者管轄區域外ニ於テ捜査其ノ他ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ成ルヘク其ノ地ノ司法警察ノ職ニ在ル者ニ通知シ扞格齟齬ナキコトヲ期スヘシ

第三章　捜査ノ端緒

第三十條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者捜査ニ著手スルニハ現行犯、告訴、告發、自首其ノ他犯罪アリト思料スルニ至リタル原由ノ如何ニ拘ラサルモノトス

新聞紙其ノ他ノ出版物ノ記事、匿名ノ申告又ハ風說ト雖犯罪ニ關係アルモノハ之ヲ看過スルコトナク相當ノ根據アルコトヲ認メタルトキハ捜査ニ著手スヘシ

第三十一條　司法警察官及其ノ職務ヲ行フ者左ニ揭ケル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
二　死刑又ハ無期刑ニ該ル罪
三　軍機ニ關スル重大ナル罪
四　高等官、同待遇者、有爵者、從四位、勳三等及功三級以上ノ者ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
五　帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪
六　辯護士ノ犯シタル罪
七　帝國議會、道會、府縣會及市會ノ議員ノ選擧ニ關スル罪
八　勞働爭議及小作爭議ニ關スル重大ナル罪
九　治安警察法ニ違反スル重大ナル罪
十　新聞紙其ノ他ノ出版物ノ朝憲紊亂、秩序紊亂及風俗壞亂ノ記事ニ關スル罪
十一　內外國ノ通貨僞造、變造及模造ニ關スル罪
十二　爆發物ニ關スル重大ナル罪
十三　公務員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
十四　法人ノ役員ノ職務ニ關スル重大ナル罪
十五　無政府主義者、共產主義者其ノ他社會主義者ノ其ノ主義ニ關スル罪
十六　各地方ニ連絡アル重大ナル罪
十七　外國人ノ犯シタル罪及外國人ニ對シ犯シタル重大ナル罪
十八　公衆ノ耳目ヲ惹ク罪

十九　檢事ヨリ特ニ報告ヲ命シタル罪

前項ニ揭ケル犯罪ニ付告訴又ハ告發アリタルトキハ犯罪アリト思料スルト否ニ拘ラス速ニ檢事ニ報告スヘシ

第三十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ告訴又ハ告發アリタルトキハ犯罪地、被疑者ノ住所其ノ他管轄ヲ定ムヘキ原由所轄區域內ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ急速ヲ要スル處分ヲ爲シタル上遲滯ナク之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ差出スヘシ

第三十三條　司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ告訴、告發其ノ他犯罪ノ申告ニ關スル書面ヲ差出シタルトキハ之ヲ受ケ速ニ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ送付スヘシ

第三十四條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ犯罪ニ關スル申告アリタル場合ニ於テハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス之ヲ受理シ實ニ從テ處理スヘシ

第三十五條　委任ニ因ル代理人ノ告訴ニ係ルトキハ委任狀ヲ差出サシムヘシ告訴ノ取消ニ付亦同シ

本人又ハ委任ニ因ル代理人ニ非サル者ノ告訴ニ係ルトキハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

衰通ノ罪ノ告訴ニ付テハ婚姻ノ解消又ハ離婚ノ訴ノ提起ヲ證スル書面ヲ差出サシムヘシ

第三十六條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ要件ニ欠缺アルトキハ成ルヘク之ヲ補正セシムヘシ

第三十七條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ヲ受ケタル場合ニ於テハ成ルヘク犯罪ノ性質、方法、日時、場所、被疑者又ハ關係者ノ住居、氏名其ノ他參考ト爲ルヘキ事實ヲ申立テシメ之ヲ明ニスヘシ

第三十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴狀又ハ告發狀ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ趣旨不明ナルトキ又ハ本人ノ意思ニ適合セサルヘシト思料スルトキハ之カ取調ヲ爲シタル上本人ヲシテ補正ノ爲書面ヲ差出サシメ若ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

第三十九條　犯人ヲ指名シタル告訴又ハ告發ニ付テハ誣罔ニ出ツルナキカ否及過實ノ申立ナキカ否ニ付特ニ注意スヘシ

第四十條　犯罪ニ關スル申告ヲ爲シタル者申告ヲ爲シタル力爲後難ヲ畏ルルノ情況アルトキハ必要アル場合ノ外被疑者其ノ他ノ關係者ニ申告者ノ氏名ヲ告クルコトヲ避クヘシ

第四十一條　告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク必要ナル捜査ヲ爲シタル上直ニ之ニ關スル書面ヲ檢事ニ送付シ指揮ヲ請フヘシ但シ書類及證據物ヲ送付シタル後ニ於テ急速ヲ要スル事項ヲ生シタルトキハ檢事ノ指揮ナシト雖之カ處分ヲ爲スヘシ

第四十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者告訴又ハ告發ニ付增減變更ノ申立ヲ受ケタルトキハ本人ヲシテ其ノ趣旨ヲ記載シタル書面ヲ差出サシメ又ハ其ノ調書ヲ作ルヘシ

前項ノ書面又ハ調書ハ之ヲ檢事ニ送付スヘシ

第四十三條　告訴狀又ハ告發狀ハ告訴又ハ告發ノ取消其ノ他何等ノ事由アルモ之ヲ返付スヘカラス

第四十四條　告訴又ハ告發ノ取消ハ當該告訴又ハ告發ヲ受ケタルニ非サル司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ受理スヘシ

告訴又ハ告發ノ取消ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スヘシ

第四十五條　第三十一條第二項、第三十二條、第三十六條乃至第三十八條及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第四十六條　自首ハ他人ヲシテ其ノ罪ヲ免レシムル爲自ラ誣ヒ又ハ重キ罪ヲ避クルノ目的ヲ以テ故ラニ輕キ罪ヲ首出スル等ノ場合ナシトセサルヲ

以テ其ノ虚實ニ注意スヘシ

第四十七條　司法警察ノ職ニ在ル者變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ檢事ノ指揮ナシト雖急速ヲ要スル搜査ヲ爲スヘシ但シ必要アル場合ノ外原狀ヲ變更セサルコトニ注意スヘシ

司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事ノ命令ニ因リ檢視又ハ檢證ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ結果ヲ報告スヘシ但シ檢事ヨリ豫メ檢視ト共ニ檢證ノ命令アリタルトキハ檢證ヲ爲シタル上報告ヲ爲スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ囑託ニ因リ檢視ヲ爲シタル場合ニ於テ通常裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪アリト思料スルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第四章　搜查ノ實行

第一節　通則

第四十八條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ公訴ノ起否及逢行ノ資料ヲ蒐集保全シ竝犯人ノ所在ヲ韜晦スルコトヲ防クヲ目的トシテ搜查ノ事ニ膺ルヘシ

第四十九條　司法警察ノ職ニ在ル者ハ平素犯罪ノ趨勢、犯罪ノ手段及罪證湮滅ノ方法其ノ他搜查ノ參考ト爲ルヘキ資料ヲ調査シ事案アルニ當リ措置ヲ誤ルコトナキヲ期スヘシ

第五十條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者犯罪アリト思料スルトキハ檢事ヨリ別段ノ命令アリタル場合ノ外直ニ搜查ニ著手スヘキモノトス但シ告訴、告發又ハ自首ニ係ル事件ニ付テハ第四十一條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十一條　搜查ヲ爲スニハ互惡ヲ逸セサルコトニ努メ苛察ニ渉ラサルコトヲ旨トスヘシ

第五十二條　搜查ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル限度ニ於テ諸般ノ取調ヲ爲スヘシ但シ法律ニ特ニ定メタル場合ノ外强制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　搜查ハ穩健妥當ナル方法ニ依リ之ヲ行ヒ且被疑者其ノ他ノ關係者ノ煩累ヲ少カラシムルコトニ注意スヘシ

被疑者其ノ他ノ關係者ノ取調ハ成ルヘク夜間ニ於テハ之ヲ行フコトヲ避クヘシ

第五十四條　搜查ニ付テハ濫ニ被疑者其ノ他ノ關係者ノ隱徽ヲ訐クコトナキヲ要ス

第五十五條　搜查ヲ爲スニ當リテハ證ニ人心ヲ動搖セシメサルコトニ注意スヘシ

第五十六條　被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ證ニ法律ノ成語其ノ他難解ノ語ヲ用キス眞メテ平易簡明ヲ旨トシ容易ニ間ノ趣旨ヲ理解セシムルコトニ注意スヘシ

第五十七條　被疑者其ノ他ノ關係者ヲ取調フルニハ穩和ヲ旨トシ其ノ年齡、境遇、性格、男女ノ別等ヲ斟酌シテ適當ノ取扱ヲ爲シ其ノ言ハムト欲スル所ヲ盡サシムルコトニ注意スヘシ

第五十八條　搜查ヲ爲スニ當リテハ被疑者ニ付左ノ事項ヲ明ニスヘシ

一　氏名、年齡、職業、本籍、住居及出生地

二　性格、經歷、境遇及素行

三　犯罪ノ原因、性質、方法、情狀、日時、場所、被害ノ狀況及犯罪後ノ情況

四　前科ノ有無若前科アルトキハ其ノ罪名、刑名、刑期、金額、裁判ヲ爲シタル廳名及其ノ年月日

五　爵、位、勳、功、褒章、記章、恩給、年金ノ有無若之ヲ有スルトキハ其ノ種類、等級

六　兵役ノ關係

第五十九條　搜查ヲ爲スニ當リテハ豫斷ヲ避ケ被疑者ノ利益ト爲ルヘキ事情ヲモ明ニセムコトヲ努ムヘシ

第六十條　被疑者犯罪事實ヲ自白シタルトキト雖之ニ適應スル證據ノ有無ヲ取調フルコトニ注意スヘシ

第六十一條　共犯者ハ成ルヘク各別ニ之ヲ取調ヘ其ノ通謀ヲ防キ且附和雷同シテ陳述スルノ弊ナカラシムルコトニ注意スヘシ

第六十二條　證據書類又ハ證據物ハ成ルヘク被疑者ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ其ノ時機ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ

第六十三條　搜查中ノ事件ニ付新聞記事ノ揭載ヲ差止ムル必要アリト思料スルトキハ速ニ其ノ事情ヲ具シ檢事ニ申報スヘシ

第二節　通常搜查

第六十四條　搜查上必要アルトキハ被疑者其ノ他ノ關係者ニ任意ノ出頭ヲ求メ又ハ其ノ所在ニ就キ若ハ承諾ヲ得テ犯所其ノ他ノ場所ニ同行シ其ノ陳述ヲ聽クコトヲ得

第六十五條　被疑者其ノ他ノ關係者ノ陳述ヲ聽キタルトキハ自ラ之ヲ錄取スヘシ

事實簡單ナルカ又ハ特別ノ事情アルトキハ聽取書ヲ作ラスシテ任意書面ヲ差出サシムルコトヲ得

第六十六條　被疑者其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

被疑事件ノ證據ト爲ルヘキ物ハ所有者、所持者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置スルコトヲ得證據ト爲ルコトアルヘシト思料スル物ニ付亦同シ

質屋取締法第十六條又ハ古物商取締法第十七條ニ依リ徵收シタル物ニシテ證據トシテ留置スルノ必要アリト思料スルモノハ同條ニ依ル還付處分前領置ヲ爲スヘシ

第六十七條　領置ヲ爲シタルトキハ件名、番號、品目、數量、被領置者ノ氏名、住居及領置年月日ヲ記載シタル領置書ヲ作リ且領置物ニ件名、番號及被領置者ノ氏名ヲ表示スヘシ

領置物ニ付所有者、所持者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ受領書ヲ交付スヘシ

第六十八條　領置物ニ付テハ保存ニ注意シ盜難、紛失、滅失、毀棄、損壞、變質等ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

領置物ノ狀態ニシテ證據ト爲ルヘキ場合ニ於テハ其ノ狀態ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第六十九條　領置物ハ證據物又ハ沒收スヘキ物ニ非サルコト其ノ他留置ノ必要ナキコト明ナルニ至リタルトキハ差出人ニ還付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ贓物ニ係ルトキハ差出人ノ承諾ヲ得テ被害者ニ還付スヘシ差出人承諾セサルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

領置物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求アルトキハ一時留置ヲ解クモ搜查ニ妨ナキ場合ニ限リ假ニ之ヲ請求者ニ還付スルコトヲ得差出人ニ非サル者ノ請求ニ因リ假還付ヲ爲スニハ前項ノ手續ニ依ルヘシ

前二項ノ場合ニ於テ差出人ノ承諾ヲ得タルトキハ承諾書ヲ差出サシムヘシ

領置物ヲ還付シ又ハ假還付ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ領置書ニ記載シ且請書ヲ徵スヘシ

第七十條　犯所其ノ他ノ場所ニ就キ實況ヲ明ニスルノ必要アルトキハ其ノ場所ノ所有者、保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ得テ見分ヲ爲スコトヲ得

實況見分ニ著手シタル後檢事ノ見分又ハ臨檢ヲ必要ト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告シ自ラ見分ヲ結了シタルト否ヲ問ハス原狀ヲ保存シ置クヘシ

實況ヲ見分シタルトキハ其ノ狀況ヲ錄取スヘシ但シ引續キ檢事見分又ハ臨檢ヲ爲シ檢事ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條　鑑定ヲ必要トスルトキハ特別ノ學識經驗アル者ニ之ヲ囑託スルコトヲ得鑑定ヲ囑託スルニハ誠實ニ鑑定ヲ爲シ得ヘキ者ヲ選定スルコトニ注意スヘシ

鑑定ハ官署又ハ公署ニモ之ヲ囑託スルコトヲ得

第七十二條　鑑定ニ因リ人ノ權利ヲ害スルニ至ル場合ハ其ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

物ノ原形ヲ變シ又ハ數量ヲ著シク減損スルニ非サレハ鑑定ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條　鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ成ルヘク鑑定ノ現場ニ立會ヒ搜查ノ參考ト爲ルヘキ事實ヲ發見スルコトニ努ムヘシ但シ鑑定ノ手續ニ付干涉スルコトヲ得ス

第七十四條　鑑定ヲ爲サシメタルトキハ鑑定ノ時、場所、手續及結果ヲ記載シタル鑑定書ヲ提出セシムヘシ

鑑定書ニシテ不明又ハ不備ノ點アルトキハ其ノ說明書ヲ提出セシメ鑑定書ニ添附スヘシ

第三節　强制搜查

第七十五條　刑事訴訟法第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合其ノ他法律ニ定メタル場合ノ外搜查ニ付强制ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第七十六條　强制ノ處分ヲ爲サムトスルニハ法律ニ定メタル場合ニ該當スルヤ否ニ付愼重ノ考慮ヲ爲シ其ノ場合ニ該當スルコトヲ明認シタル上之ヲ爲スヘシ

强制ノ處分ヲ爲スコトヲ避クヘシ

强制ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ嚴ニ必要ノ限度ヲ超エサルコトニ注意スヘシ

第七十七條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者搜查ニ付强制ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ之ニ關スル書類ハ自ラ之ヲ作ルヘシ

被疑者、證人又ハ鑑定人ノ訊問ニ立會ヒタル司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ調書ノ末尾ニ其ノ旨ヲ附記シ署名捺印スヘシ

第七十八條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者搜查ニ付判事ノ强制處分ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ狀ヲ具シテ檢事ニ申報スヘシ

第七十九條　現行犯人ヲ逮捕スルニハ電メテ穩當ノ方法ヲ用ヰ苛酷ニ渉ラサルコトニ注意スヘシ

現行犯人兇器ヲ持シ抗拒スル場合ニ於テ已ムコトヲ得ス劍銃等ヲ使用スルモ決シテ自衞ノ範圍ヲ踰ユヘカラス

第八十條　常人ニシテ現行犯人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サムトスルモノアルトキハ成ルヘク其ノ便宜ヲ計リ速ニ之ヲ受取ルヘシ

第八十一條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ其ノ逮捕シタル現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕ノ事由ヲ聽取リ逮捕調書ヲ作成スヘシ但シ逮捕手續書ヲ徵シテ之ニ代フルコトヲ得

司法警察ノ職ニ在ル者常人ヨリ現行犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ノ要領ヲ記載シタル逮捕顚末書ヲ作成スヘシ

司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者常人ヨリ受取リタル現行犯人ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ引致シタルトキハ速ニ逮捕顚末書ヲ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ差出スヘシ

第八十二條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ其ノ犯罪親告罪ニシテ告訴ナキトキハ速ニ告訴權者ニ就キ告訴ヲ爲スヤ否ヲ確ムヘシ

第八十三條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第百二十三條各號ノ場合ニ於テ勾引ヲ必要トスル事情アリト思料スルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

檢事ノ命令ニ因リ發スル勾引狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第八十四條　被疑者ニ對スル訊問及被疑者ノ供述ハ卽時ニ調書ニ記載スヘシ

第八十五條　證據物又ハ沒收スヘキ物ヲ所持スルノ疑アル場合ト雖湮滅ノ虞アルトキノ外成ルヘク搜索ヲ爲サス本人ヲシテ之ヲ差出サシムヘシ

第八十六條　押收又ハ搜索ヲ爲スニハ成ルヘク其ノ範圍ヲ廣クセサルコトニ注意スヘシ

第八十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テ押收、搜索又ハ檢證ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十八條　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所ノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ於テ物ヲ搜索スルノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急迫ノ事情アリテ檢事ノ指揮ヲ待ツノ遑ナキトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ速ニ搜索ノ結果ヲ檢事ニ報告スヘシ

第八十九條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ於テ押收、搜索又ハ檢證ヲ爲スニ當リ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ求アリタルトキハ搜查ヲ爲スニ當リ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ同條第二號ノ場所ニ於テ公開時間內押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ公開時間外ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得但シ迅速ニ之ヲ結了スルコトニ注意スヘシ

第九十條　押收又ハ搜索ヲ爲スニハ穩當ノ方法ヲ用ヰ器具ニ建造物、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リテハ書類其ノ他ノ物ノ紛亂セサルコトニ注意シ且其ノ處分ヲ終ヘタルトキハ成ルヘク原狀ニ復スヘシ

第九十一條　押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假押收ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル報告書ヲ作リ假押收ノ調書及押收物ト共ニ檢事ニ送付シ且其ノ犯罪ノ搜查ニ付機宜ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第九十二條　押收又ハ搜索ヲ爲スニハ穩當ノ方法ヲ用ヰ器ニ建造物、器具等ヲ損壞スルコトナキヲ要ス

押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リテハ書類其ノ他ノ物ノ紛亂セサルコトニ注意シ且其ノ處分ヲ終ヘタルトキハ成ルヘク原狀ニ復スヘシ

第九十三條　押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假押收ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル報告書ヲ作リ假押收ノ調書及押收物ト共ニ檢事ニ送付シ且其ノ犯罪ノ搜查ニ付機宜ヲ失ハサルコトニ注意スヘシ

第九十四條　刑事訴訟法第百六十四條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲シ又ハ同法第百六十五條ニ依リ賣却處分ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ檢事ニ報告スヘシ

第九十五條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者檢事又ハ他ノ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ命令又ハ囑託ニ因リ押收ヲ爲シタルトキハ速ニ命

令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ押收物ヲ送付スヘシ

刑事訴訟法第百六十四條第二項ニ依リ看守又ハ保管ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同條第三項ニ依リ廢棄處分ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ指揮又ハ承諾ヲ受クヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ其ノ處分ヲ爲シタル後速ニ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告スヘシ

同法第百六十五條ニ依ル賣却處分ヲ爲スノ必要アリト思料シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ報告シテ其ノ處分ニ委ヌヘシ

第九十六條　第六十七條乃至第六十九條ノ規定ハ本節ノ押收ニ付之ヲ準用ス

第九十七條　檢證ノ處分ニ因リ原狀ヲ變更シタルトキハ成ルヘク舊態ニ復スヘシ

死體ノ解剖、墳墓ノ發掘又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トスルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ檢事ノ命令ニ因リ變死者又ハ變死ノ疑アル死體ヲ檢證スル場合ニ於テ解剖ヲ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スヘシ

第九十八條　證人ニハ主トシテ見聞其ノ他實驗ノ事實ヲ供述セシメ成ルヘク推測ノ事項ヲ供述セシムルコトヲ避クヘシ

第九十九條　證人ヲ被疑者又ハ他ノ證人ト對質セシムルニハ其ノ時機ニ注意シ且兩者間ノ關係ヲ顧慮シテ適當ナル發問ヲ爲シ眞實ノ供述ヲ爲サシムルコトヲ努ムヘシ

第百條　證人ニ對スル訊問及證人ノ供述ハ即時ニ調書ニ記載スヘシ

第百一條　證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキ處分ヲ裁判所ニ請求スルニハ其ノ裁判所ノ檢事ヲ經由シテ請求書ヲ差出スヘシ

第百二條　鑑定ニ付死體ノ解剖又ハ貴重品ノ毀壞ヲ必要トシテ鑑定人ヨリ其ノ許可ヲ求メタルトキハ檢事ノ指揮ヲ請フヘシ但シ腐敗其ノ他ノ原由ニ因リ檢事ノ指揮アル迄其ノ物ヲ保存シ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

死體ヲ解剖スル場合ニ於テハ鑑定人ト共ニ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知シ遺族ナキモ近親アルトキハ成ルヘク之ニ通知スルノ處置ヲ執ルヘシ

第百三條　第七十一條乃至第七十四條及第百一條ノ規定ハ本節ノ鑑定ニ付之ヲ準用ス

第五章　令狀ノ執行

第百四條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ノ指揮ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ若其ノ手續遲延スルノ事情アルトキハ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ又ハ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スル虞アルトキハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

前二項ノ規定ハ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者命令若ハ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シ又ハ命令ニ因リ逮捕狀ヲ發シタル場合ニ之ヲ準用ス

第百五條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ハ指揮ヲ受ケタル當該司法警察ノ職ニ在ル者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ執行スルコトヲ得

第百六條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ニ指定セラレタル者管轄區域外ニ在ルトキハ其ノ地ヲ管轄スル司法警察官ニ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ送付シテ執行ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ命令若ハ囑託ヲ爲シタル官署又ハ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

執行ノ求ヲ受ケタル司法警察官ハ所轄檢事ノ指揮アリタル場合ト同シク執行ノ手續ヲ爲シ之ニ關スル書類ヲ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ差出スヘシ

第百七條　司法警察官命令若ハ囑託ニ因リ發シタル勾引狀又ハ命令ニ因リ發シタル逮捕狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ差出スヘシ

司法警察官出頭義務ヲ履行セサル證人ニ對シ自ラ發シタル勾引狀ヲ執行シタルトキハ其ノ原本ヲ調書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第一項ノ勾引狀又ハ逮捕狀ヲ執行スルコト能ハサルトキハ之ヲ命令又ハ囑託ヲ爲シタル官署ニ送付スヘシ若參考ト爲ルヘキ事項アルトキハ同時ニ報告スヘシ

第百八條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ヲ執行スル場合ニ於テハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用ヰ必要ノ限度ヲ超エテ强制ヲ加ヘス且他人ヲシテ執行ヲ受ケタル者ナルコトヲ覺知セシメサルコトニ注意スヘシ

第百九條　裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事又ハ區裁判所判事ノ發シタル押收又ハ搜索ノ命令狀ハ之ヲ受ケタル當該司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ノミナラス其ノ官署ニ勤務スル他ノ司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第百十條　命令狀ニ因リ押收又ハ搜索ノ手續ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ得サル場合ト雖速ニ命令狀ヲ檢事ヲ經由シテ之ヲ發シタル官署ニ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ押收又ハ搜索ノ手續ノ顚末及參考ト爲ルヘキ事項ヲ調書ニ記載シ命令狀ト共ニ送付スヘシ

第六章　搜査事件ノ處理

第百十一條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者被疑事件ニ付搜査ヲ終ヘタルトキハ搜査ノ顚末如何ヲ問ハス速ニ檢事ニ送致スヘシ但シ卽決スヘキ事件ニシテ告訴、告發又ハ自首ニ係ラサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

被疑事件ヲ檢事ニ送致スルトキハ意見ヲ付シ且參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スヘシ搜査書類及差押ヘ又ハ領置シタル物ハ意見書ト共ニ檢事ニ送付スヘシ

第百十二條　檢事ヨリ微罪トシテ豫メ指定シタル事件罪ト爲ラサルコト又ハ犯罪ノ嫌疑ナキコト明ナルニ至リタルトキハ之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要セス

第百十三條　犯罪事實極メテ輕微ニシテ處罰ノ必要ナキコト明白ナルトキハ事件ヲ檢事ニ送致セスシテ微罪處分ヲ爲スコトヲ得

微罪處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事ニ報告スヘシ

第百十四條　告訴、告發若ハ自首ニ係ル事件又ハ檢事ノ送致ヲ命シタル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ檢事ニ送致スヘシ

第百十五條　被疑事件ノ送致後ト雖常ニ其ノ事件ニ注意シ參考ト爲ルヘキ

事項ヲ發見シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第百十六條　被疑事件通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルコト明ナルニ至リタルトキハ事件ヲ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事件告訴、告發若ハ自首ニ係ルモノナルトキ又ハ第三十一條ニ依リ報告シタルモノナルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第七章　少年ニ關スル特則

第百十七條　少年ノ事件ニ付テハ保護教養ヲ主トスルノ精神ヲ以テ事ニ當ルヘシ

第百十八條　少年ノ被疑者ヲ取調フルニ當リテハ特ニ他人ノ耳目ニ觸レサルコトニ注意スヘシ

第百十九條　少年ノ被疑者ハ他ノ被疑者ト分離シ接觸セシメサルコトニ注意スヘシ

第百二十條　少年ノ被疑者ハ已ムコトヲ得サル場合ノ外拘束スヘカラス

第百二十一條　少年ヲ逮捕シ又ハ引致スル場合ニ於テハ其ノ方法及强制ヲ加フル限度ニ付特ニ愼重ノ注意ヲ爲スヘシ

第百二十二條　少年ニ對スル被疑事件ニ付テハ犯罪事實輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト思料スル場合ト雖微罪處分ヲ爲サスシテ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

第百二十三條　少年ニ對スル刑事事件ハ搜査又ハ豫審ニ關スルモノノミナラス公判ニ付セラレタル事項ト雖特ニ祕密ヲ嚴守スヘシ少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項亦同シ

第八章　外國人ニ關スル特則

第百二十四條　外國人ニ關シ司法警察ノ職務ヲ行フニ當リテハ國際法及國際上ノ慣例ニ違背セサルコトニ注意スヘシ

第百二十五條　外交官ノ特權ヲ有スル者ニ對シテハ其ノ特權ヲ害スレノ虞アル行爲ヲ爲ササルコトニ注意スヘシ外交官ノ特權ヲ有スル者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百二十六條　大公使館、大公使ノ居宅、別莊又ハ其ノ宿泊スル場所ニ於テハ搜査其ノ他ノ處分ヲ爲スヘカラス

第百二十七條　重大ナル罪ヲ犯シタル者逃亡シテ前條ニ揭クル場所ニ入リタル場合ニ於テ猶豫スヘカラサルトキハ大公使又ハ之ニ代ルヘキ權限アル者ノ許諾ヲ受ケ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百二十八條　重大ナル罪ヲ犯シタル者帝國ノ領海ニ在ル外國軍艦ニ現在スル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ其ノ艦長ニ對シ任意ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第百二十九條　外國軍艦ニ屬スル軍人、準軍人其ノ軍艦ヲ離レ帝國内ニ於テ現ニ罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ逮捕ノ處分ヲ爲シタル上速ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十條　任命國ノ國民タル帝國駐在ノ外國總領事、領事、副領事、領事事務官及代理領事ニ對スル被疑事件ニ付テハ檢事ノ指揮アルニ非サレハ急速ヲ要スル處分ト雖之ヲ爲スコトヲ得ス但シ重大ナル罪ヲ犯シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十一條　帝國駐在ノ外國領事官ノ所有又ハ所持スル書類ニシテ職務ニ關係アルモノハ之ヲ檢閱シ又ハ差押フルコトヲ得ス

前項ノ領事官ノ事務所又ハ居宅ニ於テ搜査其ノ他ノ處分ヲ爲スノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ但シ急速ヲ要スル處

分ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十二條　帝國ノ領海ニ在ル外國船舶内ノ犯罪ニ付テハ左ノ場合ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フヘシ

一　帝國ノ陸上又ハ港内ノ安寧秩序ヲ害スルトキ

二　乘組員以外ノ者又ハ帝國臣民ニ關係アルトキ

前項ニ揭クル場合ノ外特ニ搜査ノ必要アリト思料スルトキハ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十三條　帝國ノ領海ニ在ル外國船舶ノ航行ノ停止ヲ必要ナリト認ムルトキハ直ニ檢事ニ報告シテ指揮ヲ請フヘシ

第百三十四條　外國人口頭ヲ以テ告訴、告發、請求又ハ自首ヲ爲サムトスル場合ニ於テ國語ニ通セサルトキハ通譯ヲ以テ通譯ヲ爲サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作成シタル調書ハ通事ニ依リ之ヲ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

第百三十五條　外國人ヨリ外國語ヲ以テ記載シタル告訴狀、告發狀其ノ他ノ書類ヲ提出シタルトキハ之ヲ受理シタル上成ルヘク譯文ヲ提出セシムヘシ

譯文ニハ譯者ヲシテ其ノ住居及職業ヲ記入シ署名捺印セシムヘシ

第百三十六條　被疑者外國人ナル場合ニ於テハ左ノ事項ヲモ明ニスヘシ

一　國籍

二　帝國ニ來リタル時期及目的

三　本國ヲ去リタル時期

四　外國ニ於テノ受刑ノ有無

第八編　刑事　第二章　刑事訴訟法及拘留科料執行手續

五　家族ノ有無及其ノ住居

第百三十七條　被疑者其ノ他ノ關係者外國人ニシテ國語ニ通セサルトキハ通事ヲ用キテ取調ヲ爲シ其ノ調書ハ通事ニ依リ本人ニ讀聞カセ通事及本人ヲシテ署名又ハ署名捺印セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人其ノ必要トスル事項ヲ記載セムコトヲ求メタルトキハ之ヲ調書ノ末尾ニ記載セシムヘシ

第百三十八條　外國ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ知得タル事實ニシテ本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキ又ハ外國人其ノ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ供述ヲ爲サシムルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第百三十九條　外國人ニ對シテ發スル召喚狀、勾引狀又ハ逮捕狀ニハ成ルヘク譯文ヲ添附スヘシ

第百四十條　外國人ニ對シ勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ成ルヘク其ノ國語ニ通スル者ヲシテ之ニ當ラシムヘシ

第百四十一條　外國人ニ對シ押收調書若ハ押收目錄ノ謄本若ハ抄本又ハ領置ニ關スル受領書ヲ交付スルトキハ成ルヘク之ニ譯文ヲ添附スヘシ

第百四十二條　外國艦船乘組員ノ逮捕、留置又ハ逃亡犯罪人ニ關シ檢事ノ指揮ニ因リ取扱ヒタル事項ニ付テハ遠ニ檢事ニ報告スヘシ

第百四十三條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ檢事ノ發シタル逮捕狀、假逮捕狀ヲ執行スルニ當リ本人ノ携帶品ヲ差押ヘタルトキハ其ノ目錄ヲ作リ本人ト共ニ檢事ニ引渡スヘシ

（備考）
本規範ニ於テ司法警察ノ職ニ在ル者ト稱スルハ司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ヲ謂フ

●司法警察執務細則

大正十五年六月
甲府地方裁判所檢事正訓令甲記第二八六五號

第一章　總則

第一條　司法警察ノ職ニ在ル者其ノ職務ヲ行フニハ司法警察職務規範ヲ格守スルノ外本細則ニ據ルヘシ

第二條　記錄トナスヘキ書類ハ總テ半紙ヲ使用シ被疑者其ノ他ノ關係人ヨリ差出ス書類モ亦成ルヘク半紙ヲ使用セシムヘシ但圖面其ノ他已ムヲ得サルモノハ此ノ限リニ在ラス

第三條　書類ヲ作成スルニハ刑事訴訟法第七十一條第七十二條規範第十四條乃至第十六條ニ據ルノ外左ノ事項ニ注意スヘシ

一、所屬官署印及職印ヲ押捺スルコト但所屬官署外ニ於テ作成スル場合又ハ內部關係ノミノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二、複雜ナル事項ニ關シテハ適宜項ヲ分チ順序ヲ追ヒ其ノ要領ヲ記載スルコト

三、方言、略語、隱語、符牒又ハ陰曆月日等ハ陳述ノ儘之ヲ記載シ括弧ヲ附シ說明若クハ譯解ヲ記入スルコト

四、地名人名等讀難キモノ又ハ特殊ノ稱呼アルモノハ傍訓ヲ附スルコト

五、人名ヲ記載スルニハ單ニ名ノミヲ記載セス姓名又ハ姓ノミヲ記載スルコト

六、脅迫又ハ侮辱的言辭等寫實的ニ描寫スルコトヲ要スルモノハ實際ノ語呂ノ儘之ヲ記載スルコト

七、問ヲ長クシ答ヲ單ニ肯定又ハ否定ノミニ止メ誘導訊問ノ弊ニ陷ルコトナキヲ期スヘキコト

第四條　被疑者其ノ他關係人ヨリ差出ス書類ニシテ代書ニ係ルトキハ代書者ヲシテ必ラス之ヲ本人ニ讀聞カセ且其ノ旨ヲ記載セシムルコトニ注意スヘシ

第五條　書類ヲ受理シタルトキハ直ニ初葉欄外其ノ他適宜ノ個所ニ受理ノ年月日（必要アルトキハ時間ヲモ）ヲ記入スヘシ

第二章　共助

第六條　司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ搜查其ノ他ノ職務ヲ行フニハ相互ニ隔意ナク意見ヲ交換シ克ク連絡協調ヲ保チ杆格齟齬ナキヲ期スヘシ（規範第十條第十二條第十三條第二十一條乃至第二十九條）

第七條　規範第二十八條但書ノ場合ニ於テ檢事ノ指揮ヲ請フ遑ナキトキハ便宜他ノ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ハ必要ナル援助ヲ爲スヘシ（規範第二十八條刑事訴訟法第百三十九條第二百十六條）

第八條　前條ノ場合ニ於テハ職務ヲ行フ地ヲ管轄スル裁判所ノ檢事ニ報告スヘシ

第三章　搜查ノ端緒

第一節　事件ノ報告

第九條　規範第三十一條ノ報告ハ事態ノ緩急ニ依リ電話、電信、郵便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ檢事正ニ之ヲ爲スヘシ報告ニ必要ナル事項概ネ左ノ如シ

一、被疑者及被害者ノ住所、氏名、年齡、職業若シ知レサルトキハ其ノ

目

二、犯罪ノ日時場所及事實ノ概要
三、發覺ノ原因（告訴、告發、自首、認知等）
四、現行犯、非現行犯ノ區別
五、被疑者ノ逮捕、未逮捕又ハ其ノ見込
六、證據ノ概要（自白物證ノ有無等）
七、臨檢ノ要否
八、被疑者ノ精神狀態
九、殺傷事件ニ付テハ特ニ被疑者及被害者ノ生死、容態竝ニ創傷ノ部位、輕重、解剖及醫師派遣ノ要否
一〇、事件ニ對スル手配其ノ他參考トナルヘキ事項

第十條　前條ノ報告ヲ爲シタル後報告事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度速ニ追報スヘシ

第十一條　規範第三十一條第一項第一號第三號第七號乃至第九號第十二號第十五號ノ事犯ハ其ノ發生ヲ豫測シ得ヘキ事情アルトキハ未タ成立ヲ確認スル程度ニ至ラサル場合ト雖モ速ニ之ヲ檢事正ニ報告スヘシ

第十二條　搜查ノ著手ニ因リ財界其ノ他ニ重大ナル影響ヲ及ホス虞アル事件ニ付テハ著手前豫メ檢事正ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

他管內ニ於ケル重要犯罪事件ノ犯人ヲ取押ヘタルトキモ亦檢事正ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第十三條　新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ニ規範第三十一條及前條ニ該當スル犯罪事件ニ關スル記事ノ揭載アルコトヲ知リタルトキハ速ニ其ノ記事ノ眞否ヲ檢事正ニ報告スヘシ

第十四條　規範第三十一條ニ依リ報告シタル犯罪ニシテ發覺後三十日ヲ過クルモ被疑者判明セサルトキハ搜查ノ經過及見込ヲ檢事正ニ報告スヘシ

捜查繼續中ハ隨時前項ニ準シ報告ヲ爲スヘシ

第十五條　規範第四十七條ノ報告ハ地方裁判所檢事又ハ其ノ發見地ヲ管轄スル區裁判所檢事ニ之ヲ爲スヘシ報告ニ必要ナル事項概ネ左ノ如シ

一、變死體發見ノ日時、場所及死後ノ日數
二、變死者ノ本籍、住居、職業、氏名、年齡若シ判明セサルトキハ男女ノ別、推定年齡及人相特徵竝ニ其ノ著衣
三、犯罪ニ基因シ又ハ之ニ基因スル疑アル狀況
四、醫師ニ檢案セシメタルトキハ其ノ意見
五、解剖ノ要否
六、檢事出張要否ニ關スル意見

自然死ニ非スト雖モ諸般ノ狀況ニ依リ其ノ死因カ犯罪ニ基因セサルコト明確ナルモノハ前項ノ報告ヲ爲スヲ要セス

第十六條　勾引狀、勾留狀、逮捕狀ノ執行ヲ受ケタル者又ハ現行犯人トシテ逮捕シ若シクハ受取リタル者留置又ハ護送中死亡シタルトキハ其ノ死因ニ疑ナシト雖モ卽時地方裁判所檢事及其ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事ニ報告スヘシ

警察官署ニ於テ取調中ノ者死亡シタルトキ亦同シ

第十七條　前二條ノ場合ニ於テ檢事ノ命ニ因リ檢視ヲ爲シタルトキハ樣式第一號ニ則リ檢視調書ヲ作成シ關係書類ト共ニ之ヲ檢事ニ送致スヘシ

前項ノ檢視ニ依リ犯罪アルコトヲ發見シ引續キ檢證ヲ爲ス必要アリト認メタルトキハ直ニ檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

檢事ノ命令ニ因リ檢視ニ引續キ檢證ヲ爲シタルトキハ樣式第十七號ニ則リ檢證調書ヲ作成スヘシ此ノ際ニ於テハ別ニ檢視調書ノ作成ヲ要セス

（規範第四十七條）

第十八條　被疑者、被告人、受刑者、留置又ハ護送中逃走シタルトキハ還ニ地方裁判所檢事又ハ其ノ地ヲ管轄スル區裁判所檢事ニ報告シ且ツ發送地受送地ノ檢事ニ之ヲ通報スヘシ

前項ノ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

第二節　告訴告發自首

第十九條　口頭ノ告訴告發又ハ自首ヲ受ケタルトキハ樣式第二號ニ則リ調書ヲ作成スヘシ增減變更ノ申立アリタルトキ亦同シ

書面ニ依ル告訴告發又ハ自首ヲ受ケタルトキト雖モ成ルヘク一應本人ヲ取調ヘ調書ヲ作成スヘシ

第二十條　規範第四十一條ニ依リ書類及證據物ヲ檢事ニ送付スル場合ハ樣式第三號ニ則リ送付書ヲ作成シ之ヲ添付スヘシ

第四章　搜査ノ實行

第一節　通則

第二十一條　指名ノ告訴告發又ハ自首ニ因リ犯人ヲ檢擧シタル場合ノ外搜査ノ端緒及經路ヲ詳記シタル書類ヲ作成シ犯人檢擧ノ顚末ヲ明ニスヘシ

第二十二條　司法警察ノ職ニ在ル者犯罪ノ搜査ヲ爲スニハ規範第四十八條乃至第五十七條ニ依ルノ外尙ホ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、事案ノ輕重緩急ヲ圖リ機宜ノ措置ヲ誤ラサルコト

二、搜査ノ祕密ヲ保チ且ツ犯人ノ逃走證憑湮滅ヲ防クニ遺漏ナキヲ期スルコト

三、輕擧ヲ避ケ愼重事ニ當ルコト

四、强制處分ヲ爲スニハ特ニ甚深ナル考慮ヲ爲スコト（規範第七十五條第七十六條）

第二十三條　被疑者ヲ取調フルトキハ規範第五十八條所定ノ外尙ホ左ノ事

項ヲ調査スヘシ

一、起訴猶豫又ハ徵罰處分ノ有無若シ有リタルトキハ其ノ犯罪事實ノ概要處分ヲ爲シタル年月日及其ノ廳名

二、刑ノ執行猶豫者、刑ノ執行停止者、假出獄者又ハ恩赦ニ因リ刑ノ減免ヲ受ケタルモノナリヤ否

三、戶主非戶主ノ別非戶主ナルトキハ戶主ノ氏名住所竝ニ戶主トノ續柄

四、未成年者、禁治產者、準禁治產者又ハ女子ナルトキハ其ノ法定代理人、補佐人又ハ夫ノ有無竝ニ其ノ住居職業氏名等

五、公務員ナルヤ否

六、通稱若クハ綽名ノ有無

七、被害者ト親族關係ノ有無竝ニ續柄

第二十四條　被疑者利益トナルヘキ事實又ハ證據ノ申立ヲ爲シタルトキハ之ヲ聽取書ニ錄取シ其ノ取調ヲ爲スヘシ

第二十五條　被疑者精神ニ異狀アル疑アルトキハ血統、酒量、既往症、學業ノ成績、記憶力、計數力、妄想、妄覺ノ有無其ノ他參考トナルヘキ資料ヲ取調ヘ且成ルヘク醫師ノ診斷書ヲ徵スヘシ

第二十六條　罰金若クハ科料ニ處スルヲ相當トスル事件ニシテ被疑者略式手續ニ依リ裁判ヲ受クルコトヲ望ムトキハ聽取書ニ其ノ旨ヲ錄取スヘシ

第二十七條　被疑者毎ニ樣式第四號ニ則リ身分調書ヲ作成シ記錄ニ添付スヘシ若シ照會ノ爲メ被疑者逃走又ハ證憑湮滅ノ虞レアルトキハ之ヲ省略シ送致書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

被害者ノ身分年齡ニ依リ罪ノ成否又ハ刑ノ輕重ニ關係アル事件ニ付テハ其ノ者ノ戶籍謄本ヲ記錄ニ添付スヘシ

第一項ノ身分調書及前項ノ戶籍謄本照會中ニ係ルトキハ送致書ニ其ノ旨

ヲ附記スヘシ

第二十八條　被疑者縣外ニ本籍ヲ有スルトキハ樣式第五號ニ則リ前科ノ有無ヲ照會シ其ノ調書ヲ記錄ニ添付スヘシ若シ檢事局ニ回送方照會シタルトキハ送致書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

被疑者前科ヲ隱蔽スル疑アルトキハ指紋照會ノ手續ヲ爲シ送致書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二十九條　被疑者毎ニ樣式第六號ニ則リ素行調書ヲ作成シ記錄ニ編綴セス別封ト爲シ事件ト同時ニ之ヲ送致スヘシ

被疑者他管內ニ在住スルトキハ其ノ地ノ司法警察官ニ前項ノ調查ヲ囑託スヘシ

事件ノ性質ニ依リ必要ナルトキハ被害者其ノ他ノ者ノ素行調書ヲモ送付スヘシ

第三十條　素行調書ハ想像憶測ヲ加ヘス事實ノ根據ヲ示シ具體的ニ記述スヘシ

第三十一條　詐欺橫領傷害等ノ罪ニ付テハ被害者ニ就キ訴追ヲ希望スルカ否ヤヲ糺シ未成年者又ハ雇人ノ犯罪ニ付テハ父兄若クハ雇主ニ就キ將來ノ監督竝ニ繼續雇傭ニ關スル意見ヲ徵シ之ヲ記錄ニ明ニスヘシ

第二節　通常搜査

第三十二條　被疑者其ノ他ノ關係人ヲ取調ヘタルトキハ樣式第七號ニ則リ聽取書ヲ作成スヘシ

取調ヘノ爲メ證憑湮滅又ハ逃走ノ虞アルトキハ取調前所轄檢事ノ指揮ヲ請フヘシ

事實簡單ナルカ又ハ特別ノ事情アルトキハ始末書手續書其ノ他ノ書面ヲ提出セシメ聽取書ニ代フルコトヲ得（規範第六十四條第六十五條）

第三十三條　被疑事件ノ證據物件ヲ領置シタルトキハ樣式第八號ニ則リ領置物件目錄ヲ作成スヘシ（規範第六十六條）

第三十四條　財產ニ對スル犯罪事件ヲ取調フルトキハ被害當時ノ見積價格ヲ明ニシ被害金品ニ付テハ其ノ發見ニ努メ成ルヘク返還若ハ賠償ヲ爲サシメ被害者ヲ滿足セシムルコトニ注意スヘシ

第三十五條　身體ニ對スル犯罪事件ヲ取調フルトキハ創傷ノ部位、形狀、程度、豫後竝ニ兇器ノ種類ヲ明瞭ナラシムル爲メ醫師ノ診斷書ヲ提出セシムヘシ必要アルトキハ醫師ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得但被害者ニ於テ之ヲ拒ミタルトキハ此ノ限ニ在ラス被疑者ノ身體ニ存スル創傷ニシテ被疑事件ニ關係アリト認メラルヽトキ亦同シ

診斷書又ハ鑑定書ニハ成ルヘク創傷ノ部位形狀ヲ示シタル人體圖ヲ添付セシメ若シ必要アルトキハ撮影ヲ爲スヘシ

第三十六條　放火失火ノ犯罪事件ヲ取調フルトキハ燒燬ノ程度狀況竝ニ發火ノ場所ヲ明ニシ且風位風力隣接家屋トノ距離其ノ他公共ノ危險ノ有無ヲ認ムルニ足ルヘキ事項ヲ取調ヘ略圖ヲ添付シ必要アルトキハ場所若クハ物件ヲ撮影スヘシ

燒燬シタル家屋及其ノ附近ノ家屋竝ニ動產ニ對スル保險契約若ハ物件設定契約ノ有無其ノ他參考トナルヘキ狀況ヲモ搜査シ之ヲ明ニスヘシ

第三十七條　規範第七十條ノ場合ニ於テ實況ヲ見分シタルトキハ樣式第九號ノ一ニ則リ實況見分書ヲ作成シ且必要アルトキハ圖面若クハ寫眞ヲ添付スヘシ

簡單ナル事件ニ付テハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヲシテ見分ヲ爲サシメ樣式第九號ノ二ニ則リ報告書ヲ徵シ見分書ニ代フルコトヲ得

實況見分ヲ爲スニ當リテハ被疑者ノ指紋、足跡、遺留品其ノ他犯罪證明資料ノ有無ニ注意シ之カ採取竝ニ保全ニ努ムヘシ

第三節　强制搜查

第三十八條　規範第八十一條ノ場合ニ於テ作成スヘシ逮捕調書、逮捕手續書、逮捕顚末書ハ樣式第十號乃至第十二號ニ則ルヘシ

司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者自ラ現行犯人ヲ逮捕シ若クハ司法警察吏又ハ其ノ職務ヲ行フ者ニ命シテ逮捕セシメタルトキハ前項ノ逮捕手續書ニ準シ逮捕ノ顚末ヲ明シタル書類ヲ作成シ記錄ニ添付スヘシ

第三十九條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第百七十條及第百七十一條ノ場合ニ於テ捜索又ハ押收ノ處分ヲ爲シタルトキハ樣式第十三號乃至第十五號ニ則リ其ノ調書ヲ作成スヘシ判事ノ命令狀ニ基キ捜索又ハ押收ノ處分ヲ爲シタルトキ亦同シ（刑事訴訟法第五十七條第五十八條第百五十條以下規範第八十五條以下第百九條第百十條）

前項ノ調書ニハ冒頭ニ刑事訴訟法第百七十條及第百七十一條所定ノ捜索又ハ押收ヲ爲シ得ヘキ條件ヲ明記スヘシ

證據物件ヲ押收シタルトキハ樣式第十六號ニ則リ押收物件目錄ヲ作成スヘシ

第四十條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者規範第九十三條ニ依リ假押收ヲ爲シタルトキハ樣式第十六號ノ一、二ニ則リ假押收物件調書及其ノ目錄ヲ作成シ檢事ニ送付スヘシ（刑事訴訟法第百七十四條第百五十三條）

第四十一條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第百八十條及第百八十一條ノ場合ニ於テ檢證ヲ爲シタルトキハ樣式第十七號ニ則リ檢證調書ヲ作成シ且必要アルトキハ圖面又ハ寫眞ヲ添付スヘシ

前項ノ調書ニハ刑事訴訟法第百八十條及第百八十一條所定ノ檢證ヲ爲シ得ヘキ條件ヲ明記スヘシ（刑事訴訟法第五十七條第五十八條第百八十條以下規範第九十七條）

第四十二條　前條ノ檢證ニ著手シタル後檢事ノ臨檢ヲ必要トスルトキハ其ノ旨所轄檢事ニ急報シ既ニ檢證ヲ結了シタルト否トヲ問ハス現場ヲ保存シ置クヘシ

第四十三條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第百二十七條ノ場合ニ於テ被疑者ヲ訊問シタルトキハ樣式第十八號ニ則リ訊問調書ヲ作成スヘシ

前項ノ訊問調書ニハ被疑者ヲ逮捕シ若クハ受取リタル事由ヲ明記スヘシ（刑事訴訟法第五十六條第五十八條第百二十七條第百三十九條規範第八十四條）

第四十四條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者刑事訴訟法第二百十四條ノ場合ニ於テ證人ヲ訊問シタルトキハ樣式第十九號ニ則リ訊問調書ヲ作成スヘシ

刑事訴訟法第二百二十八條第二百三十六條ニ依リ鑑定人通事飜譯人ヲ訊問シタルトキハ樣式第二十號乃至第二十二號ノ調書ヲ作成スヘシ

前二項ノ調書ニハ冒頭ニ刑事訴訟法第二百十四條所定ノ訊問ヲ爲シ得ヘキ條件ヲ明記スヘシ（刑事訴訟法第五十六條第五十八條第百八十四條以下第二百十九條以下第二百三十二條以下規範第九十八條以下）

第四節　物件取扱

第四十五條　領置又ハ押收ノ物件目錄ニハ領置又ハ押收ノ順序ニ從ヒ通行番號ヲ附シ左ノ手續ヲ爲スヘシ但事件送致後領置又ハ押收處分ヲ爲シタルトキハ其ノ目錄ニ進行番號ヲ記入スヘカラス

一、物品ナルトキハ各個ニ樣式第二十三號ニ則リ小札又ハ厚紙ヲ附シ之ニ領置又ハ押收物件目錄ノ番號及事件名被疑者竝ニ差出人ノ氏名ヲ表示スヘシ

二、證書書翰其ノ他ノ證據書類ハ前號ノ取扱ヲ爲スノ外散逸毀損ヲ防ク爲メ別封ト爲シ封表ニ證據物件ナルコトヲ記載スヘシ

三、通貨若クハ有價證券ナルトキハ別封ト爲シ取扱者ニ於テ封緘箇所ニ捺印シ其ノ封表ニハ種類員數及目錄ノ番號事件名被疑者竝ニ差出人ノ氏名ヲ表示スヘシ（規範第六十七條）

第四十六條　領置又ハ押收ニ係ル物件ニシテ價格僅少ナル物又ハ無價物ニ付テハ成ルヘク差出人又ハ所有者ノ意嚮ヲ確メ還付ヲ望マサルトキハ之ヲ書面又ハ聽取書ニ明ニシ領置又ハ押收物件目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

治安警察法第十八條及銃砲火藥類取締法第十二條ノ適用ヲ受クヘキ事件ノ戎器又ハ戎器ヲ仕込ミタル物ニシテ被疑者ノ所有ニ係ルトキハ成ルヘク所有權ヲ拋棄スル旨ノ書面ヲ徵シ且領置又ハ押收物件目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條　領置又ハ押收シタル物件ニシテ留置ノ必要ナク被害者ニ還付スルヲ相當ト思料スルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、賍物ニシテ被疑者ノ手ニ現在スルトキハ其ノ承諾ヲ得テ直ニ被害者ニ假下ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ何時ニテモ提出スヘキ旨ノ請書ヲ徵スヘシ

二、賍物ニシテ被疑者以外ノ者ノ手ニ在ルトキハ其ノ承諾ヲ得テ被害者ト熟談返還ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ連署若クハ各別ニ受受ノ書面ヲ徵スヘシ

三、賍金ヲ以テ購求シ若クハ賍物ト交換シタル物又ハ原形ヲ變更シタル物ニ付テモ亦前二號ノ例ニ據ルコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ領置又ハ押收物件目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十八條　領置又ハ押收シタル物件ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノハ送致ノ手續ヲ爲サス檢事ノ指揮アルマテ便宜之ヲ保管シ領置又ハ押收物件目錄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

一、動植物其ノ他運搬ニ不便ナル物件

二、爆發物其ノ他運搬上危險ノ虞アル物件

三、事件ノ處理上送致ノ必要ナシト思料スル物件

前項ノ物件ハ時宜ニ依リ適當ノ者ニ保管セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ保管請書ヲ徵シ記錄ニ添付スヘシ（刑事訴訟法第百六十四條）

第四十九條　沒收スルコトヲ得ヘキ領置又ハ押收物件ニシテ腐敗滅盡又ハ危險ノ虞アル爲メ留置シ難キモノアルトキハ檢事ノ指揮ヲ受ケ權利者ノ承諾ヲ得テ換價又ハ廢棄處分ヲ爲スコトヲ得（刑事訴訟法第百六十四條第百六十五條規範第九十四條）

證明資料トシテ必要アリト思料スルトキハ其ノ處分前形體模樣等ヲ圖解若クハ撮影シテ記錄ニ添付スヘシ若シ物件中ニ腐敗ヲ來サヽル部分アルトキハ成ルヘク其ノ部分ノミヲ分離採取シテ之ヲ送付スヘシ

前二項ノ處分ヲ爲シタルトキハ領置又ハ押收物件目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五十條　證據物件ヲ還付シ又ハ假還付ヲ爲ストキハ樣式第二十四號ニ則リ請書ヲ徵スヘシ（規範第六十九條）

若シ代人ヲ以テ受取ラシトスルモノアルトキハ必ラス委任狀ヲ差出サシムヘシ

第五十一條　質屋取締法又ハ古物商取締法ニ依リ盜品若クハ遺失物等ノ領收還付ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分ノ顚末ヲ見ルニ足ルヘキ書類ヲ記錄ニ添付シ領置又ハ押收物件目錄備考欄ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第五十二條　被疑者不明ノ事件ニ係ル遺留品又ハ犯罪供用物件其ノ他保存ヲ要スヘキモノハ捜査繼續中當該官署ニ保管スヘシ但事件ノ公訴時效完成シタルトキハ所有者ニ還付シ所有者不明ナルトキハ遺失物ニ準シ適宜

相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五章　捜査事件ノ處理

第一節　事件ノ送致

第五十三條　被疑事件捜査ヲ終ヘタルトキハ樣式第二十五號乃至第二十八號ニ則リ送致書、證據物件總目錄、記錄目錄及意見書ヲ作成シ證據物件ト共ニ所轄檢事ニ送致スヘシ但規範第百十四條第百二十二條ニ該當スルモノヲ除キ微罪處分ヲ爲スコトヲ適當トスル事件ニ付テハ記錄送致ノ手續ヲ要セス（規範第百十三條）

第五十四條　記錄ハ左ノ順序ニ依リ編綴スヘシ

一、送致書
二、證據物件總目錄
三、記錄目錄
四、意見書

其ノ他ノ書類ハ受付又ハ作成ノ順序ニ依リ編綴シ意見書以下ノ書類ニハ毎葉ニ丁數ヲ附スヘシ

第五十五條　併合罪共犯其ノ他牽連關係アル犯罪事件ヲ同時ニ送致スルコト能ハサル事情アリテ別件ト爲シ送致スルトキハ送致書備考欄ニ其ノ旨附記スヘシ

第五十六條　事件送致後關係書類ヲ追送スルトキハ樣式第二十九號ニ則リ送致スヘシ

第五十七條　被疑事件ヲ送致スルニ當リ被疑者即決處分ノ言渡ヲ受ケ勾留又ハ留置中ナルトキハ送致書備考欄ニ其ノ旨ヲ記入シ且言渡書ノ謄本ヲ添付スヘシ

送致スヘキ事件ト即決ヲ爲シ得ヘキ事件ト刑法第五十四條ノ適用關係アルトキハ即決處分ヲ爲サス併テ之ヲ送致スヘシ

〔山梨警〕

第五十八條　被疑者不明ノ事件ハ送致ノ手續ヲ爲サス引續キ捜査スヘシ但檢證處分ヲ爲シタル事件特ニ檢事ノ指揮ニ依リ實況見分ヲ爲シタル事件告訴告發ニ係ル事件又ハ檢事ニ報告シタル事件其ノ他重要ナル事件ハ此ノ限ニ在ラス

司法警察官ノ職務ヲ行フ者ニ於テ處理シタル現行犯事件ハ被疑者不明ナル場合ト雖モ總テ之ヲ檢事ニ送付スヘシ

第五十九條　被疑者所在不明ト雖モ捜査ヲ終ヘタルトキハ第五十三條以下ノ手續ニ從ヒ總テ送致ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ被疑者ノ潜伏又ハ立廻先ヲ調査シタル報告書ヲ添付スヘシ殊ニ重要ナル事件又ハ各地ニ關係アル事件ニ付テハ成ルヘク被疑者ノ寫眞若クハ人相書ヲ添付スヘシ

被疑者ニ對シ勾引狀ノ發付ヲ必要トスルトキハ意見書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ（刑事訴訟法第百二十三條）

第六十條　前二項ノ場合ニ於テハ送致前必ラス關係人ノ取調又ハ物件領置其ノ他必要ナル捜査處分ヲ遂行シ證憑湮滅ノ虞ナキコトヲ期スヘシ

第六十一條　假出獄、刑執行猶豫、刑執行停止期間中ニ在ル被疑者位記勳章ヲ有スル被疑者在鄕軍人ナル被疑者ニ對スル事件ヲ送致スルトキハ送致書ニ其ノ旨ヲ表示スヘシ

第六十二條　事件送致後ト雖モ左ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ檢事ニ報告スヘシ

一、新ナル證憑又ハ參考資料ヲ發見シタルトキ
二、證憑湮滅又ハ逃走ノ虞アルトキ
三、餘罪ヲ發見シタルトキ
四、殺傷ニ關スル犯罪ニ付テハ被害者死亡若クハ生命危篤ニ陷リタルトキ

第二節　微罪處分

第六十三條　司法警察官又ハ其ノ職務ヲ行フ者規範第百十三條所定ノ場合ニ於テ微罪處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度樣式第三十號ニ則リ所轄檢事ニ報告スヘシ

第六十四條　微罪處分ヲ爲スニ當リ必要アルトキハ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一、被疑者ニ對シ嚴肅且懇篤ニ說諭ヲ加ヘ將來ヲ戒メ若シ改悛ノ實ナシト認ムルニ於テハ看過セサル旨ヲ警告シテ誓書ヲ徵スルコト
二、父兄雇主其ノ他適當ノ監督者又ハ指揮者ヲ立會ハシメ將來ノ監督ヲ引受ケシメ請書ヲ徵スルコト
三、被疑者ニ對シ賍物ノ返還損害ノ賠償謝罪其ノ他被害者ニ滿足ヲ與フル方法ヲ講セシムルコト
四、沒收スヘキ證據物件アルトキハ成ルヘク被疑者ヲシテ任意拋棄セシメ適當ノ處分ヲ爲シ又所有者不明ナルトキハ遺失物ニ準シ相當ノ處分ヲ爲スコト

第六章　令狀執行

第六十五條　勾引狀、勾留狀、逮捕狀ハ檢事ノ證印ヲ以テ執行指揮ノ證トス但判事ヨリ直接勾引狀勾留狀ノ執行指揮ヲ受ケタルトキ又ハ檢事ノ命令若クハ判事ノ囑託ニ因リ樣式第三十一號ニ則リ發シタル勾引狀又ハ檢事ノ命令ニ因リ發シタル逮捕狀出頭義務ヲ履行セサル證人ニ對シ自ラ發シタル勾引狀ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（刑事訴訟法第九十四條第百條第百二十三條第五百四十八條規範第百四條乃至第百八條）

第六十六條　勾引狀、勾留狀ノ執行ヲ爲スニ當リテハ左ノ事項ニ注意スヘシ

一、共犯其ノ他ノ關係上通謀ノ虞レアルモノナルトキハ各別ニ留置又ハ護送スルコト

〔山梨警〕

二、執行ノ際逃走ヲ企テ又ハ抵抗證憑湮滅等ノ行爲アリタルトキ又ハ自己若クハ共犯者ノ犯罪事實ニ關スル任意ノ陳述其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ聞知シタルトキハ之ヲ檢事ニ報告スルコト

第六十七條　勾引狀、勾留狀ノ執行指揮ヲ受ケタル後十五日以內ニ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ

若シ執行ノ見込ナキニ至リタルトキハ令狀ノ相當欄ニ其ノ事由ヲ記載シ又ハ別ニ報告書ヲ添ヘテ令狀ヲ返戾スヘシ

逮捕狀執行ノ指揮ヲ受ケ三十日以內ニ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ六ケ月ヲ過クルモ尙ホ執行スル能ハス且當分執行ノ見込ナキトキハ更ニ報告ヲ爲シ指揮ヲ請フヘシ

令狀ヲ返戾シタル後所在ヲ發見シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署ニ報告スヘシ（規範第百四條第百七條）

第六十八條　勾引狀、勾留狀、逮捕狀ノ執行ヲ爲シタルトキハ執行シタル場所及日時ヲ原本ノ相當欄ニ記入シ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事其ノ他ノ官署又ハ命令若クハ囑託ヲ爲シタル官署ニ差出スヘシ（刑事訴訟法第百九條第五百五十二條規範第百七條）

第六十九條　逮捕狀ノ執行ヲ受クヘキ者刑事訴訟法第五百四十六條各號ニ該當シ且逃走ノ虞ナシト認ムルトキハ執行前速ニ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

第七十條　勾引狀、勾留狀又ハ逮捕狀ノ執行ヲ受クヘキ者他ノ犯罪ニ因リ既ニ令狀ノ執行ヲ受ケタルトキ又ハ死亡入營其ノ他ノ事由ニ依リ執行スルコト能ハサルトキ若クハ時效完成シタルトキハ速ニ報告書ヲ添ヘ令狀ヲ返戾スヘシ死亡ノ場合ニ於テハ之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スヘ

シ

第七十一條　判事ヨリ直接交付ヲ受ケ又ハ判事ノ囑託ニ因リ發シタル令狀ヲ執行シタルトキハ速ニ之ヲ其ノ事件ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所檢事ニ報告スヘシ

第七十二條　勞役場留置ノ執行ニ著手スルトキハ本人ニ相違ナキヤ否ヲ確メ且一應罰金若クハ科料ノ納付ヲ諭告シタル後之ヲ執行スヘシ

勞役場留置ノ執行ヲ了リタルトキ又ハ執行ノ爲メ刑務所ヘ引渡シタルトキハ速ニ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告スヘシ

第七十三條　勞役場留置ノ執行ニ際シ刑事訴訟法第五百四十六條各號ニ該當スル事由アリト認メ又ハ執行中該事由ヲ發見シタルトキハ速ニ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第七十四條　勞役場留置ノ執行ニ際シ罰金、科料納付ノ延期又ハ分納ヲ申出タル場合ニ於テ相當ノ事由アリト認ムルトキハ速ニ執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

第七十五條　勞役場留置ノ執行著手前罰金科料ヲ完納セシトスル者アルトキハ其ノ額ニ相當スル收入印紙ヲ書留郵便ニテ直接本人ヨリ檢事局ニ送付セシメ其ノ旨ノ報告書ヲ添ヘテ留置執行指揮書ヲ返戻スヘシ但納付濟證ノ交付ヲ望ムトキハ別ニ郵便料ヲ同封セシムヘシ

第七十六條　勞役場留置ノ執行中罰金科料ノ分納ヲ爲サントスル者アルトキハ其ノ翌日ヨリノ留置日數ニ相當スル金額ヲ納付セシメ翌朝釋放スヘシ但即時釋放ヲ望ムモノアルトキハ當日分ヲモ納付セシメ直ニ釋放スルコトヲ得留置ノ日數一日ニ滿タサル金額ハ之ヲ分納セシムルコトヲ得ス

第七十七條　勞役場留置ノ執行ニ付テハ第六十七條第四項第七十條ノ規定ヲ準用ス

〔山梨營〕

第七章　少年事件ニ關スル特則

第七十八條　被疑者少年ナルトキハ規範第五十八條第一號乃至第四號竝ニ本細則第二十三條所定事項ノ外少年法第三十一條ノ事項ヲ調査スヘシ

第七十九條　少年ニ對スル被疑事件ニ付テハ特ニ祕密ヲ嚴守シ之ニ關スル一切ノ事項ヲ新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ニ揭載セシメサルコトニ注意スヘシ（規範第百十七條以下少年法第七十四條）

第八十條　少年ニ對スル被疑事件ヲ送致スル場合ニハ樣式第三十二條ニ則リ身上調査書ヲ作成シ記錄ニ編綴セス別封ト爲シ送付スヘシ

第八十一條　少年ノ被疑事件ニ付テハ送致書中被疑者氏名ノ肩書ニ少年ト朱書シ且刑事處分保護處分ノ何レヲ適當トスルヤヲ意見書ニ附記スヘシ

第八十二條　少年ヲ取調フルニハ特ニ溫和懇切ヲ旨トシ腹藏ナキ陳述ヲ爲サシメ且成ルヘク自尊心ヲ毀ケサルコトニ注意スヘシ

必要アリト認ムルトキハ保護者又ハ附添人ヲシテ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

第八十三條　少年ノ被疑事件ニ付テハ之ヲ保護處分ニ附スヘキヤ又ハ刑事處分ニ附スヘキヤヲ考慮スルニ足ルヘキ資料ヲ蒐集スルニ努メ尙ホ特ニ左ノ各號ニ注意スヘシ

一、父兄雇主等ニ就キ少年ノ性格日常ノ動作及之ニ對スル意見ヲ徵スルコト

二、少年ニ對シ保護者アルトキハ其ノ氏名、年齡、職業、住居及生活狀態、家庭ノ狀況ヲ調査スルコト

三、少年ヲ引致スル場合ニハ巳ムヲ得サルノ外制服ヲ著用セサル巡査ヲシテ引致セシムルコト

四、巳ムヲ得サル場合ノ外少年ノ犯罪事件ハ本籍地市町村役場警察官署其ノ他ニ通知セサルコト

前項第二號ノ保護者ナキトキハ學校長、寺院、教會、市町村長、青年團長、保護團體其ノ他適當ナル保護者ノ有無ヲ調査スヘシ

第八十四條　刑事處分ヲ必要トセサル少年ニシテ保護者ニ身柄ヲ引渡シ保護ヲ托シタルトキハ請書ヲ徵シ記錄ニ添付スヘシ

第八章　觀察

第八十五條　起訴猶豫、起訴中止、刑ノ執行猶豫、刑ノ執行停止、保釋、責付、勾留執行停止中ノ者ニ對シ檢事ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ其指定期間內之ヲ觀察スヘシ觀察ノ期間ヲ伸縮スル必要アリト認ムルトキハ檢事ニ報告シ指揮ヲ請フヘシ

假出獄者ニ對シ刑務所長ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ前項ニ準シ觀察ヲ爲スヘシ

第八十六條　觀察ハ其ノ本旨ニ從ヒ穩健妥當ナル方法ニ依リ之ヲ爲シ被觀察者ノ名譽信用ヲ損セサルコトニ注意スヘシ

第八十七條　觀察期間ヲ附シタル起訴猶豫者ニ對シテハ隨時其ノ行動ヲ觀察シ左ノ事項ヲ生シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

一、行狀不良ニシテ改悛ノ見込ナク處罰ノ必要アリト認メタルトキ

二、死亡轉居行衞不明又ハ氏名ヲ變更シタルトキ

三、軍人又ハ軍屬トナリタルトキ

第八十八條　起訴中止者ニ對シテハ公訴ノ時效完成ニ至ル迄其ノ家族親族知人トノ交通及通信ノ有無ニ注意シ所在發見ニ努ムヘシ

中止者ノ所在ヲ發見シタルトキ又ハ死亡ヲ知リタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

第八十九條　刑ノ執行猶豫者、刑ノ執行停止者又ハ假出獄者ニ對シテハ其ノ行動ヲ觀察シ左記事項ヲ生シタルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ

一、刑ノ執行猶豫ノ取消原因ヲ發見シタルトキ（刑法第二十六條）

二、刑ノ執行停止ノ原因消滅シタルトキ

三、假出獄ノ處分ヲ取消スヘキ原因ヲ發見シタルトキ（刑法第二十九條）

四、死亡轉居行衞不明又ハ氏名ヲ變更シ若クハ軍人軍屬トナリタルトキ

第九十條　保釋責付勾留執行停止中ノ刑事被告人ニ對シテハ常ニ其ノ行動ヲ觀察シ逃走又ハ證憑湮滅其ノ他取消原因アリト認ムルトキハ速ニ檢事ニ報告スヘシ（刑事訴訟法第百十九條）

第九十一條　要觀察者カ縣內ノ他ノ警察署管內ニ住居ヲ移シタルトキハ其ノ旨檢事ニ報告スル外管轄警察署ニ觀察ヲ移牒スヘシ

移牒ヲ受ケタル警察署ハ引續キ觀察ヲ爲スヘシ

要觀察者カ縣外ニ轉居シタルトキハ其ノ旨檢事ニ報告シ且當該管轄警察署ニ移牒シ觀察方ヲ囑託スヘシ

第九十二條　本章規定ノ觀察原由消滅シタルトキハ帳簿ニ其ノ消滅原由ヲ記入シ見易キ個所及索引ニ完結ト朱書スヘシ

第九章　帳簿及文書綴

第九十三條　司法警察官署ニ於テハ左ノ帳簿及文書綴ヲ備ヘ所定ノ期間之ヲ保存スヘシ

帳簿及文書綴ハ每年更新スルモノトス但適宜繼續使用スルヲ妨ケス

保存期限ハ最終ノ記入又ハ編綴ヲ終リタル翌月ヨリ起算スルモノトス

一、甲號犯罪事件簿　樣式第三十三號ノ一　永久保存

本簿ハ犯罪ノ發覺原因ノ如何ヲ問ハス又被疑者ノ分明不分明ヲ論セス規範第三十一條ニ依リ報告シタル事件ヲ卽時其ノ受理ノ順序ニ從ヒテ登錄シ之ニ樣式第三十三號ノ二ノ索引ヲ付シ以テ搜查ノ顚末ヲ明ニスルモノトス

二、乙號犯罪事件簿　樣式第三十四號　永久保存

本簿ハ犯罪發覺ノ原因如何ヲ問ハス甲號事件簿ニ登錄スル以外ノ事件ニシテ犯罪發覺ノ後三十日以内ニ被疑者分明ナラサル事件ヲ其ノ受理ノ順序ニ從ヒテ登錄シ之ニ樣式第三十三號ノ二ノ索引ヲ付シ以テ搜查ノ經過ヲ摘錄スルモノトス

三、犯罪事件送致簿　樣式第三十五號ノ一　永久保存

本簿ハ犯罪事件ヲ檢擧シテ檢事ニ送致シ又ハ微罪處分ヲ爲シタル事件ヲ其ノ日附順序ニ登錄シ樣式第三十五號ノ二ノ索引ヲ付シ其ノ結果ヲ記載スルモノトス

告訴告發自首ニ依リ規範第四十一條第四十五條ニ依リ送付スル場合モ亦同シ

四、變死者檢視簿　樣式第三十六號ノ一　二十年保存

本簿ハ檢事ノ命令ニ依リ變死者又ハ其ノ疑アル死體ニ付司法檢視ヲ爲シ樣式第三十六號ノ二ノ索引ヲ附シ其ノ顚末ヲ記載スルモノトス但檢視調書寫ヲ其ノ處分ノ順序ニ編綴シテ之ニ代フルコトヲ得

五、證據物件保存簿　樣式第三十七號　二十年保存

本簿ハ檢事局ニ送付セス警察官署ニ保存スル證據物件竝ニ犯人不明ニシテ搜查中ニ係ル事件ノ證據物件置去品等ヲ押收又ハ領置ノ順序ニ依リ登錄シ其ノ處分ヲ明ニスルモノトス

六、微罪處分人名簿　十年保存

本簿ハ微罪處分ヲ爲シタル都度作成シタル報告書（樣式第三十號）ヲ其ノ處分ノ順序ニ編綴シ名簿トナシ樣式第三十八號ノ索引ヲ附スルモノトス

七、起訴猶豫人名簿　十年保存

本簿ハ檢事ヨリ通知ヲ受ケタル通知書ヲ其ノ受理ノ順序ニ編綴シテ名簿ト爲シ樣式第三十九號ノ索引ヲ附スルモノトス

八、起訴中止人名簿　二十年保存

本簿ハ檢事ヨリ通知ヲ受ケタル起訴中止通知書ヲ編綴シテ名簿ト爲シ樣式第四十號ノ索引ヲ附スルモノトス

九、刑執行猶豫人名簿　樣式第四十一號ノ一　十年保存

本簿ハ檢事ヨリ通知ヲ受ケタル都度之ヲ登錄シ樣式第四十一號ノ二ノ索引ヲ附スルモノトス

一〇、刑執行停止人名簿　樣式第四十二號ノ一　十年保存

本簿ハ檢事ヨリ通知ヲ受ケタル都度之ヲ登錄シ樣式第四十二號ノ二ノ索引ヲ附スルモノトス

一一、假出獄人名簿　樣式第四十三號ノ一　十年保存

本簿ハ刑務所ヨリ通知ヲ受ケタル都度之ヲ登錄シ樣式第四十三號ノ二ノ索引ヲ附スルモノトス

一二、前科人名簿　樣式第四十四號ノ一　永久保存

本簿ハ自署管內在籍者ニシテ前科ヲ有スルモノ及自署取扱ニ係ル受刑者ヲ登錄シ別ニ樣式第四十四號ノ二ノ索引簿ヲ設クルモノトス

一三、常習犯罪者名簿　樣式第四十五號ノ一　永久保存

本簿ハ自署管內居住ノ常習犯罪者ヲ登錄シ別ニ樣式第四十五號ノ二ノ索引簿ヲ設クルモノトス

一四、不良少年人名簿　樣式第四十六號　永久保存

一五、未監置精神病人名簿　樣式第四十七號　永久保存

第十四號第十五號ノ名簿ハ自署管內居住者ヲ登錄シ何レモ樣式第四十七號ノ二ノ索引ヲ附スルモノトス

一六、人相識別簿　樣式第四十八號　永久保存

本簿ハ要注意人ノ寫眞人相等ヲ彙集登載シ樣式第四十八號ノ二ノ索引ヲ附スルモノトス

一七、甲號犯罪事件搜查ニ關スル書類綴　十五年保存

本綴ハ甲號犯罪事件簿ニ登錄シタル事件ニシテ未檢擧ニ係ル事件ノ記錄ヲ區分編綴シ樣式第四十九號ノ索引ヲ附スルモノトス

一八、乙號犯罪事件ニ關スル書類綴　十年保存

本綴ハ乙號犯罪事件簿ニ登錄シタル事件ノ記錄ヲ前號ニ準シテ編綴シ樣式第四十九號ノ索引ヲ附スルモノトス

一九、微罪處分記錄綴

本綴ハ處分順序ニ依リ編綴シ樣式第五十號ノ索引ヲ附スルモノトス

二〇、令狀綴

本綴ハ逮捕狀其ノ他ノ令狀及勞役場留置執行指揮書等ヲ編綴シ樣式第五十一號ノ索引ヲ附スルモノトス

二一、匿名申告書類

本綴ハ檢事ニ報告シ又ハ事件トシテ送致ノ價值ナキ報告ニ關スル書類ヲ受附順序ニ編綴シ樣式第五十二號ノ索引ヲ附スルモノトス

二二、搜查關係雜書類

本綴ハ第十七號第十八號第十九號以外ノ書類ヲ編綴シ樣式第五十三號ノ索引ヲ附スルモノトス　十年保存

二三、司法事務表記綴

本綴ハ司法事務ニ關シ提出シタル表記及參考ノ爲メ調製シタル諸表ノ控ヲ編綴スルモノトス　永久保存

二四、司法事務令達綴

本綴ハ司法警察事務ニ關スル一切ノ令達類ヲ編綴シ樣式第五十四號ノ索引ヲ附スルモノトス

司法警察官ノ職務ヲ行フ者ノ所屬官署ニ於テハ前項所定ノ第一號乃至第三號第五號第六號第十七號乃至第十九號及第二十一號乃至第二十四號ノ帳簿及文書綴ヲ備フヘシ

第十章　表記

第九十四條　司法警察官署及司法警察官ノ職務ヲ行フ者ノ所屬官署ハ左記表記ヲ調製シ所定ノ期日迄ニ檢事正及所轄檢事ニ提出スヘシ

一、犯罪事件搜查成績表　樣式第五十五號

本表ハ六ケ月毎ニ其ノ管內ニ於ケル發生事件及檢擧事件ヲ調查シ每年自一月分ハ七月十日迄ニ自七月分ハ翌年一月十日迄ニ差出スモノトス

二、勾留科料事件卽決處分表　樣式第五十六號

本表ハ六ケ月毎ニ自署ニ於テ處分シタル事件ヲ調查シ前號期日ニ準シ差出スモノトス

附　則

本則施行ノ際從來使用ノ帳簿用紙ニシテ餘分アルモノハ本則規定ノ要項ヲ具備スルモノニ限リ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

樣式目次

第一號……變死者檢視調書
第二號……告訴、告發、自首調書
第三號……告訴、告發、自首事件送付書
第四號……身上取調書
第五號……前科取調書
第六號……素行調查書
第七號……聽取書
第八號……領置目錄
第九號ノ一……實況見分書
第九號ノ二……搜查見分報告

第十號……逮捕調書
第十一號……逮捕手續書
第十二號……逮捕顚末書
第十三號……捜査調書
第十四號ノ一……押収調書
同　號ノ二……押収目錄
第十五號ノ一……捜査押収調書
同　號ノ二……押収目錄
第十六號ノ一……假押収調書
同　號ノ二……假押収目錄
第十七號……檢證調書
第十八號……被疑者訊問調書
第十九號……證人訊問調書
第二十號……鑑定人訊問調書
第二十一號……通事訊問調書
第二十二號……譯人訊問調書
第二十三號……物件小札
第二十四號……物件請書
第二十五號……事件送致書
第二十六號……證據物件總目錄
第二十七號……記錄目錄
第二十八號……意見書
第二十九號……關係書類追送書
第三十號……徴罪處分事件報告書
第三十一號……勾引狀
第三十二號……身上調査書（少年犯）
第三十三號ノ一……甲號犯罪事件簿
同　號ノ二……同事件簿索引
第三十四號……乙號犯罪事件簿（索引樣式第三十三號ノ二ニ同シ）
第三十五號ノ一……事件送致簿
同　號ノ二……同送致簿索引
第三十六號ノ一……變死者檢視簿
同　號ノ二……同檢視簿索引
第三十七號……證據物件保存簿
第三十八號……徴罪處分人名簿索引
第三十九號……起訴猶豫人名簿索引
第四十號……起訴中止人名簿索引
第四十一號ノ一……刑執行猶豫人名簿
同　號ノ二……同人名簿索引
第四十二號ノ一……刑執行停止人名簿
同　號ノ二……同人名簿索引
第四十三號ノ一……假出獄人名簿
同　號ノ二……同人名簿索引
第四十四號ノ一……前科人名簿
同　號ノ二……同人名簿索引
第四十五號ノ一……常習犯罪者名簿
同　號ノ二……同名簿索引
第四十六號……不良少年人名簿（索引樣式第四十七號ノ二ニ同シ）
第四十七號ノ一……未監置精神病者名簿

〔山梨警〕

同　號ノ二……同名簿索引
第四十八號ノ一……人相議別簿
同　號ノ二……同議別簿索引
第四十九號……犯罪事件捜査關係書類索引
第五十號……徴罪處分事件記錄索引
第五十一號……令狀緩索引
第五十二號……匿名申告書綴索引
第五十三號……捜査關係雜書綴索引
第五十四號……司法事務令達綴索引
第五十五號……犯罪事件捜査成績表
第五十六號……勾留科料事件即決處分表

〔山梨警〕

樣式第一號（半紙）

變死者檢視調書

大正　年　月　日某裁判所檢事ノ指揮ニ依リ變死者（又ハ變死ノ疑アル死體）ノ檢視ヲ爲スコト左ノ如シ

發見人ノ住所氏名年齡及其ノ申立ノ要旨	

（表）

變死者ノ本籍住所職業氏名年齡（不詳ノ場合ハ推定年齡）男女ノ別人相特徴ノ著衣）	變死ノ年月日時（不詳ノ場合ハ推定年月日時）	變死ノ場所及其ノ模樣	變死ノ狀態及原因	變死後經過ノ時間	所持金品ノ種類	參會醫師ノ氏名檢案ノ要領	檢視官認定意見	變死者竝所持金品ノ始末	備考

（裏面）

此檢視ハ本日午前後何時何分ニ始メ何時何分ニ（又ハ檢事ニ於テ犯罪事件トシテ檢證シタルニ依リ此處分ヲ）終ル

右檢視ヲ了シ此調書ヲ作ルモノナリ

注　意（檢視中犯罪アルコトヲ發見シ引續キ自ラ檢證處分ヲ行フ場合ハ

此調書ヲ作成スルニ及ハス）

年　月　日　於某署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

（半紙罫紙）

樣式第二號

告訴（增減變更）調査（告發又ハ自首調書モ之ニ準ス）

住居　職業　氏　名　年齡

右ノ者大正　年　月　日　午前後何時當署（所）ヘ出頭何々事件ニ付口頭ノ告訴ヲ爲シタルニ付（口頭ヲ以テ告訴ノ增減又ハ變更ノ申立ヲ爲シタルニ付）其取調ヲ爲シタリ

一、何々

一、何々

問　被疑者何某ト親族、後見人、雇人、同居人等關係ナキヤ（增減變更ノトキハ不用）

答　何々

問　告訴（告發又ハ自首）ノ事實ヲ證明スヘキ物件アラハ提出セヨ

答　何々

（此時證據トシテ何々ヲ差出シタルニ付之ヲ領置ス）

問　何々

答　何々

右錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立署名捺印シタリ

（又ハ無筆無印ニ付代書拇印セシム）

〔山梨警〕

告訴（告發自首）人　氏　名印

年　月　日　於某署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

樣式第三號

（半紙）

告訴（告發自首）事件送付書

件名	住居職業氏名年齡
	住居職業 告訴（告發自首）人　氏　名　年齡
	住居職業 被告（被告發）人　氏　名　年齡

右司法警察職務規範第四十一條ニ依リ送付候也

大正　印　年　月　日　某署（所）

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

某裁判所檢事　某　殿

（表面）

（裏面）

書類目錄	證據物件目錄	備考

〔山梨警〕

樣式第四號　（身上取調書）　（半紙）

府縣郡市町村番地職業　氏　名　年齡

右ノ者ニ對スル左記ノ事項取調ノ上各欄ヘ記入返戻又ハ（某）裁判所檢事局ニ回送相成度及照會候也

但本籍氏名等ニ多少ノ相違アルモ之ニ該當スヘシト思料セラルル場合ハ本文ニ準シ取調ヘ相成度若轉籍又ハ寄留者ニ係ルトキハ在籍地役所役場ヘ轉送相成度候

追テ本人不在籍ノ場合ハ其ノ旨備考欄內ニ記入シ本紙返戻相成度候

大正　年　月　日　某署　印　（所）

右所轄市區役所町村役場御中

（表面）

（裏面）

裁判ノ日及廳名	對席ノ別	罪名	刑名刑期金額
前科 年月日裁判所	席		
前科 年月日裁判所	席		
前科 年月日裁判所	席		
前科 年月日裁判所	席		
前科 年月日裁判所	席		
前科 年月日裁判所	席		
前科 年月日裁判所	席		

本籍	出生地	住居	官吏公吏議員	位記勳章記章	兵籍	年金恩給扶助料隱退料	資產有無	特徵	戶主及父母兄姉弟妹氏名
氏名 本字	假名	生年月日職業							

備考	
	右及回答候也 大正　年　月　日 検事局御中

本人ノ素行家出ノ年月日或ハ旅行出稼先其他参考トナルヘキ事項ハ備考欄内ニ記入セラレタシ

様式第五號　前科取調書　（半紙）

（表　面）

府縣郡市町村番地職業
氏　名
年　齢

右ノ者ニ對スル前科取調ノ上左ノ各欄ヘ記入返戻（又ハ某裁判所検事局ニ回送）有之度及照會候也

大正　年　月　日　某署印（所）

某地方裁判所検事局御中

本籍	
出生地	
氏名	
生年月日	年　月　日生
職業	

（裏　面）

裁判、確定、執行終了免除ノ日	判所	罪名	刑名刑期金額	犯數	恩蔽ノ事項其ノ他	備考
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日				犯		
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日						
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日						
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日				犯		
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日				犯		
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日				犯		
年　月　日　席 年　月　日確定 年　月　日				犯		

様式第六號　素行調書　（半紙）

（表　面）

住居職業	住居職業
氏名年齢	氏　名 年齢
經歷	出生生育ノ狀態及來歷等ヲ記ス
通稱、綽名、藝名	
前科其ノ他ノ處分	前科、起訴猶豫、微罪處分ノ有無竝ニ恩赦ヲ受ケタルコトノ有無ヲ記ス
教育ノ程度	尋常小學校卒業又ハ同卒業程度等
性質行狀	性質行狀嗜好習癖ニ付精密ナル調査ヲ遂ケ具體的事實ヲ基礎トシテ記載スルコト
家庭ノ狀態	家族ノ數、續柄及睦否ノ狀況ヲ記ス
資産及生活ノ狀態	被疑者所有ノ動産不動産其他ノ收入及負債ヲ調査シ生活狀態ヲ明ニスヘシ尚ホ戶主家族及同居者ノ所有財産竝所得及負債ヲモ調査スヘシ

右及回答候也
大正　年　月　日
某署（所）検事局御中

（裏　面）

交際及信用	平素ノ交際者又ハ出入者ノ氏名及其ノ狀態竝社會上ニ於ケル地位信用ヲ記ス
系統及健康狀態	
宗教及兵役關係	
犯罪ノ常習特技	賭博常習詐欺賭博又ハ掏摸忍込等ノ特技アレハ其ノ方法ヲ詳記スルコト
犯罪ノ動機	貧困ノ爲メ怠惰ノ爲メ等具體的詳細ナル調査ヲ爲スコト
犯罪後ニ於ケル改悛ノ有無	一時ノ出來心ヨリ爲シタルモノニシテ犯罪後家人若ハ隣人ニ向ヒ後悔ノ意ヲ表シ居ルカ如キ事實ヲ調査スルコト
其他參考トナルヘキ事項	

右調査ス

年　月　日　於某署（所）

印

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官氏名印

（注意本調書ノ各事項ニ付特ニ調査ニ從事シタル者アルトキハ其職員ノ氏名ヲ附記スヘシ）

様式第七號　聽取書　（第二回以後ノ分ハ第何回ト記スヘシ）　（半紙竪紙）

本籍住居職業

氏　名
年齢

右ノ者大正　年　月　日本職ニ對シ左ノ通任意陳述ヲ爲シタリ

一、何々

一、何々

問　何々（特ニ記憶ヲ喚起セシムル爲又ハ供述ヲ描寫スルノ必要ヲ認メタルトキハ適宜問答體ニ錄取スルモ妨ナシ）

答　何々

右錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨承認シ署名捺印シタリ

（又ハ無筆無印ニ付代書拇印セシム）

陳述人　氏　名印

年　印　月　日　於某署（所）

司法警察吏
（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

樣式第八號

領置目錄　（半紙）

被疑者（又ハ被告人）某何々事件ノ證據品トシテ其ノ（又ハ所有者）承諾ヲ得テ左記物件ヲ領置ス

（表面）

大正　印　年　月　日　於某署（所）

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名（印）

〔山梨警〕

（裏面）

番號	品目	員數	差出人ノ住居氏名	所有者ノ住居氏名	備考
					（保管、還付、假下、還付ヲ望マス）

樣式第九號ノ一

實況見分書　（半紙罫紙）

被疑者（又ハ被告人）某何々事件搜査上必要ニ付大正　年　月　日某郡市町村某方ニ到リ戶主某（又ハ監守者某）ノ承諾ヲ得テ某立會ノ上何々ノ場所（物件）ノ實況ヲ見分スルコト左ノ如シ

一、場所ハ何々

二、被害ノ模樣ハ何々

三、何所ニ於テ發見シタル物件ハ何々ノ痕跡アリテ某ニ於テ何々シタルモノト認メ得ルヲ以テ本件ノ證據トシテ某ノ承諾ヲ得テ之ヲ領置ス（若シ發見物ナキトキハ其ノ旨ヲ記載ス）

此見分ハ本日午前後何時ニ始メ何時ニ終ル

〔山梨警〕

年　印　月　日

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

某所ニ於テ

立會人　氏　名印

樣式第九號ノ二　（半紙）

大正　年　月　日

某署（所）

司法警察吏
（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）　職氏　名印

搜査見分報告

（表面）

罪名	被疑者住居職業氏名年齡	犯罪日時	犯罪場所	原因	被害程度	犯罪手段方法
屆出月日　大正　年　月　日		大正　年　月　日午前後　時				

（裏面）

被疑者住居職業氏名年齡	證據品及遺留品	人相特徵著衣

樣式第十號

逮捕調書　（半紙罫紙）

大正　年　月　日午前後何時何分司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某ハ何々現行犯罪事件ノ被疑者某ヲ當署（所）ニ引致シ逮捕ノ事由ヲ申立ツルコト左ノ如シ

一、逮捕事由（現行犯人ヲ認知シタル顚末竝ニ逮捕條件刑訴第百二十四條）

二、被疑者ノ氏名年齡本籍住居職業

三、犯罪事實ノ概要

右讀聞カセタル處相違ナキ旨申立ツルニ付共ニ署名捺印ス

年　印　月　日　何々官署

逮捕者　司法警察吏
（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）　職　氏　名印

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

樣式第十一號

年　月　日　於某署（所）　（半紙罫紙）

司法警察吏
（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）　職　氏　名印

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名殿

逮捕手續書

大正　年　月　日午前後何時何分某所ニ於テ職務執行中兇器ヲ携帶シ且ツ

被服ニ血痕アリテ犯人ト思料スヘキ（其ノ他刑訴第百三十條ノ現行犯ト思料スヘキ條件）現行犯人ヲ認メ逃走ノ虞アリ（逮捕ノ條件刑訴第百二十四條）タルニ付之ヲ逮捕シ取調タル處左記申立ヲ爲シタリ

一、被逮捕者ノ住居職業氏名年齢

二、犯罪事實ノ云々ノ類

仍テ證據物件相添ヘ引致報告候也

右逮捕事由ニ付取調ヘタル處前記ノ通リ相違ナキヲ以テ之ヲ調書ニ代ヘ共ニ署名捺印ス

年　月　日　印

何々官署

逮捕者　司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）職　氏　名印

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

（半紙罫紙）

樣式第十二號

逮捕顚末書

大正　年　月　日午前後何時何分某所何某（逮捕者ノ氏名住居）ハ何々現行犯人ヲ引致シ逮捕事由ヲ申立ツルコト左ノ如シ

一、被逮捕者ノ住居職業

氏　名　年齡

二、逮捕ノ日時場所

三、逮捕ノ事由

（犯罪事實竝其ノ現行ヲ認メタル顚末ヲ詳述セシムヘシ刑訴第百二十五條）

四、證據ノ提出

何々

右事實相違ナキヲ認ムルヲ以テ被疑者某及證據物件ヲ受取リ此ノ顚末書ヲ作成シ共ニ署名捺印シタリ（無筆無印ニ付代書捺印セシム）

年　月　日　印

逮捕者　氏　名印

何々官署

司法警察官（吏）

（又ハ司法警察官（吏）ノ職務ヲ行フ）官（職）氏　名印

樣式第十三號

捜索調書

（半紙罫紙）

大正　年　月　日　時　分司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付現行犯人ヲ逮捕シ（又ハ受取リ其ノ他刑訴第百七十條又ハ第百七十一條所定ノ捜索ヲ爲シ得ヘキ所定ノ條件）急速ヲ要スルヲ以テ某所ニ於テ何某ノ立會ヲ得テ捜索ヲ爲スコト左ノ如シ

一、捜索ノ場所又ハ物

二、捜索ノ結果

何々（押收スヘキモノヲ發見セス）

三、捜索ノ時

自午　時　分

至午　時　分

四、猶豫スヘカラザル場合ニ於テ日出前日沒後ニ捜索ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スルコト（刑訴第百五十五條第二項）

年　月　日於某所

何々官署

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某　名印

立會人　氏　名印

（注意）判事ノ命令狀又ハ檢事ノ指揮ニ因リ此ノ處分ヲ爲ストキハ冒頭ニ其ノ命令狀又ハ指揮ニ因ル旨ヲ表示スヘシ

（半紙罫紙）

樣式第十四號ノ一

押收調書

大正　年　月　日　時　分司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付現行犯人ヲ逮捕シ（又ハ受取リ其ノ他刑訴第百七十條又ハ第百七十一條所定ノ押收ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件）急速ヲ要スルヲ以テ某所ニ於テ何某ノ立會ヲ得テ押收ヲ爲スコト左ノ如シ

一、押收物ノ品目竝其ノ發見場所

（別紙目錄ノ通）

二、押收ノ時

午　時　分

三、猶豫スヘカラサル場合ニ於テ日出前日沒後ニ押收ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スルコト（刑訴第百五十五條第二項）

年　月　日於某所

何々官署

司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）官　氏　名印

立會人　氏　名印

（注意）判事ノ命令狀又ハ檢事ノ指揮ニ因リ此ノ處分ヲ爲ストキハ冒頭ニ其ノ命令狀又ハ指揮ニ因ル旨ヲ表示スヘシ

樣式第十四號ノ二　押收目錄

（半紙黃色紙）

番號	品目	員數	差出人住居氏名	所有者住居氏名	備考

樣式第十五號ノ一

捜索押收調書

（半紙罫紙）

大正　年　月　日　時　分司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)某ハ何々被疑事件ニ付現行犯人ヲ逮捕シ(又ハ受取リ其ノ他刑訴第百七十條又ハ第百七十一條所定ノ捜索押收ヲ爲シ得ヘキ法定條件)急速ヲ要スルヲ以テ某所ニ於テ何ノ某ノ立會ヲ得テ捜索押收ヲ爲スコト左ノ如シ

一、捜索ノ場所又ハ物

二、捜索ノ結果左ノ物件ヲ發見シタリ

押收ノ品目(別紙目錄ノ通)竝其ノ發見場所

三、捜索及押收ノ時

自午　時　分
至午　時　分

四、猶豫スヘカラサル場合ニ於テ日出前日沒後捜索押收ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ(刑訴第百五十五條第二項)

大正　年　月　日於某所

何々官署(所)

司法警察官
(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)　官　氏　名印

立會人　氏　名印

(注意)判事ノ命令狀又ハ檢事ノ指揮ニ因リ此ノ處分ヲ爲ストキハ冒頭ニ其ノ命令又ハ指揮ニ因ル旨ヲ表示スヘシ

樣式第十五號ノ二　押收目錄　(半紙黃色紙)

番號	品目	員數	差出人住居氏名	所有者住居氏名	備考

〔山梨警〕

樣式第十六號ノ一　(半紙罫紙)

假押收調書

大正　年　月　日　時　分某所ニ於テ司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)某ハ何々被疑事件ニ付押收(又ハ捜索)ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル左記證據物件ヲ發見シタルヲ以テ假押收スルコト左ノ如シ

一、假押收物ノ品目竝其ノ發見場所

(別紙目錄ノ通)

二、假押收ノ時

午　時　分

大正　年　月　日於某所

何々官署(所)

司法警察官
(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)　官　氏　名印

樣式第十六號ノ二　假押收目錄　(半紙黃色紙)

番號	品目	員數	差出人住居氏名	所有者住居氏名	備考

〔山梨警〕

樣式第十七號　(半紙罫紙)

檢證調書

大正　年　月　日司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)某ハ何々被疑事件ノ現行犯人ヲ逮捕シ(又ハ何某ノ住居内ニ何々現行犯アルコトヲ認知シ若ハ變死者ノ檢視ニ依リ犯罪アルコトヲ發見シ檢事ノ指揮ヲ受ケ等刑訴第百八十條乃至第百八十二條所定ノ司法警察官カ檢證ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件ヲ明記スルコト)急速ヲ要スルヲ以テ檢證ヲ爲スコト左ノ如シ

注意　刑訴第百四十七條、第百五十七條、第百七十六條ノ第三項、第百七十七條ノ場合ニ於テハ承諾者又ハ立會人ノ氏名ヲ表示スヘシ

(文例)本檢證ニハ住居主何某ヲ立會ハシメタリ

檢證調書ノ内容ハ犯罪ノ種類檢證ノ目的ニ依リ一樣ナラスト雖モ一般ノ場合ヲ例示スレハ左ノ如シ

一、檢證ノ場所

犯罪ノ種類又ハ性質ニ依リ場所ガ重大ノ關係ニアル場合ニ於テハ成ルヘク詳細ニ其ノ位置ヲ説明シ尙圖面ヲ添付スヘシ

二、被害現場ノ模樣

家屋ノ構造其ノ他兇行現場ノ模樣ヲ詳細ニ記載シ指紋、足跡、血痕其ノ他捜査ノ端緒トナルヘキ情況ヲ發見シタルトキハ適宜之レガ保全處分ヲ爲シ必要アルトキハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ其ノ旨記載スヘシ

三、被害ノ情況

殺傷事件ニ付テハ被害者ノ創傷ノ部位、形狀、豫後ノ經過(又ハ死因竝ニ死後ノ經過時間)、兇器ノ種類等ヲ明確ニシ醫師ヲシテ鑑定セシメ其ノ旨調書ニ記載スヘシ其ノ他ノ犯罪ニ付テハ被害ノ程度、公共危險ノ程度、犯罪ノ手段、用器ノ種類其ノ他犯罪ノ證明又ハ捜査ノ端緒トナルヘキ一切ノ情況ヲ明確ニシ必要アルトキハ部分圖又ハ寫眞ヲ添付スヘシ尙鑑定人ヲシテ鑑定ヲナサシメタルトキハ其ノ旨記載スヘシ

四、現場ニ於ケル證據物件

現場ニ於テ證據物件ヲ發見シタルトキハ發見ノ場所品目ヲ明ニシ尙別ニ押收調書ヲ作成スヘシ

五、現場ニ於テ關係人ヲシテ檢證事項ニ付キ説明又ハ指示ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ要旨ヲ記載スヘシ特ニ詳細ナル取調ヲ爲ス必

要アル場合ハ別ニ證人訊問調書ヲ作成スヘシ

六、此ノ檢證ハ同日午前　時　分ヨリ始メ午前　時　分ニ終ル
後　時　分ヨリ始メ午後　時　分ニ終ル

大正　年　月　日於某所
何々官署（所）

司法警察官　官　氏　名印
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）
立會人　氏　名印

（半紙竪紙）

樣式第十八號

被疑者訊問調書（第二回以後ノ分ハ第何回ト記スヘシ）

被疑者

大正　年　月　日司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付現行犯人ヲ逮捕シ（又ハ受取リ）某所ニ於テ司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上右被疑者ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

（注意）第二回以後ノ訊問調書ハ左ノ文例ニ據ルヘシ

（文例）

大正　年　月　日司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上前回ニ引續キ訊問スルコト左ノ如シ

一、問　氏名、年齡、職業、住居、本籍及出生地ハ如何
答　氏名ハ
年齡ハ
職業ハ
住居ハ
本籍ハ
出生地ハ

二、問（先ツ被疑事件ヲ告ケ辯解ヲ求ムルコト）
答　何々
三、問　何々
答　何々
四、問　何々
答　何々
五、問（終リニ被疑者ニ對シ利益トナルヘキ證據ヲ提出及申立ノ有無ヲ問フコト）
答　何々

右錄取シ讀聞カセタル處相違ナキ旨申立署名捺印シタリ（無筆無印ニ付代署捺印セシム）

被疑者　氏　名印

即日　印　何々官署（所）

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印
司法警察吏
（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）　職　氏　名印

（半紙竪紙）

樣式第十九號

證人訊問調書（第二回以後ノ分ハ第何回ト記スヘシ）

證人

大正　年　月　日司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付（刑訴第二百十四條所定ノ證人訊問ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件ヲ明記スルコト）急速ヲ要スルヲ以テ某所ニ於テ司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上右證人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一、問　氏名、年齡、職業及住居ハ如何
答　氏名ハ
年齡ハ
職業ハ
住居ハ

（刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ）

二、問　何々
答　何々

以下樣式第十八號ニ準ス

（注意）第二回以後ノ訊問調書ハ左ノ文例ニ據ルヘシ

（文例）

大正　年　月　日司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付（刑訴第二百三十六條第二百二十八條第二百十四條所定ノ通事ノ訊問ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件ヲ明記スルコト）急速ヲ要スルヲ以テ某署ニ於テ司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上前回ニ引續キ訊問スルコト左ノ如シ

一、問　氏名、年齡、職業及住居ハ如何
答　氏名ハ
年齡ハ
職業ハ
住居ハ

（刑訴第二百三十六條第二百二十八條第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ）

二、問　何々
答　何々

樣式第二十號

鑑定人訊問調書

鑑定人

大正　年　月　日司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付（刑訴第二百二十八條第二百十四條所定ノ鑑定人ノ訊問ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件ヲ明記スルコト）急速ヲ要スルヲ以テ司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上右鑑定人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一、問　氏名、年齡、職業及住居ハ如何

答　氏名ハ

年齡ハ
職業ハ
住居ハ

（刑事訴訟法第二百二十八條第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ）

（半紙竪紙）

樣式第二十一號

通事訊問調書

通事

大正　年　月　日司法警察官（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）某ハ何々被疑事件ニ付（刑訴第二百三十六條第二百二十八條第二百十四條所定ノ通事ノ訊問ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件ヲ明記スルコト）急速ヲ要スルヲ以テ某署ニ於テ司法警察吏（又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ）某立會ノ上右通事ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一、問　氏名、年齡、職業及住居ハ如何
答　氏名ハ
年齡ハ
職業ハ
住居ハ

（刑訴第二百三十六條第二百二十八條第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ）

二、問　何々
答　何々

（半紙竪紙）

樣式第二十二號

鐵道人訊問調書

鐵道人

大正　年　月　日司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)某ハ何々被疑事件ニ付(刑訴第二百三十六條第二百二十八條第二百十四條所定ノ繼譯人ノ訊問ヲ爲シ得ヘキ法定ノ條件ヲ明記スルコト)急速ヲ要スルヲ以テ某所ニ於テ司法警察吏(又ハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ)某立會ノ上右繼譯人ニ對シ訊問スルコト左ノ如シ

一、問　氏名、年齢、職業及住居ハ如何

答　氏名ハ

年齢ハ

職業ハ

住居ハ

(刑訴第二百三百三十六條第二百二十八條第二百一條ノ規定ニ該當スルモノナリヤ否ヲ取調ヘ其ノ關係ヲ記載スヘシ)

二、問　何々

答　何々

樣式第二十三號

(一寸三分)

(二寸五分)

件名及被疑者氏名	
第　號	
差出人	

紙質ハ强靱ナルモノヲ用ユヘシ

(山梨警)

(注意)

一、物件ノ種類ニ依リテハ木札(本樣式小札ヲ貼付ス)ヲ用ユルコト

二、物件ヲ保管スルニ付テハ本樣式小札ノ剝離セサル樣注意ヲ要ス

三、證書類ノ如キモノニ本樣式小札ヲ貼付スルニハ其右方上端ノ部位ニ貼付スルコト但シ證書ノ文字ニ掛ラサル樣注意スルコト

樣式第二十四號

(半紙半截)

請書

(番號、品目、員數ヲ目錄ノ通リ記出スルコト)

右(假ニ)御還付相成正ニ領收候也

但シ御用ノ節ハ何時ニテモ提出可致候(假還付ノトキハ此記載ヲ要ス)

年　月　日

某所　氏　名印

某所(署)

司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)　某　殿

樣式第二十五號

(半紙)

(表面)

第號	某署(所、隊)		
現行(非現行)犯罪事件送致書(被疑者同行ノ時ハ氏名ノ上部ニ赤○印ヲ付ス)			
罪名	假出獄、刑執行停止、刑執行猶豫者ノ有無	在鄕軍人又ハ位勳功等ノ有無	被疑者氏名
逮捕日時	大正　年　月　日午　時　分		
勾引狀發付日時	大正　年　月　日午　時　分		
釋放日時	大正　年　月　日午　時　分	(假出獄者)	(在鄕軍人)	(何ノ某)
前科			
法律適條			
戶籍調			
素行調		(刑執行猶豫者)	(有勳者)	(何ノ某)
取調中又ハ照會中ノ事項			

(山梨警)

(裏面)

備考	

右別紙目錄ノ通及送致候也

大正　年　月　日

某署(所、隊)

司法警察官(又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ)　官　氏　名印

某裁判所檢事(正)　某　殿

様式第二十六號

（半紙）

（面　裏）

證據物件總目錄			
號　番	品　目	員　數	住ハ被疑者ノ居所氏名又ハ差押物件ヲ出シタル者ノ氏名	丁領收目錄ヲ作リタル官吏又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ者ノ官氏名	檢事局記錄號	被疑者氏名
					大正　年（檢）第　號	
					處分年月日及其事由	
					檢事	

（面　表）

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第二十七號　記錄目錄

（半紙）

文書ノ標目	丁數	備考
被疑者訊問調書		
證人訊問調書		
被疑者訊問調書		
被疑者供述書		

様式第二十八號

（半紙原紙）

大正　年　月　日於某署（所）

印

別封トシテ記錄ト同時ニ送致スヘキ本書ニ付左ノ旨ヲ表示シ若クハ之ヲ相當ナリト思料スルトキハ本書ニ徴シ（注意）起訴猶豫、微罪處分又ハ刑ノ執行猶豫ヲ以テ其ノ旨ヲ記載スヘシ）

（司法警察官ノ職務ヲ行フ者）官氏名印

第一、犯罪後ノ情狀（處罰ノ要否及ヒ最刑ノ査料トナルヘキ犯情ヲ記載スヘシ）

第二、前科ノ有無若シアルトキハ其ノ罪名、刑名、刑期、年齢、住居、職業

第三、位勳、功、爵、資產、職業、賞罰、恩給、年金ノ有無若シアルトキハ其ノ罪名及年月日ヲ記載スルコト（起訴猶豫、微罪處分ヲモ前科ニ準シ記載スルコト）

第四、犯罪事實（數個ノ犯罪アルトキハ各項ヲ分テ記載スヘシ）

第五、證據ノ標目

第六、法律ノ適用

第七、犯罪ノ情狀（處罰ノ要否及ヒ最刑ノ査料トナルヘキ犯情ヲ記載スヘシ）

意見書

（半紙）

様式第二十九號

（半紙半截）

書類	送付年月日	作成名	關係書類送致書
	大正　年　月　日		
被疑者氏名			

某裁判所檢事某殿

（司法警察官又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）

印

大正　年　月　日

某署（所）

官氏名印

樣式第三十號　（半紙）

大正　年　月　日報告

某　署（所）

司法警察官
（又ハ司法警察官ノ職務ヲ行フ）　官　氏　名印

（表　面）

第　號	微罪處分事件
罪　名	被疑者 本籍住所 族稱 職業 氏名 年齡
發覺原因	
釋放年月日	
觀察期間	
犯罪事實ノ概要及處分ノ理由	

（裏　面）

前科又ハ微罪起訴猶豫	
賍物ノ處分又ハ賠償方法	
犯罪供用物件ノ處分	
性行及ヒ教育ノ程度	
資產及家庭ノ狀況	
監督者ノ住居氏名及被疑者トノ關係	
備考	

〔山梨警〕

樣式第三十一號　（半紙半截）

勾引狀

住居職業	
氏名	
年齡	
某裁判所檢事某ノ命令（又ハ判事某ノ囑託ニ依リ）何々ニ付某署ニ勾引ス	
年月日	
於某署	
印	司法警察官
官氏名	

執行シタル場所	執行シタル日時	執行スルコト能ハサルトキハ其事由
	大正　年　月　日　午　時　分	

右ノ通取扱候也

大正　年　月　日

官署名

司法警察吏職　氏　名印

引致日時	受命受託官署
送致日時	命令囑託官署
	大正　年　月　日午　時　分

〔山梨警〕

樣式第三十二號　（半紙）

身上調查書

（表　面）

本籍	戶主トノ續柄
住所	職業
出生地	氏名
	生年月日
出生以後ノ成長ニ關スル境遇	本人成育ノ狀態即チ實父母ノ許ニ養育セラレタルヤ或ハ繼母若クハ繼父ノ手ニ養育セラレシヤ或ハ他家ニテ養育セラレシヤ或ハ他家ノ養子トナリシヤ等出生ヨリ今日ニ至ル成長ノ狀況ヲ記入スルコト
交際人物其ノ素行	平素交際スル友人ノ誰ナルヤ及其友人等ノ素行ヲ記入スルコト
家庭ノ狀態	家族ノ氏名、族稱、職業等ヲ記入シ殊ニ素行不良ノ者アレハ其ノ狀況ヲ記載シ又本人ト他ノ家族等ノ折合殊ニ平素虐待ヲ受ケシコトナキヤ否或ハ父母又ハ祖父母ヨリ過愛セラレ節制ヲ缺キタルコトナキヤ否ヲ詳記シ家庭全體ノ狀況ヲ精細明瞭ナラシムルコト
保護監督ヲ爲ス親族故舊ノ有無	保護監督ノ誰ナルヤ及其ノ人ノ素行及社會上ノ信用等ヲ記入スルコト

（裏　面）

本人ノ經歷	本人七八歳以後今日ニ至ルマテノ生活狀態卽チ小學校ニ通學セシコトアリヤ又ハ他家ニ奉公セシヤ或ハ如何ナル職業ニ從事セシヤ或ハ父母ノ許ニ衣食セシヤ又ハ通學ヲ嫌忌シ廢學セシ等本人ノ經歷ニ關スル一切ノ事項ヲ記入スルコト
本人ノ性質行狀	本人ノ性質及平素ノ行狀ヲ記入スルコト
教育ノ程度	本人ノ教育程度ヲ具體的ニ記入スルコト
犯罪ノ動機	如何ナル理由ニ基キ犯罪ヲ爲スニ至リタルヤ其ノ動機ヲ記入スルコト
心神ノ狀況	本人ノ身體及精神ノ發育狀態殊ニ心神ニ缺陷ナキヤ否ヲ調査シ詳細記入スルコト
資產ノ狀態	本人及戶主父母等ノ財產狀態及生活ノ程度ヲ記入スルコト
本調書各事項ヲ取調ヘタル職員氏名	

大正　年　月　日

司法警察官　何　某印

〔山梨警〕

樣式第三十三號ノ一（甲號犯罪事件簿）

（表　面）

第　號

受理年月日	罪名	發覺原因	犯罪年月日	檢證行否	證據物件	終局			犯罪事件送致簿番號
年月日						檢擧年月日	時效	其他	大正　年度第　號
署長印									
主任印									

犯罪ノ場所及方法	被害概況

被疑者本籍地住居職業氏名年齡	被害者ノ住所氏名	備考

（美濃紙）

（裏　面）

搜査經過摘錄

（注　意）

一、本簿ハ發覺原因ノ如何ヲ問ハス又被疑者ノ分明不分明ヲ論セス規範第三十一條及本則第七條ニ依リ報告シタル事件ヲ卽時其ノ受理ノ順序ニ從ヒテ登錄シ之ニ樣式第三十五號ノ二ノ索引ヲ附シ以テ搜査ノ顚末ヲ明ニスルモノトス

二、事件ヲ檢事ニ送致セントスルトキハ備考欄ニ其ノ旨ヲ記入シ更ニ犯罪事件送致簿ニ所要ノ登錄ヲ爲シタル上其ノ手續ヲ爲スコト

〔山梨警〕

樣式第三十三號ノ二（甲乙號犯罪事件簿索引）

（表　面）

進行番號	罪名	被害者氏名	被疑者氏名	終了年月日	終局區分	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

（美濃紙）

樣式第三十四號（乙號犯罪事件簿）

（美濃紙）

第　號

（表面）

受理年月日	年月日	署長認印	主任認印
罪名			
發覺原因			
被害年月日			
檢證行否			
證據物件			
終局	檢擧年月日	年月日（某）署	
	時效	年月日	
	其他	（死亡）等	
犯罪事件送致簿番號	大正　年度第　號		

被害者ノ住居氏名	搜査ノ經過摘錄	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

（注意）

一、本簿ハ發覺原因ノ如何ヲ問ハス甲號事件ニ登錄スル以外ノ事件ニシテ犯罪發覺後三十日以内ニ被疑者分明ナラサル事件ヲ其ノ受理ノ順序ニ從ヒテ登錄シ樣式第三十五號ノ二ノ索引ヲ付シ以テ搜査ノ經過ヲ摘錄スルモノトス

二、被疑者判明シテ事件ヲ所轄檢事ニ送致スルトキハ其ノ旨備考欄ニ記入シ更ニ犯罪事件送致簿ニ所要ノ登錄ヲ爲シタル上送致ノ手續ヲ爲スコト

（山梨警）

樣式第三十五號ノ一（犯罪事件送致簿）

（美濃紙）

第　號

（表面）

受理年月日	年月日	署長認印	主任認印
犯罪事件簿番號	大正　年度甲乙第　號		
罪名			
發覺原因			
現行非現行			
引致年月日	大正　年月日引致（自首又ハ勾引狀執行）		
留置月日及其期間	自大正　年月日　至大正　年月日　間		
擬律			
徵罪處分	大正　年月日		
送致月日送致先	大正　年月日　檢事局		
送致ノ結果			

被疑者	本籍	住居	出生地	職業	氏名	年齡	異名特徵	前科又ハ徵罪起訴猶豫	生活狀態	素行及教育程度	兵役關係	位勳功恩給年金等ノ有無

（裏面）

證據物件種類員數	證據物件處分方法	犯罪事件及送致意見ノ概要	徵罪處分理由ノ要旨

（山梨警）

樣式第三十五號ノ二（犯罪事件送致簿索引）

（美濃紙）

（表面）

進行番號	（甲）犯罪事件（乙）簿番號	罪名	被疑者氏名	備考

（裏面表ニ同シ）

様式第三十六號ノ一（變死者檢視簿）　（半紙）

（表　面）

報告年月日	大正　年　月　日	主任	指揮檢事	裁判所檢事
檢視年月日	大正　年　月　日	印	指揮年月日	大正　年　月　日

變死者ノ本籍、住居、職業、氏名、年齡（不詳ノ場合ハ推定年齡）、男女別竝ニ人相特徵著衣）	發見人ノ住居、氏名、年齡及其ノ申告要旨	變死年月日時（不詳ノ場合ハ推定年月日時）	死亡ノ場所及其ノ模樣	變死ノ原因及死體ノ狀態

〔山梨營〕

（裏　面）

變死後ノ經過時間	所持金品ノ種類	立會醫師ノ氏名 檢視ノ要領	死者竝ニ所持金品ノ始末	檢視官認定意見	備考

様式第三十六號ノ二（變死者檢視簿索引）　（半紙）

（表　面）

進行番號	變死年月日	住居	變死者氏名	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第三十七號（證據物件保存簿）　（半紙）

（表　面）

證物保存簿冊番號	差押又ハ領置年月日	品目	員數	犯罪ノ時處分要旨效年月日	年月日	所有者又ハ差出人氏名	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

樣式第三十八號（徴罪處分人名簿索引）（半紙）

（表面）

番號	處分年月日	罪名	氏名	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨警〕

樣式第三十九號（起訴猶豫人名簿索引）（半紙）

（表面）

番號	處分年月日	罪名	氏名	終了年月日事由
				（年月日視察解除）
				（年月日何署管内へ轉住ニ付移送）
				（年月日死亡）
				（年月日再犯處罰）

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨警〕

樣式第四十號（起訴中止人名簿索引）（半紙）

（表面）

番號	中止年月日	罪名	氏名	時效完成年月日	結了年月日事由
					（時效完成）
					（年月日所在發見報告）
					（年月日何署ヨリ取消通知アリ）

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨警〕

樣式第四十一號ノ一（刑執行猶豫人名簿）（半紙）

（表面）

進行番號	通知檢事局	宣告裁判所	宣告年月日	確定年月日	罪名	刑名刑期	告知年月日	猶豫期間	備考
第　號	裁判所檢事局	裁判所	大正　年　月　日	大正　年　月　日			大正　年　月　日	年始期大正　年　月　日 終期大正　年　月　日	

本籍	住居	職業	氏名	年齢	猶豫	取消
					年月日	事由
					大正　年　月　日	

（裏面）

視察結果

〔山梨警〕

樣式第四十一號ノ二（刑執行猶豫人名簿索引）（半紙）

（表面）

番號	宣告年月日	罪名	氏名	終了年月日事由

（裏面ハ表ニ同シ）

樣式第四十二號ノ一（刑執行停止人名簿）（半紙）

（表面）

進行番號	通知檢事局	宣告裁判所	宣告年月日	確定年月日	罪名	刑名刑期	執行刑及殘刑	停止年月日	停止事由	備考
第　號	裁判所檢事局	裁判所	大正　年　月　日	大正　年　月　日			執行刑殘刑	大正　年　月　日		

本籍	住居	職業	氏名	年齡	停止年月日	取消事由
					大正　年　月　日	

〔山梨警〕

（裏面）

視察結果

様式第四十二號ノ二（刑執行停止人名簿索引）（半紙）

（表面）

番號	停止年月日	罪名	氏名	結了年月日事由

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨警〕

様式第四十三號ノ一（假出獄人名簿）（美濃紙）

（表面）

判決 宣告	大正　年　月　日
判決 廳名	
判決 罪名	
判決 刑名	
判決 刑期	
本籍 住居 職業 氏名 年齡	
刑期 起算	大正　年　月　日
刑期 滿了	大正　年　月　日
假出獄 刑務所 名	
假出獄 年月日	大正　年　月　日
性質 素行	
職業 勉否	
生活 狀態	
親族ト ノ關係	

人相				
丈	肉	頭	顏	口
眉	目	手	鼻	唇
齒	色	聲	痘根	特徵

假出獄取消事由及其ノ申報年月日	資產	死亡其他轉籍地及其年月日	備考

（裏面）

動靜概要	出頭年月日及申述要領
六ケ月每ノ通報要領	

〔山梨警〕

様式第四十三號ノ二（假出獄人名簿索引）（美濃紙）

（表面）

進行番號	假出獄 罪名	假出獄 年月日	假出獄 氏名	終了年月日事由

（裏面ハ表ニ同シ）

樣式第四十四號ノ一（前科人名簿）

（美濃紙）

（表面）

氏名 生年月日 又ハ年齢	族稱 職業	住居 出生地 本籍地	罪名	刑名 刑期	犯數	裁判 年月日	確定 年月日	執行ノ裁判所
					犯	年月日	年月日	裁判所

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨警〕

樣式第四十四號ノ二（前科人名索引簿）

（半紙）

（表面）

氏名	冊數	丁數	氏名	冊數	丁數

（裏面ハ表ニ同シ）

樣式第四十五號ノ一（常習犯罪者名簿）

（美濃紙）

（表面）

本籍	出生地	住居	編入	族稱 職業 氏名 生年月日 綽名	職業ノ勉否	勳等 功級 年金	轉住地 大正年月日	大正年月日
			大正年月日					

人相 身長	頭部	手足	肉付	特徴	性質 特癖	教育 程度	宗教
鼻口	目耳	顏面	其他		行狀	嗜好	奉教 心ノ有無

〔山梨警〕

（裏面）

經歷	前科	犯罪ノ特技及慣用方法	既往共犯者	黨類及往來セル人物等	生活並ニ家庭ノ狀況並ニ資產收入	親族及隣祐ノ交際狀況	父兄其ノ他監督者	本人ニ對スル世評	備考

樣式第四十五號ノ二（常習犯罪者名簿索引）

（半紙）

（表面）

ノ部

登錄年月日	氏名	簿冊丁數	登錄抹消 年月日	登錄抹消 事由	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨警〕

樣式第四十六號（不良少年人名簿）

（美濃紙）

（表面）

登錄年月日	族稱職業	氏名	生年月日	綽名又ハ通稱名若ハ僞名	本籍	出生地	住居	住居	住居	父兄又ハ其他ノ監督者ノ住居氏名	保護ヲ要スル事由

嫡、庶、私生子別	性質	嗜好	長所及短所	經歷	不良行爲ノ概要及其ノ原因動機	教育程度及學業成績	未就學又ハ退學ノ理由	身體發育概況

（裏面）

前科又ハ微罪處分	家庭ノ狀況	父兄其ノ他監督者ノ資產及收入概況	言動視察狀況

父兄其ノ他監督者ノ本人ニ對スル待遇	交際スル重ナル人物	血族者中犯罪者有無	精神病系統關係	宗教及信仰心

〔山梨警〕

樣式第四十七號ノ一

（美濃紙）

（表面）

未監置精神病者名簿

大正年月日調査

警察署

性質病性病狀	發病年月日原因系統轉歸年月日	上書建白請願要路顯官訪問等大要	人相及特徵	宗教並信仰別	政治思想	教育程度

本籍族稱職業氏名生年月日	現住居及來住年月日	監護義務者氏名生年月日病者トノ關係	家族ノ氏名及家庭ノ狀況	資產	生活狀態	長所並嗜好
	大正年月日ヨリ	大正年月日ヨリ	大正年月日ヨリ			

様式第四十八號（人相識別簿）（半紙）

（表　面）

番號	罪名及手口名	撮影年月日	撮影場所	撮影官署名	犯罪又ハ不良行爲ノ大要	前科又ハ不起訴處分ノ大要

本人ノ本籍	住居職業	通稱綽名	氏名生年月日	身長特徴及習癖	嗜好物又ハ樂	立廻地位ニ知人其ノ他ノ參考

〔山梨警〕

（裏　面）

寫眞又ハ人相

（裏　面）

經歷及行動

〔山梨警〕

様式第四十七號ノ二（索引）（美濃紙）

（表　面）

登錄年月日	氏名	簿冊丁數	登錄抹消年月日	事由	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第四十八號ノ二（索引）　（半紙）

（面　表）

原簿番號	氏名	登錄 年月日	抹消 事由	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第四十九號（犯罪事件捜査ニ關スル書類綴索引）　（半紙）

（面　表）

進行番號	事件（乙）簿番號（犯罪）	罪名	被害者氏名	被疑者氏名	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第五十號（微罪處分事件記錄索引）　（半紙）

（面　表）

番號	處分年月日	罪名	氏名	丁數	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第五十一號（令狀綴索引）　（半紙）

（面　表）

番號	令狀發付年月日	令狀種類ノ	住居	氏名	結果

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第五十二號（匿名申告書綴索引）　（半　紙）

（表　面）

年月日	被申告者氏名	丁數	備考
文書ノ標目			

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨學〕

様式第五十三號（捜査關係雜書綴索引）　（半　紙）

（表　面）

年月日	丁數	備考
文書ノ標目		

（裏面ハ表ニ同シ）

様式第五十四號（司法事務令達綴索引）　（半　紙）

（表　面）

年度	月日	文書ノ番號	文書ノ標目	丁數	備考

（裏面ハ表ニ同シ）

〔山梨學〕

様式第五十五號　大正　年自　月至　月犯罪事件捜査成績表　某　署（所）　（美濃半截）

罪名	犯罪事件數 舊受	新受	計	當署ニテ檢擧	所轄内ノ犯罪ヲ他時署ニテ檢擧	效	未檢擧	所轄外ノ犯罪ヲ自署ニテ檢擧
刑法犯　强盜	件	件	件	件	件	件	件	件
刑法犯　竊盜								
刑法犯　何々								
刑法犯　計								
特別法　森林法								
特別法　度量衡法								
特別法　縣令何々								
特別法　計								
合計								

（裏面ハ表ニ同シ）

樣式第五十六號

大正　年自　月　至　月　勾留、科料事件卽決處分表

某　署（所）

（美濃半截）

罪名	種別	男女別	勾留 二十歲以上	勾留 二十歲未滿	勾留 十八歲未滿	科料 二十歲以上	科料 二十歲未滿	科料 十八歲未滿	計	正式裁判請求 二十歲以上	正式裁判請求 二十歲未滿	正式裁判請求 十八歲未滿	裁判結果 有罪	裁判結果 無罪
刑法犯	暴行（又ハ何々）	男												
		女												
	賭博（又ハ何々）	男												
		女												
	計	男												
		女												
特別法犯	自轉車取締令（又ハ何々）	男												
		女												
	縣令何々	男												
		女												
	計	男												
		女												
合計		男												
		女												

●刑事補償法

昭和六年四月二日
法律第六十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事補償法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

刑事補償法

第一條　刑事訴訟法ニ依ル通常手續又ハ再審若ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ同法第三百十三條ノ規定ニ依リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者未決勾留ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ勾留ニ因ル補償ヲ爲ス

再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者原判決ニ因リ既ニ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ刑法第十一條第二項ノ規定ニ依ル拘置ヲ受ケタル場合ニ於テハ國ハ其ノ者ニ對シ刑ノ執行又ハ拘置ニ因ル補償ヲ爲ス

第二條　前條ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者死亡シタル場合ニ於テハ本人ノ遺族ニ對シ前條ノ補償ヲ爲ス死亡シタル者ニ付再審又ハ非常上告ノ手續ニ於テ無罪ノ言渡アリタル場合亦同ジ

補償ヲ受クベキ遺族死亡シタルトキハ次順位ノ遺族ニ對シ其ノ補償ヲ爲ス

第三條　本法ニ於テ遺族ト稱スルハ本人ノ配偶者、子、孫、父、母、祖父及祖母ニシテ本人死亡ノ當時之ト戸籍ヲ同ジウシ引續キ其ノ戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ

補償ヲ受クベキ遺族ノ順位ハ前項ニ記載スル順序ニ依ル父母及祖父母ニ付テハ養方ヲ先ニシ實方ヲ後ニス

子及孫數人アルトキハ其ノ順位ハ本人ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム

第四條　無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ノ事由アルトキハ補償ヲ爲サズ

一　刑法第三十九條乃至第四十一條ニ規定スル事由ニ因リ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルトキ

二　起訴セラレタル行爲ガ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反シ著シク非難スベキモノナルトキ

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ起訴、勾留、公判ニ付スル處分又ハ再審請求ノ原由ト爲リタルトキハ第一條第一項ノ補償ヲ爲サズ

本人ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因ル行爲ガ原有罪判決ノ憑據ト爲リタルトキハ第一條第二項ノ補償ヲ爲サズ

一個ノ裁判ニ依リ併合罪ノ一部ニ付無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受クルモ他ノ部分ニ付有罪ノ言渡ヲ受クル者ニ對シテハ補償ヲ爲サザルコトヲ得

第五條　勾留ニ因ル補償ニ於テハ勾引狀又ハ勾留狀執行後ノ拘禁日數ニ對シテ一日五圓以内ノ補償金ヲ交付ス

懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ其ノ日數ニ對シテ一日五圓以内ノ補償金ヲ交付ス拘置ニ因ル補償ニ付亦同ジ

死刑ノ執行ヲ受ケタル者ノ遺族ニ對スル補償ニ於テハ拘置ニ因ル補償ノ外裁判所ノ相當ト認ムル補償金ヲ交付ス

罰金又ハ科料ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ既ニ徵收シタル罰金又ハ科料ニ等シキ金額ヲ還付ス勞役場留置ノ執行ヲ爲シタルトキハ第二項ノ規定ニ準ジ補償金ヲ交付ス

沒收ノ執行ニ因ル補償ニ於テハ破壞若ハ廢棄ニ係ラザル沒收物又ハ沒收物ノ處分ニ因リテ得タル代價若ハ徵收シタル追徵金ニ等シキ金額ヲ還付ス

第六條　補償ヲ受ケントスル者ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判所又ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル豫審判事ノ屬スル裁判所ニ對シ補償ノ請求ヲ爲スベシ

前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ請求書ニハ戸籍謄本ヲ添附スベシ

補償ヲ受クベキ者請求ヲ爲シタル後死亡シタルトキハ其ノ請求ハ順次次順位ニ於テ補償ヲ受クベキ者ヨリ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七條　補償ヲ受クベキ者ハ先順位者ノ明示シタル意思ニ反シ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

補償ヲ受クベキ者請求ヲ取消シタルトキハ其ノ取消ヲ爲シタル者及後順位者ニ於テ更ニ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條　補償ノ請求ハ代理人ニ依リテモ之ヲ爲スコトヲ得

第九條　補償ノ請求ハ無罪又ハ免訴ノ裁判確定ノ日ヨリ六十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條　補償ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ請求ニ付決定ヲ爲スベシ決定ノ謄本ハ檢事及請求人ニ送達スベシ

請求理由アルトキハ補償ノ決定ヲ爲スベシ請求理由ナキトキ又ハ期間經過後ニ係ルトキハ之ヲ棄却スベシ

第十一條　補償ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

補償ノ請求ヲ棄却スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第十二條　補償ノ決定アリタル後之ニ依リテ補償ヲ受クベキ者其ノ拂渡ヲ受ケズシテ死亡シタルトキハ其ノ決定ハ順次次順位ニ於テ補償ヲ受クベキ者ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス補償ヲ受クベキ遺族其ノ拂渡ヲ受ケズシテ其ノ家ヲ去リタルトキ亦同ジ

第十三條　補償ノ拂渡ヲ受ケントスル者ハ其ノ決定ヲ爲シタル裁判所ニ請求書ヲ差出スベシ請求書ニハ戸籍謄本ヲ添附スベシ

補償ノ決定ノ送達アリタル後一年内ニ補償拂渡ノ請求ヲ爲ササルトキハ權利ヲ失フ

第十四條　補償拂渡ノ請求權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ズ

第十五條　補償ノ請求ニ關スル事件繫屬中再審ノ請求又ハ刑事訴訟法第三百十七條ノ規定ニ依ル公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ裁判確定ニ至ル迄決定ノ手續ヲ停止スベシ

前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シテ有罪ノ判決アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條　補償ノ決定アリタル後再審ノ請求又ハ刑事訴訟法第三百十七條ノ規定ニ依ル公訴ノ提起アリタルトキハ其ノ裁判確定ニ至ル迄補償拂渡ノ手續ヲ停止スベシ

前項ノ場合ニ於テ被告人ニ對シテ有罪ノ判決アリタルトキハ補償ノ決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第十七條　前條第二項ノ場合ニ於テ既ニ補償ノ拂渡アリタルトキハ有罪ノ判決ヲ爲シタル裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ補償ノ返還ヲ命ズベシ此ノ決定ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法第五百五十三條乃至第五百五十五條ノ規定ヲ準用ス

第十八條　本法ノ決定及之ニ對スル卽時抗告ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法ヲ準用ス期間ニ付亦同ジ

第十九條　裁判所補償ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定ヲ受ケタル者ノ申立ニ因リ速ニ無罪又ハ免訴ノ裁判ノ主文及要旨竝ニ補償ヲ爲シタル旨ヲ官報ニ揭載スベシ

第二十條　本法ハ軍法會議ニ於テ無罪ノ言渡アリタル場合ニ之ヲ準用ス但シ補償ノ請求ヲ棄却スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得ズ

軍法會議ニ於テ補償ノ返還ヲ命ズル決定ノ執行ニ付テハ陸軍軍法會議法第五百十八條乃至第五百二十條又ハ海軍軍法會議法第五百二十條乃至第五百二十二條ノ規定ヲ準用ス

軍法會議ニ於テ補償ニ關スル決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ付テハ陸軍軍法會議法第五十九條第一項又ハ海軍軍法會議法第五十九條第一項ノ規定ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（昭和六年勅令第二百五十八號ヲ以テ同七年一月一日ヨリ施行）

●裁判所構成法

明治二十三年二月十日
法律第六號

改正　明治三八年三月法律第六七號、三九年五月第五〇號、四一年三月第一〇號、第三〇號、四四年四月第七一號、大正二年四月第六號、三年四月第三九號、一〇年五月第一〇一號、一一年四月第五三號、一四年三月第五號、昭和九年三月第二號、一〇年四月第二九號

茲ニ裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

裁判所構成法目次

第一編　裁判所及檢事局
　第一章　總則
　第二章　區裁判所
　第三章　地方裁判所
　第四章　控訴院
　第五章　大審院
第二編　裁判所及檢事局ノ官吏
　第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルヽニ必要ナル準備及資格
　第二章　判事
　第三章　檢事
　第四章　裁判所書記
　第五章　執達吏
　第六章　廷丁
第三編　司法事務ノ取扱
　第一章　開廷
　第二章　裁判所ノ用語
　第三章　裁判ノ評議及言渡
　第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程
　第五章　司法年度（及休暇）
　第六章　法律上ノ共助
第四編　司法行政ノ職務及監督權

第一編　裁判所及檢事局

第一章　總則

第一條　左ノ裁判所ヲ通常裁判所トス

第一　區裁判所
第二　地方裁判所
第三　控訴院
第四　大審院

第二條　通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

地方裁判所ハ必要ニ應シ之ヲ民事ノミヲ管轄スルモノ（民事地方裁判所）又ハ刑事ノミヲ管轄スルモノ（刑事地方裁判所）ト爲スコトヲ得

第三條　地方裁判所控訴院及大審院ヲ合議裁判所トシ數人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審問裁判ス但シ訴訟法又ハ特別法ニ別段規定シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　裁判所ノ設立廢止及管轄區域竝ニ其ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　各裁判所ニ相應ナル員數ノ判事ヲ置ク

第六條　民事地方裁判所ヲ除ク外各裁判所ニ檢事局ヲ附置ス檢事ハ刑事ニ付公訴ヲ起シ其ノ取扱上必要ナル手續ヲ爲シ法律ノ正當ナル適用ヲ請求シ及判決ノ適當ニ執行セラルヽヤヲ監視シ又民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得又裁判所ニ屬シ若ハ之ニ關ル司法及行政事件ニ付公益ノ代表者トシテ法律上其ノ職權ニ屬スル監督事務ヲ行フ

前項ニ定メタル檢事ノ權限ハ民事地方裁判所ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所ノ檢事局ノ檢事之ヲ行フ

檢事ハ裁判所ニ對シ獨立シテ其ノ事務ヲ行フ

檢事局ノ管轄區域ハ其ノ附置セラレタル裁判所ノ管轄區域ニ同シ

若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第七條　檢事局ニ相應ナル員數ノ檢事ヲ置ク

第八條　各裁判所及各檢事局ニ書記課ヲ設ク書記課ハ往復會計記錄其ノ他此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特定シタル事務ヲ取扱フ

外國語ノ通譯ヲ要スル裁判所及檢事局ニ通譯官ヲ置クコトヲ得

第九條　區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發スル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別ノ職務ヲ行フ

第十條　法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外左ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一　權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且同メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二　裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三　法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

第四　二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

第二章　區裁判所

第十一條　區裁判所ノ裁判權ハ單獨判事之ヲ行フ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ其ノ裁判事務ヲ各判事ニ分配ス

此ノ事務分配ハ每年地方裁判所長前以テ之ヲ定ム

區裁判所判事ノ取扱ヒタル事ハ裁判事務分配上其ノ事他ノ判事ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

判事二人以上ヲ置キタル區裁判所ニ於テハ司法大臣ハ其ノ一人ヲ監督判事トシ之ニ其ノ行政事務ヲ委任ス

第十二條　事務分配ニタヒ定マリタルトキハ司法年度中之ヲ變更セス但シ一人ノ判事ノ分擔多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク圖勤スル者アル等引續キ差支ヲ生シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　區裁判所ノ判事差支アルトキハ每年地方裁判所長ノ前以テ定メタル順序ニ從ヒ相互ニ代理ス但シ監督判事ノ職務ハ其ノ裁判所ノ判事官等ノ順序ニ從ヒ之ヲ代理ス

一ノ區裁判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ事務ヲ取扱フコトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキ他ノ區裁判所ハ前項ニ同ク每年前以テ之ヲ定ム

第十三條ノ二　區裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ地方裁判所長ハ地方裁判所判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第十三條ノ三　第十一條第三項第十三條及前條ニ定メタル地方裁判所長ノ權限ハ民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控訴院長又ハ其ノ指定シタル民事地方裁判所長若ハ刑事地方裁判所長之ヲ行フ

第十四條　區裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ反訴ニ關リテハ民事訴訟法ノ定ムル所ニ依ル

第一　千圓ヲ超過セサル金額又ハ價額千圓ヲ超過セサル物ニ關ル請

求

第二　價額ニ拘ラス左ノ訴訟

（イ）住家其ノ他ノ建物又ハ其ノ或ル部分ノ受取明渡使用占據若ハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若ハ所持品ヲ賃貸人ノ差押ヘタルコトニ關リ賃貸人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

（ロ）不動產ノ經界ノミニ關ル訴訟

（ハ）占有ノミニ關ル訴訟

（ニ）雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

（ホ）左ニ揭ケタル事項ニ付旅人ト旅店若ハ飮食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

（一）賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料

（二）旅店若ハ飮食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

第十四條ノ二　區裁判所ハ破產事件ニ付裁判權ヲ有ス

第十五條　區裁判所ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ特別ノ規定アルモノヲ除ク外非訟事件ニ關ル事務ヲ取扱フノ權ヲ有ス

非訟事件中登記事務ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十六條　區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一　拘留又ハ科料ニ該ル罪

第二　短期一年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ヲ除ク外有期ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪

第十六條ノ二　司法大臣ハ地方裁判所ノ管轄區域內ノ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ノ全部又ハ一部分ヲ其ノ地方裁判所ノ管轄區域內ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

第十七條　前數條ニ揭ケタルモノヲ除ク外區裁判所ノ權限ハ此ノ章ニ揭ケタル事件ニ關リ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第十七條ノ二　司法大臣ハ區裁判所ニ屬スル事務ノ一部分ヲ取扱フ爲區裁判所出張所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第十八條　各區裁判所ノ檢事局ニ檢事ヲ置ク

區裁判所檢事局ノ檢事ノ事務ハ其ノ地ノ警察官憲兵將校下士又ハ林務官之ヲ取扱フコトヲ得

司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

第三章　地方裁判所

第十九條　地方裁判所ヲ第一審ノ合議裁判所トス

民事地方裁判所及刑事地方裁判所ヲ除ク外各地方裁判所ニ一若ハ二以上ノ民事地方裁判所及刑事地方裁判所ヲ設ク

第二十條　各地方裁判所ニ地方裁判所長ヲ置ク

地方裁判所長ハ裁判所ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

地方裁判所ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第二十一條　司法大臣ハ各地方裁判所ノ判事一人若ハ二人以上ニ其ノ裁判所ノ裁判權ニ屬スル刑事ノ豫審ヲ爲スコトヲ命ス

第二十二條　各地方裁判所ノ事務ハ司法大臣ノ定メタル通則ニ從ヒ各部及各豫審判事ニ之ヲ分配ス

各地方裁判所ノ各部長及部員ノ配置及所長部長部員差支アルトキノ代理モ亦每年前以テ之ヲ定ム

前二項ニ揭ケタル諸件ハ裁判所長部長及部ノ上席判事一人ノ會議ニ於テ裁判所長會長トナリ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第二十三條　地方裁判所長ハ次年自ラ部長トナルヘキ部ヲ指定スヘシ

或ル部ニ於テ著手シタル事務ニシテ司法年度ノ終ニ臨ミ未タ

終結ニ至ラサルモノハ裁判所長便利ト認ムルトキ同部員ヲシテ引續キ之ヲ結了セシムルコトヲ得

豫審判事ノ取扱フ事務ニシテ未タ終結ニ至ラサルモノモ亦前項ニ同シ

第二十四條　第二十二條ニ從ヒ事務ノ分配及判事ノ配置一タヒ定マリタルトキハ一部ノ事務多キニ過キ又ハ判事轉退シ又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ久ク闕勤スル者アル等引續キ差支アルニ非サレハ司法年度中之ヲ變更セス

裁判所ノ事務其ノ現在ノ部ニ過多ナル場合ニ於テ司法大臣適宜ト認ムルトキハ新ニ一部又ハ數部ヲ設クルコトヲ得

第二十五條　地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十五條ノ二　地方裁判所ノ豫審判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ルノ外控訴院長ニ於テ其ノ管轄區域内ノ他ノ地方裁判所ノ豫審判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十五條ノ三　民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テ裁判事務上必要アリト認ムルトキハ控訴院長ハ民事地方裁判所又ハ刑事地方裁判所ノ判事ニ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所又ハ民事地方裁判所ノ判事ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　地方裁判所ハ民事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限又ハ第三十八條ニ定メタル控訴院ノ權限ニ屬スルモノヲ除キ其ノ他ノ請求

第二　第二審トシテ

(イ)　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ)　區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十七條　地方裁判所ハ刑事訴訟ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　第一審トシテ

區裁判所ノ權限竝ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事訴訟

第二　第二審トシテ

(イ)　區裁判所ノ判決ニ對スル控訴

(ロ)　大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外區裁判所ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第二十八條　(削除)

第二十九條　地方裁判所ハ非訟事件ニ關ル區裁判所ノ決定及命令ニ對シ法律ニ定メタル抗告ニ付裁判權ヲ有ス

第三十條　地方裁判所ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第三十一條　司法大臣ハ地方裁判所ト其ノ管轄區域内ノ區裁判所ト遠隔ナルカ若ハ交通不便ナルカ爲至當ト認ムルトキハ地方裁判所ニ屬スル民事及刑事ノ事務ノ一部分ヲ取扱フ爲一若ハ二以上ノ支部ノ設置ヲ命スルコトヲ得且支部ニハ之ヲ設置シタル區裁判所若ハ近郊ノ區裁判所ノ判事ヲ用ヰルコトヲ得此ノ場合ニ於テ判事ヲ選用スルノ權ハ司法大臣ニ屬ス

司法大臣ハ支部ノ本部タル地方裁判所ノ管轄區域内ノ區裁判所判事ニ豫審判事ヲ命スルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

第三十二條　地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス且豫備判事ハ如何ナル事情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコトヲ得ス其ノ他ノ事件ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第三十三條　各地方裁判所ノ檢事局ニ檢事正ヲ置ク檢事正ハ檢事局ノ事務取扱ヲ分配指揮及監督ス但シ檢事局ノ其ノ他ノ檢事ハ事務取扱ニ付何等ノ事件ニ拘ラス特別ノ許可ヲ受ケシテ檢事正ヲ代理スルノ權ヲ有ス

第四章　控訴院

第三十四條　控訴院ヲ第二審ノ合議裁判所トス

各控訴院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第三十五條　各控訴院ニ控訴院長ヲ置ク

控訴院長ハ控訴院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

控訴院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第三十六條　事務ノ分配及結了竝ニ判事ノ代理ニ付テハ第二十二條第二十三條及第二十五條ヲ左ノ變更ヲ以テ控訴院ニ適用ス

第一　前項ニ揭ケタル各條ヲ以テ地方裁判所長ニ與ヘタル權ハ控訴院長ニモ之ヲ與ヘタルモノトス

第二　控訴院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ控訴院長ヨリ其ノ控訴院所在地ノ地方裁判所長ニ通知シ其ノ裁判所ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得但シ豫備判事ヲ用ヰルコトヲ得ス

第三十七條　控訴院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴

第二　大審院ノ權限ニ屬スルモノヲ除ク外地方裁判所ノ第一審トシテ爲シタル決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

第三十八條　皇族ニ對スル民事訴訟ニ付第一審及第二審ノ裁判權ハ東京控訴院ニ屬ス但シ第一審ノ訴訟手續ニ付テハ地方裁判所ノ第一審手續ヲ適用ス

第三十九條　控訴院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　控訴院ハ第一審ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ三人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第四十一條　第三十八條ノ場合ニ於テ第一審ハ三人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判シ第二審ハ特ニ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ審問裁判ス其ノ三人又ハ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス

第四十二條　各控訴院ノ檢事局ニ檢事長ヲ置ク

檢事長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第五章　大審院

第四十三條　大審院ヲ最高裁判所トス

大審院ニ一若ハ二以上ノ民事部及刑事部ヲ設ク

第四十四條　大審院ニ大審院長ヲ置ク

大審院長ハ大審院ノ一般ノ事務ヲ指揮シ其ノ行政事務ヲ監督ス

大審院ノ各部ニ部長ヲ置ク部長ハ部ノ事務ヲ監督シ其ノ分配ヲ定ム

第四十五條　大審院ノ事務ノ分配竝ニ代理ノ順序ハ每年部長ト協議シ大審院長前以テ之ヲ定ム

大審院長ハ次年自ラ上席センドスル部ヲ指定スヘシ

大審院ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同院ノ判事中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ之ヲ代理スル判事ヲ出スヘキ旨ヲ大審院長ヨリ其ノ所在地ノ控訴院長ニ通知シ其ノ控訴院ノ判事ヲシテ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條　大審院長ハ何時ニテモ部長若ハ部員ノ承諾ヲ得テ之ヲ他ノ部ニ轉セシムルコトヲ得

第四十七條　大審院ニ於テ一タヒ定マリタル部ノ組立ヲ變更シタルトキハ現ニ取扱中ノ事務ニ付テハ第二十三條ヲ適用ス

司法年度中事務分配ノ變更ニ付テハ第二十四條ヲ適用ス

第四十八條　大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付下級裁判所ヲ羈束ス

第四十九條　大審院ノ或ル部ニ於テ上告ヲ審問シタル後法律ノ同一ノ點ニ付曾テ一若ハ二以上ノ部ニ於テ爲シタル判決ト相反スル意見アルトキハ其ノ部ハ之ヲ大審院長ニ報告シ大審院長ハ其ノ報告ニ因リ事件ノ性質ニ從ヒ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部又ハ民事及刑事ノ總部ヲ聯合シテ之ヲ再ヒ審問シ及裁判スルコトヲ命ス

第五十條　大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一　終審トシテ

(イ)　上告

(ロ)　地方裁判所ノ第二審トシテ爲シタル法定及命令竝ニ控訴院ノ決定及命令ニ對スル法律ニ定メタル抗告

(ハ)　地方裁判所又ハ區裁判所ノ爲シタル上告棄却ノ決定ニ對スル抗告

第二　第一審ニシテ終審トシテ

刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪竝ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

第五十一條　前條第二ニ揭ケタル事件ニ付大審院ハ必要ナリト認ムルトキハ事件ノ審問裁判ヲ爲ス爲控訴院若ハ地方裁判所ニ於テ法廷ヲ開クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ控訴院判事ヲ以テ部員ニ加フルコトヲ得但シ其ノ半數ニ滿ツルコトヲ得ス

第五十二條　大審院ノ權限竝ニ其ノ裁判權ヲ行フノ範圍及方法ニシテ此ノ法律ニ定メサルモノハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　大審院ニ於テ訴訟法ニ依リ法延ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ五人ノ判事ヲ以テ組立テタル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其ノ五人ノ判事中一人ヲ裁判長トス其ノ他ノ事件ハ訴訟法ノ定ムル所ニ從ヒ判事之ヲ取扱フ

第五十四條　第四十九條ニ定メタル場合ニ於テハ聯合部ノ判事少クトモ三分ノ二列席スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ民事ノ總部若ハ刑事ノ總部聯合スルトキ又ハ民事及刑事ノ總部聯合スルトキハ總部ノ判事中官等最モ高キ者ヲ部長ト爲ス大審院長ハ至當ナリト認ムルトキハ自ラ總部ニ長タルノ權ヲ有ス

第五十五條　大審院長ハ第五十條ニ依リ大審院ニ於テ第一審ニシテ終審ヲ爲スヘキ各別ノ場合ニ付大審院ノ判事ニ豫審ヲ命ス但シ便宜ニ依リ各裁判所判事ヲシテ豫審ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條　大審院ノ檢事局ニ檢事總長ヲ置ク

檢事總長竝ニ其ノ他ノ檢事ノ職權ニ付テハ第三十三條ヲ適用ス

第二編　裁判所及檢事局ノ官吏

第一章　判事又ハ檢事ニ任セラルルニ必要ナル準備及資格

第五十七條　判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ定メタル者ヲ除ク外試補トシテ一年六月以上裁判所及檢事局ニ於テ實務ノ修習ヲ爲シ且考試ヲ經ルコトヲ要ス

實務ノ修習及考試ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五十八條　試補ハ成規ノ試驗ニ合格シタル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

前項ノ試驗ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　（削除）

第六十條　一年以上修習ヲ爲シタル試補ハ其ノ修習ヲ現ニ監督スル判事ノ命アルトキ區裁判所ニ於テ或ル司法事務ヲ取扱フコトヲ得

豫審判事及地方裁判所ノ受命判事モ亦其ノ附屬ノ試補ヲシテ自己ニ代リ或ル事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第六十一條　試補ハ如何ナル場合ニ於テモ左ノ事務ヲ取扱フノ權ヲ有セス

第一　訴訟事件ト非訟事件トニ拘ラス裁判ヲ爲ス事

第二　證據ヲ調フル事但シ前條第二項ノ場合ヲ除ク

第三　登記ヲ爲ス事

第六十二條　司法大臣ハ試補ノ行狀其ノ地位ニ適セス又ハ修習ノ成績考試ニ合格スヘキ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ罷免スルコトヲ得

第六十三條　新任ノ判事又ハ檢事ハ闕位アルトキ之ヲ區裁判所若ハ地方裁判所ノ判事又ハ區裁判所若ハ地方裁判所ノ檢事局ノ檢事ニ補ス

司法大臣ハ闕位アルマテ新任ノ判事又ハ檢事ニ豫備判事又ハ豫備檢事トシテ勤務スルコトヲ命シ之ヲ司法省又ハ區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ裁判所ノ檢事局ニ用ウ

第六十四條　區裁判所又ハ地方裁判所又ハ其ノ檢事局ニ用キラレタル豫備判事又ハ豫備檢事ハ判事又ハ檢事差支アリテ職務ニ從事スルコトヲ得ス且通常代理ノ規程ニ依リ難キコトアルトキハ第三十二條ノ制限ニ從ヒ司法大臣ハ之ニ其ノ判事又ハ檢事ヲ代理セシムルコトヲ得

司法大臣ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ判事又ハ其ノ檢事局ノ檢事ニ一時闕位アル間ハ此ノ法律ノ範圍内ニ於テ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ以テ之ヲ充タスコトヲ得

第六十五條　三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ揭ケタル試驗及考試ヲ經スシテ判事又ハ檢事ニ任セラルルコトヲ得司法官試補タル資格ヲ有シ朝鮮總督府判事又ハ朝鮮總督府檢事タル者亦同シ

第六十六條　左ニ揭ケタル者ハ判事又ハ檢事ニ任セラルヽコトヲ得ス

第一　重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第三章　判事

第六十七條　判事ハ終身官トシ親任勅任又ハ奏任トス

第六十八條　大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ヲ親補ス

控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第六十九條　五年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ控訴院判事ニ補セラルヽコトヲ得ス

第七十條　十年以上判事タル者又ハ十年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ大審院判事ニ補セラルヽコトヲ得ス

第七十一條　第六十九條及第七十條ニ揭ケタル年限ヲ算スルニハ補職ノ時マテ各々其ノ條ニ列記シタル職務ノ一ノミニ引續キ從事シタルコトヲ必要トセス

第七十一條ノ二　前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル司法省各局長司法書記官朝鮮總督府判事朝鮮總督府檢事臺灣總督府法院判官臺灣總督府法院檢察官關東法院判官又ハ關東法院檢察官ノ在職ハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

第七十二條　判事ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

第一　公然政事ニ關係スル事

第二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ府縣市町村ノ議會ノ議員トナル事

第三　俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就ク事

第四　商業ヲ營ミ又ハ其ノ他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ム事

第七十三條　第七十四條乃至第七十五條ノ場合ヲ除ク外判事ハ刑法ノ宣告

又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ轉官轉所停職免職又ハ減俸セラルヽコトナシ但シ豫備判事タルトキ及補闕ノ必要ナル場合ニ於テ轉所ヲ命セラルヽハ此ノ限ニ在ラス

前項ハ懲戒取調又ハ刑事訴追ノ始若ハ其ノ間ニ於テ法律ノ許ス停職ニ關係アルコトナシ

第七十四條　判事身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ司法大臣ハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第七十四條ノ二　大審院長年齡六十五年其ノ他ノ判事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ控訴院又ハ大審院ノ總會ニ於テ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムヘキモノト決議シタルトキハ其ノ期間滿了ノ時ニ於テ退職トス

第七十四條ノ三　司法大臣ハ裁判事務上必要アルトキハ控訴院又ハ大審院ノ總會ノ決議ニ依リ判事ニ轉所ヲ命スルコトヲ得

第七十五條　法律ヲ以テ裁判所ノ組織ヲ變更シ又ハ之ヲ廢シタル場合ニ於テ其ノ判事ヲ補スヘキ闕位ナキトキハ司法大臣ハ之ニ俸給ノ半額ヲ給シテ闕位ヲ待タシムルノ權ヲ有ス

第七十六條　判事ノ官等俸給及進級ニ關ル規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十七條　（削除）

第七十八條　判事ノ俸給ハ判事ニ對シ懲戒取調又ハ刑事訴追ヲ始メタルカ故ニ停職シタルニ拘ラス引續キ之ヲ給ス

第三章　檢事

第七十九條　檢事ハ親任勅任又ハ奏任トス

第七十六條ハ檢事ニモ亦之ヲ適用ス

檢事總長ハ親任檢事ヲ以テ之ヲ親補ス

檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ヲ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ勅任檢事又ハ奏任檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第八十條　檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ之ヲ免職スルコトナシ

第八十條ノ二　檢事總長年齡六十五年其ノ他ノ檢事ノ職ニ在ル者年齡六十三年ニ達シタルトキハ退職トス但シ司法大臣ハ三年以內ノ期間ヲ定メ仍在職セシムルコトヲ得

第八十一條　檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干涉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得ス

第八十二條　檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

第八十三條　檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ各管轄區域內ノ裁判所ノ檢事ノ職務ノ範圍內ニ在ル事務ヲ自ラ取扱フノ權ヲ有ス

檢事總長檢事長及檢事正ハ其ノ管轄區域內ニ於テ或ル檢事ノ取扱フヘキ事務ヲ他ノ檢事ニ移スノ權ヲ有ス

第八十四條　司法警察官ハ檢事ノ職務上其ノ檢事局管轄區域內ニ於テ發シタル命令及其ノ檢事ノ上官ノ發シタル命令ニ從フ

司法省又ハ檢事局及內務省又ハ地方官廳ハ協議シテ警察官中各裁判所ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ勤務シ前項ノ命令ヲ受ケ及之ヲ執行スル者ヲ定ム

第四章　裁判所書記

第八十五條　裁判所ニ第八條ニ從ヒ相應ナル員數ノ書記ヲ置ク

區裁判所ノ各判事及合議裁判所ノ各部ノ爲少クトモ一人ノ書記ヲ置ク

第八十六條　大審院大審院檢事局及控訴院ノ書記課ニ書記長ヲ置ク控訴院檢事局地方裁判所及地方裁判所檢事局ノ書記課ニ監督書記ヲ置ク

區裁判所及區裁判所檢事局ノ書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス

書記長及監督書記ハ各々其ノ上官ノ命令ニ服從シテ書記課ノ事務ヲ指揮

監督ス

第八十七條　書記其ノ職務ノ範圍內ニ於テ取扱ヒタル事ハ既ニ定マリタル事務分配上其ノ事他ノ書記ニ屬シタリトノ事實ノミニ因リ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第八十八條　書記ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ大審院長控訴院長檢事長檢事長ニ各ミ其ノ裁判所又ハ檢事局ノ書記ヲ地方裁判所長檢事正ニ各ミ其ノ裁判所及其ノ管轄區域內ノ區裁判所又ハ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域內ノ檢事局ノ書記ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

書記長及通譯官ハ奏任トス

書記長及通譯官ノ職ハ司法大臣之ヲ補ス

第八十九條　書記ニ任セラルルニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ試驗ヲ經ルコトヲ要ス

志願者前項ノ試驗ヲ受ケ得ルニ必要ナル資格竝ニ此ノ試驗及試驗ヲ經タル時爲スヘキ修習ニ關ル細則ハ裁判所書記登用試驗規則中ニ司法大臣之ヲ定ム

第九十條　書記ニ任セラレタル者闕位ナキ間ハ豫備書記ニ補ス

豫備書記ハ書記トシテ臨時勤務ヲ命セラルルコトヲ得

第九十一條　書記ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ

裁判所ノ開廷ニ於テハ裁判長ノ命令ニ從ヒ又判事一人ナルトキハ其ノ判事ノ命令ニ從フ

書記ハ檢事局ニ勤務スルトキ又ハ特別ノ事務ニ付判事若ハ檢事ニ附屬シタルトキモ亦其ノ檢事局又ハ判事若ハ檢事ノ命令ニ從フ

前二項ノ命令ニシテ口述ノ書取ニ關ルカ又ハ書類記錄ノ調製若ハ變更ニ關ル場合ニ於テ其ノ調製若ハ變更ヲ正當ナラスト認ムルトキ書記ハ自己ノ意見ヲ記シテ之ニ添フルコトヲ得

第五章　執達吏

第九十二條　各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執達吏ヲ置ク

第九十三條　執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ス司法大臣ハ地方裁判所長ニ其ノ管轄區域內ノ裁判所ノ執達吏ヲ任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ前項ノ委任ハ民事地方裁判所長ニ對シ之ヲ爲ス

執達吏ニ任セラルルニ必要ナル資格竝ニ試驗ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第九十四條　執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十五條　執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所管轄區域內ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ

第九十六條　裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモノハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

執達吏ハ刑事ニ付警察官ヲ以テ執行ヲ爲ササル場合ニ限リ裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前二項ニ揭ケタルモノヲ除ク外執達吏ノ權限ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依ル

第九十九條　執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保證金ヲ出スコトヲ要ス

執達吏ノ職務細則竝ニ保證金ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百條　執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケタル書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ

第六章　廷丁

第百一條　廷丁ハ大審院控訴院及地方裁判所ニ於テハ裁判所長區裁判所ニ於テハ其ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ雇ヒ及其ノ雇ヲ解ク

第百二條　廷丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル一般ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用ヰルコト能ハサルトキハ其ノ裁判所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲廷丁ヲ用ヰルコトヲ得

第三編　司法事務ノ取扱

第一章　開廷

第百三條　開廷ハ裁判所又ハ支部ニ於テ之ヲ爲ス

司法大臣ニ於テ事情ニ因リ必要ナリト認ムルトキハ區裁判所ヲシテ其ノ管轄區域内ノ一定ノ場所ニ於テ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第百四條　訴訟審問ノ上席及指揮ハ合議裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル裁判長ニ屬シ區裁判所ニ於テハ開廷ヲ爲シタル判事ニ屬ス

裁判長ニ屬スル權ハ裁判上一人ニテ執務スル判事ニモ亦屬ス

第百五條　裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第百六條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキモ入廷ノ特許ヲ與フルコトヲ至當ト認ムル者ヲ入廷セシムルノ權ヲ有ス

第百七條　裁判長ハ婦女兒童及相當ナル衣服ヲ著セサル者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得其ノ理由ハ之ヲ訴訟ノ記錄ニ記入ス

第百八條　開廷中秩序ノ維持ハ裁判長ニ屬ス

第百九條　裁判長ハ審問ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルノ權ヲ有ス

前項ニ揭ケタル造犯者ノ行狀ニ因リ之ヲ勾引シ閉廷ノトキマテ之ヲ勾留スルノ必要アリト認ムルトキ裁判長ハ之ヲ命令スルノ權ヲ有ス閉廷ノトキ裁判所ハ之ヲ釋放スルコトヲ命シ又ハ五圓以下ノ罰金若ハ五日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得

此ノ處罰ニ對シテハ上告ヲ許シ控訴ヲ許サス且其ノ所爲ノ輕罪若ハ重罪ニ該ルヘキモノナルトキハ之ニ對シテ刑事訴追ヲ爲スコトヲ得

第百十條　前條ノ規程ハ左ノ變更ヲ以テ當事者證人及鑑定人ニモ亦之ヲ適用ス

第一　裁判所ハ閉廷ヲ待タスシテ本條ノ造犯者ヲ卽時ニ罰スルコトヲ得

第二　造犯者原告ナルトキハ裁判所ハ處罰ノ上仍本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スルマテ其ノ審問ヲ中止スルコトヲ得

第百十一條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護士ニ對シ同事件ニ付引續キ陣述スルノ權ヲ行フコトヲ禁スルコトヲ得其ノ禁止ハ此ノ行狀ニ付懲戒上ノ訴追ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十二條　裁判所ノ開廷中秩序ヲ維持スル爲第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ハ豫審判事又ハ受命判事又ハ法律ニ從ヒ其ノ職務ヲ行フ試補モ亦之ヲ行フコトヲ得

此ノ場合ニ於テノ異議ハ二十四時以内ニ其ノ判事又ハ試補ニ之ヲ申出ル

コトヲ得

豫審判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ノ屬スル裁判所ノ刑事部若ハ刑事支部ニ於テ前項ノ異議ヲ裁判ス受命判事又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ判事ニ命シタル裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第百十三條　第百九條第百十條及第百十一條ヲ以テ與ヘタル權ヲ行ヒタルトキハ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入シ及其ノ理由ヲ記ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ所爲ノ重罪若ハ輕罪ニ該ルヘキモノナルカ又ハ懲戒上罰スヘキモノナルトキハ詳細ニ之ヲ記入シ裁判長ハ其ノ事件ヲ更ニ處分スルノ權アル官廳ニ報告ヲ爲ス

第百十四條　判事檢事及裁判所書記ハ公開シタル法廷ニ於テハ一定ノ制服ヲ著ス

前項ノ開廷ニ於テ審問ニ參與スル辯護士モ亦一定ノ職服ヲ著スルコトヲ要ス

第二章　裁判所ノ用語

第百十五條　裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ヰ當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用ヰルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ヰ

第百十六條　通事ノ任命及使用竝ニ訴訟手續上其ノ行フヘキ職務ニ關ル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百十七條　通事ノ得難キ場合ニ於テ書記其ノ言語ニ通スルトキハ裁判長ノ承諾ヲ得テ通事ニ用ヰラルルコトヲ得

第百十八條　外國人ノ當事者タル訴訟ニ關係ヲ有スル者及其ノ訴訟ノ審問ニ參與スル官吏ノ或ル外國語ニ通スル場合ニ於テ裁判長便利ト認ムルトキハ其ノ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ審問ノ公正記錄ハ日本語ヲ以テ之ヲ作ル

第三章　裁判ノ評議及言渡

第百十九條　合議裁判所ノ裁判ハ此ノ法律ニ從ヒ定數ノ判事之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

第百二十條　四日以上引續クヘキ見込アル刑事ノ審問ニ於テ裁判所長ハ補充判事一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充判事ハ其ノ審問中或ル判事ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審問及裁判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第百二十一條　判事ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ豫備判事及試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

判事ノ評議ハ其ノ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末竝ニ各判事ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス

第百二十二條　評議ノ際各判事意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス官等同キトキハ年少ノ者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命判事ヲ始トス

第百二十三條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

金額ニ付判事ノ意見三說以上ニ分レ其ノ說各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ最多額ノ意見ヨリ順次寡額ニ合算ス

刑事ニ付其ノ意見三說以上ニ分レ各々過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第百二十四條　判事ハ裁判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第四章　裁判所及檢事局ノ事務章程

第百二十五條　裁判所及檢事局ノ標準ト爲スヘキ規則ハ司法大臣之ヲ定ム

控訴院長及檢事長ハ前項ノ規則ニ依リ各自管轄區域内ノ裁判所及檢事局ニ對シテ事務ノ一般ノ取扱ニ關リ成ルヘク統一ヲ旨トシ殊ニ裁判所及檢事局ノ開廷時間及開廷ノ時日ニ付訓令ヲ發ス

大審院ハ自ラ其ノ事務章程ヲ定ム但シ之ヲ實施スル前司法大臣ノ認可ヲ受ク

第五章　司法年度及休暇

第百二十六條　司法年度ハ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ハル

自第百二十七條至第百三十條（削除）

第六章　法律上ノ共助

第百三十一條　裁判所ハ訴訟法又ハ特別法ノ定ムル所ニ依リ互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

法律上ノ輔助ハ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第百三十二條　檢事局モ亦各自ノ管轄區域内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第百三十三條　裁判所及檢事局ノ書記課モ亦其ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ輔助ヲ爲ス

第百三十四條　合議裁判所長區裁判所ノ判事若ハ監督判事檢事總長檢事長檢事正ハ司法大臣ノ由テ以テ司法行政ノ職務ヲ行フノ官吏トス

第四編　司法行政監督及監督權

第百三十五條　司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一　司法大臣ハ各裁判所及各檢事局ヲ監督ス

第二　大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三　控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄區域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四　地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五　區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所所屬ノ書記及執達吏ヲ監督ス

第六　檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七　檢事長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控訴院管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第八　檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

前項第四號ニ定メタル地方裁判所長ノ其ノ支部及其ノ管轄區域内ノ區裁判所ニ對スル監督ノ權限ハ民事地方裁判所及刑事地方裁判所アル場合ニ於テハ控訴院長又ハ其ノ指定シタル民事地方裁判所長若ハ刑事地方裁判所長之ヲ行フ

第百三十六條　前條ニ揭ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一　官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ注意ヲ促シ竝ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ニ訓令スル事

第二　官吏ノ職務上ト雖ラス其ノ地位ニ不相應ナル行狀ニ付之ニ諭告スル事

但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコトヲ得セシムヘシ

第百三十六條ノ二　合議裁判所長檢事總長檢事長檢事正ハ其ノ監督ニ屬スル判事若ハ檢事ヲシテ司法行政事務ノ一部分ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第百三十七條　第十八條及第八十四條ニ揭ケタル官吏ハ第百三十五條ニ依リ行フヘキ監督ヲ受クルノ官吏中ニ之ヲ包含ス

第百三十八條　裁判所若ハ檢事局ノ官吏ニシテ適當ニ其ノ職務ヲ行ハサル者又ハ其ノ行狀其ノ地位ニ不相應ナル者ニ付第百三十六條ヲ適用スルコト能ハサルトキハ懲戒法ニ從ヒ之ヲ訴追ス

第百三十九條　前數條ニ揭ケタル司法行政ノ職務及監督權ハ判事若ハ檢事其ノ官吏タルノ資格又ハ其ノ他ノ資格ヲ以テ爲シタル事ニ對シテ起リタル請求ニ付其ノ請求ヲ滿足セシムル爲之ヲ執行スルコトヲ得ス

第百四十條　司法事務取扱ノ方法ニ對スル抗告竝ニ或ル事務ノ取扱方ニ對シ又ハ取扱ノ遲滯若ハ拒絕ニ對スル抗告ハ此ノ編ニ揭ケタル司法行政ノ職務及監督權ニ依リ之ヲ處分ス

第百四十一條　裁判所及檢事局ハ司法大臣又ハ監督權アル判事若ハ檢事ノ要求アルトキハ法律上ノ事項又ハ司法行政ニ關ル事項ニ付意見ヲ述フ

第百四十二條　司法官廳ニ對シテ起リタル民事ノ訴訟ニ於テハ其ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ノ檢事局ハ司法官廳ヲ代表ス

前項ニ定メタル權限ハ民事地方裁判所ニ關シテハ其ノ管轄區域ヲ同シクスル刑事地方裁判所ノ檢事局之ヲ行フ

第百四十三條　此ノ編ニ揭ケタル前各條ノ規程ハ裁判上執務スル判事ノ裁判權ニ影響ヲ及ホシ又ハ之ヲ制限スルコトナシ

附　則

第百四十四條　此ノ法律ノ施行ニ關ル規程竝ニ從來ノ法律ニシテ此ノ法律ニ牴觸スト雖モ當分ノ内仍ホ效力ヲ有セシムルモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（明治四十一年法律第三十號）

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（明治四十一年十月一日ヨリ施行）

本法施行前ニ提起シタル訴訟ハ本法ニ依リ他ノ裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノト雖モ受訴裁判所之ヲ裁判スヘシ

本法施行後重禁錮又ハ輕禁錮ニ處スヘキ罪ノ裁判權ニ付テハ重禁錮ヲ懲役ト看做シ輕禁錮ヲ禁錮ト看做ス

附　則（大正三年法律第三十九號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年五月勅令第七十二號ヲ以テ同年五月一日ヨリ第六十七條、第六十八條及第七十九條ノ改正ニ關スル規定施行、同七年一月勅令第七號ヲ以テ同十二年三月一日ヨリ第五十七條乃至第五十九條、第六十二條及第六十五條ノ改正規定施行）

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ判事檢事又ハ試補タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

附　則（大正十年法律第百一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年五月勅令第二百二十七號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事ノ職ニ在ル者ニシテ本法施行ノ日ニ於テ第八編　刑事　第二章　刑事訴訟法及拘留科料執行手續

七十四條ノ二又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡ヲ超ユルモノ及本法施行ノ日ヨリ二十日内ニ於テ其ノ年齡ニ達スルモノハ本法施行ノ日ヨリ二十日ヲ經テ退職スルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ判事ニ付テハ第七十四條ノ二但書ノ規定ヲ、檢事ニ付テハ第八十條ノ二但書ノ規定ヲ準用ス但シ第七十四條ノ二又ハ第八十條ノ二ニ規定スル年齡ニ三年ヲ加ヘタルモノヲ超エテ在職セシムルコトヲ得ス

附　則（大正十一年法律第五十三號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十一月勅令第四百九十九號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ第十四條ノ二、第二十八條、第六十五條第一項及第七十一條ノ二ノ改正ニ關スル規定施行、同十二年五月勅令第二百十四號ヲ以テ同十三年一月一日ヨリ第十六條、第二十七條、第三十七條及第五十條改正ニ關スル規定施行）

第十四條ノ二及第二十八條ノ改正規程施行前從前ノ管轄裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

附　則（大正十四年法律第五號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十四年七月勅令第二百五十一號ヲ以テ同年同月十日ヨリ施行）

本法施行前裁判所ノ受理シタル訴訟ニ付テハ管轄ニ關スル從前ノ規定ヲ適用ス但シ本法ニ依リ其ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル司法省參事官ノ本法施行前ニ於ケル在職ハ裁判所構成法第六十九條乃至第七十一條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ判事ノ在職ト看做ス

●陪審法

大正十二年四月十八日
法律第五十號

改正　昭和四年四月法律第五一號

樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協賛ヲ經タル陪審法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陪審法

第一章　總則
第二章　陪審員及陪審ノ構成
第三章　陪審手續
　第一節　公判準備
　第二節　公判手續及公判ノ裁判
　第三節　上訴
第四章　陪審費用
第五章　罰則
第六章　補則
附　則

第一章　總則

第一條　裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

第二條　死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條　長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第四條　左ニ揭ク罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪
二　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
三　治安維持法ノ罪
四　軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪
五　法令ニ依リテ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第五條　第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第七條　被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スルノ虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得
公判ニ繫屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條　前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ
前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ
公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日內ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第十條　管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

被告人事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クタルニ因リ事件陪審ノ評議ニ付スヘカラサルニ至リタルトキハ檢事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

共同被告人中事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキハ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ニ同シ

第十一條　上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章　陪審員及陪審ノ構成

第十二條　陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　帝國臣民タル男子ニシテ三十歲以上タルコト
二　引續キ二年以上同一市町村ニ住居スルコト
三　引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト
四　讀ミ書キヲ爲シ得ルコト

前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル

第十三條　左ニ揭クル者ハ陪審員タルコトヲ得ス

一　禁治產者、準禁治產者
二　破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ
三　聾者、啞者、盲者
四　懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

第十四條　左ニ揭クル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　國務大臣
二　在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官
三　在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官
四　在職ノ宮內官吏
五　現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
六　在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳支廳長
七　在職ノ警察官吏
八　在職ノ監獄官吏
九　在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
十　在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏
十一　郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ從事スル者竝船員
十二　市町村長
十三　辯護士、辨理士
十四　公證人、執達吏、代書人
十五　在職ノ小學校教員
十六　神官、神職、僧侶、諸宗教師
十七　醫師、齒科醫師、藥劑師
十八　學生、生徒

第十五條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　陪審員被害者ナルトキ
二　陪審員私訴當事者ナルトキ
三　陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ
四　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戶主又ハ家族ナ

ルトキ

五　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

六　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ同居人又ハ雇人ナルトキ

七　陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ

八　陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

九　陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

十　陪審員事件ニ付判事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ

第十六條　左ニ揭ク者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得

一　六十歳以上ノ者

二　在職ノ官吏、公吏、敎員

三　貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル

第十七條　市町村長ハ每年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村內ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登載スヘシ

陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ

市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第十八條　市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

第十九條　法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縱覽期間內及其ノ後七日內ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二十條　市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滯ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ

市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滯ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スヘシ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命シ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ異議申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　地方裁判所長ハ每年九月一日迄ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域內ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第二十三條　市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス

第二十四條　區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス

區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條　市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第二十七條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ年內再ヒ陪審員ニ選定セラルルコトナシ

第二十九條　陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條　陪審ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第三十一條　裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ルモノトス

補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル

第三章　陪審手續

第一節　公判準備

第三十二條　同日ニ數箇ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數箇ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條　檢事及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日ニ審理スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十四條　陪審員ニハ勤令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三十五條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ

第三十六條　被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘシ

公判準備期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三十八條　召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

第三十九條　公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備期日トス

第四十條　公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス

公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲スコトヲ得ス

辯護人數人アルトキハ其ノ一人ノ出頭ヲ以テ足ル

公判準備期日ニ於ケル取調ハ之ヲ公行セス

第四十一條　第二條ノ規定ニ依リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルトキハ裁判長ハ被告人ニ對シ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ得ヘキ旨ヲ告知スヘシ

第四十二條　公判準備期日ニ於テハ裁判長ハ公訴事實ニ付出頭シタル被告人ヲ訊問スヘシ

陪審判事ハ裁判長ニ告ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事及辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

第四十三條　公判準備期日ニ於テハ裁判所ハ必要ナル證據調ノ決定ヲ爲スヘシ

檢事、被告人及辯護人ハ證人訊問、鑑定、檢證又ハ證據物若ハ證據書類ノ集取ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第四十四條　裁判所書記ハ公判準備調書ヲ作リ公判準備期日ニ於ケル被告人ニ對スル訊問及其ノ供述、檢事被告人辯護人ノ申立、裁判所ノ裁判其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

第四十五條　公判準備調書ニハ前條ニ規定スル事項ノ外被告事件、被告人及出頭シタル辯護人ノ氏名竝手續ヲ爲シタル裁判所年月日及裁判長陪席判事檢事裁判所書記ノ官氏名ヲ記載シ被告人出頭セサルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十六條　公判準備調書ハ三日内ニ之ヲ整理シ裁判長及裁判所書記署名捺印スヘシ

裁判長ハ署名捺印前ニ公判準備調書ヲ檢閱シ意見アルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第四十七條　檢事、被告人及辯護人ハ公判準備期日前第四十三條第二項ノ請求ヲ爲スコトヲ得公判期日七日前迄亦同シ

第四十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　裁判所公判準備期日外ニ於テ證據決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ檢事、被告人及辯護人ニ通知スヘシ

第四十九條　公判準備期日外ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得

裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條　前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條　裁判所公判準備期日ニ免訴ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條　前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス

第五十七條　公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セサルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五十九條　陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第二節　公判手續及公判ノ裁判

第六十條　陪審構成ノ手續ハ判事、檢事、裁判所書記、被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條　前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

出頭シタル陪審員二十四人ニ遙セサルトキハ裁判長ハ之ヲ補充スル爲裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十二條　陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ

檢事、被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨申立ヲ爲スヘシ

除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十三條　出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條　檢事及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尙一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行ハシムル方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條　裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

裁判長ハ氏名票ヲ一票宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ

裁判長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス

次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述ヲ爲ササルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲ササルトキ亦同シ

陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ

第六十六條　前條ノ手續ニ依リ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣言スヘシ

第六十七條　陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條　陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ

第六十九條　裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第七十條　裁判長ハ陪席判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第七十一條　證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

第七十二條　左ニ揭クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書

二　檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫

三　公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類

四　前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ眞正ナルコトノ證明アルモノ

五　鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

第七十三條　裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ

二　被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ

三　被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲ササルトキ

第七十四條　前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條　證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條　證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ援用スルコトヲ得ス

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十七條　前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實竝證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十八條　裁判長ノ說示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十九條　裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス

補問ハ公判ニ付セラレタルモノト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第八十條　陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十一條　裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付スヘシ

陪審員ハ問書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條　裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條　陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條　陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ滯留ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條　陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條　陪審員ハ陪審長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條　陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ說示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條　答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ揭クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條　評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條　陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條　犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半數ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半數ニ達セサルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條　答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ

答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命スヘシ

第九十三條　裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムヘシ

第九十四條　前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條　裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條　陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

第九十八條　引續キ七日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公訴棄却、管轄違又ハ免除ノ裁判ヲ爲スヘキ原由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ

第百條　裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ說示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節　上訴

第百一條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第百二條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第百三條　上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セサリシトキ

二　第十二條第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲ササリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四　忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五　裁判長ノ說示法律ニ違反シタルトキ

六　裁判長證據トシテ說示シタルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

七　裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ說示ヲ爲シタルトキ

第百五條　上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除クノ外事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有スル此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四節　陪審費用

第百六條　左ニ揭クルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一　陪審員ノ呼出ニ要スル費用

二　陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

第百七條　陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五章　罰則

第百八條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　故ナク呼出ニ應セサルトキ

二　宣誓ヲ拒ミタルトキ

三　第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四　故ナク退廷シタルトキ

五　第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第百九條　陪審員評議ノ顚末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十條　裁判長ノ許可ヲ受クスシテ陪審ノ評議室ニ入リ又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所内ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條　過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章　補則

第百十三條　市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第百十四條　第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第百四十四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第百十三條及第百十四條ノ施行ヲ定メ、同三年七月勅令第百六十四號ヲ以テ同年十月一日ヨリ前各條以外ノモノノ施行）

本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

附　則（昭和四年四月法律第五十一號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

●陪審法施行規則

昭和二年五月二十八日
司法省令第十六號

改正　昭和三年司法省令第一八號、七年第三五號

陪審法施行規則

第一條　陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　前條ノ名簿ニハ丁數ヲ記入シ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

第三條　陪審員資格者名簿ノ副本ハ每年九月三十日迄ニ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第四條　陪審員資格者名簿ノ縱覽期間ニハ日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ算入スルコトヲ得ス

異議ノ申立ノ期間ノ末日日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキ亦前項ニ同シ

第五條　陪審員資格者名簿縱覽ノ期間ハ其ノ初日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第六條　陪審員資格者名簿ハ之ヲ縱覽ニ供シタル後ハ名簿中脫漏誤載等アルモ異議ノ申立又ハ區裁判所判事ノ命ニ依ル場合ノ外市町村長限リ之ヲ修正スルコトヲ得ス

第七條　市町村長陪審員資格者名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及陪審法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ削除又ハ追加シタル旨ヲ欄外ニ朱書シ捺印スヘシ

第八條　陪審法第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ陪審員資格者名簿ヲ整理シタル後其ノ資格者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ陪審法第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ通知スヘシ

第八條ノ二　市町村ノ境界變更アリタル爲陪審員資格者名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村長ハ其ノ管理ニ屬スル陪審員資格者名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル市町村ノ市町村長ニ送付スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲陪審員資格者名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ前項ノ例ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テハ承繼市町村長ハ直ニ其ノ旨告示シ併セテ管轄區裁判所判事ニ報告スヘシ

第八條ノ三　前條ノ規定ニ依リ分合整備シタル名簿ハ變動後ノ市町村ノ陪審員資格者名簿ト看做ス

第八條ノ四　陪審員資格者名簿ノ縱覽期間中又ハ其ノ後ノ異議申立期間內ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ承繼市町村長ハ其ノ廳ニ於テ第八條ノ二ニ依リ分合整備シタル陪審員資格者名簿ヲ引續キ縱覽ニ供シ又ハ異議ノ申立ヲ受ク但シ變動前既ニ異議ノ申立アリタルモノニ付テハ從前ノ市町村長ニ於テ之ヲ取扱フ

前項ノ場合ニ於テハ新舊市町村長ハ承繼ノ日迄ニ陪審員資格者名簿ノ縱覽又ハ異議申立ニ關スル事項ヲ告示スヘシ

第九條　地方裁判所長ハ豫メ翌年一月乃至十二月ニ於ケル陪審事件ノ總數ヲ推算シ之ニ基キテ所要ノ陪審員ノ總數ヲ定メ各市町村ニ於ケル陪審員資格者ノ員數ニ之ヲ按分シテ各市町村ニ割當ツヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ標準ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得

陪審法第二十二條ノ割當通知後陪審員候補者選定前ニ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更アリタルトキハ地方裁判所長ハ其ノ割當ヲ分合スルコトヲ得

第十條　市町村長地方裁判所長ヨリ割當テラレタル陪審員ノ員數ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者抽籤ノ場所及日時ヲ定メ之ヲ告示スヘシ

市町村長ハ抽籤ノ立會人ヲ選定シ前項ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ

立會人ハ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　陪審員候補者ノ抽籤ハ陪審員資格者名簿ニ揭クル資格者ノ番號ニ符合スル番號標ヲ作製シ之ヲ抽籤函ニ入レ攪拌シタル後一票宛抽籤函ヨリ所要員數ニ達スル迄抽出スヘシ

第十二條　第八條ニ揭クル者ハ之ヲ抽籤ヨリ除クヘシ

第十三條　抽籤函及番號票ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十四條　市町村長陪審員候補者ヲ選定シタルトキハ陪審員候補者選定錄ヲ作製スヘシ

陪審員候補者選定錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ市町村長抽籤ノ立會人ト共ニ署名捺印シ陪審員候補者名簿ノ副本ト併セテ之ヲ保存スヘシ

一　選定ノ日時及場所

二　抽籤ニ立會ヒタル立會人ノ住居氏名年齡

三　割當テラレタル陪審員候補者ノ員數

四　第十二條ニ依リ抽籤ヲ除キタル者アルトキハ其ノ氏名及事由

五　抽出シタル番號票ノ番號

六　其ノ他市町村長ニ於テ必要ト認ムル事項

第十五條　市町村長ハ區裁判所判事ニ送付スルモノノ外陪審員候補者名簿ノ副本ヲ調製シ其ノ廳ニ保存スヘシ

第十六條　陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ原本ハ調製ノ日ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

第十七條　陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ニ付テハ第十三條ニ定ムル樣式ニ依ル抽籤函及番號票ヲ使用スヘシ

第十八條　陪審法第六十五條ノ氏名票及抽籤函ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十九條　地方裁判所長陪審法第二十六條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入捺印シ當該陪審員候補者ハ之ヲ陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ヨリ除クヘシ

第二十條　地方裁判所長陪審法第二十七條ノ規定ニ依リ陪審員ヲ選定シタルトキハ陪審員選定錄ヲ調製スヘシ

陪審員選定錄ハ每年之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ翌年一月一日ヨリ五年間保存スヘシ

第二十一條　地方裁判所長陪審員ノ選定手續ヲ終リタルトキハ陪審員氏名通知書ヲ作成シ之ヲ當該事件擔當ノ裁判長ニ送付スヘシ

第二十二條　陪審員選定錄及陪審員氏名通知書ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條　裁判長ハ陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ノ氏名ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ

地方裁判所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿中當該氏名欄ニ㊞ノ朱印ヲ押捺スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號　陪審員資格者名簿樣式　（用紙美濃紙）

第號	納稅額	住居	生年月日	職業	身分	氏名
一	圓	何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地	何年何月何日	何々	族	何某

備考

一　名簿ハ市ニ在リテハ町、町村ニ在リテハ大字若ハ小字毎ニ區別シ綴スルモ妨ナシ

二　番號ハ字區分ニ拘ラス之ヲ通シテ記入スヘシ

三　名簿ノ表紙及末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

昭和何年九月一日現在調

陪審員資格者名簿　原（副）本

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）

（末尾）

此ノ名簿ハ何年何月何日ヨリ何日間何役所何町村役場ニ於テ縱覽セシメタリ

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）長　何　某印

第二號　陪審員候補者名簿樣式（用紙美濃紙）

陪審員資格者名簿樣式ニ同シ

備考

一　名簿ハ市ニ在リテハ町、町村ニ在リテハ大字若ハ小字毎ニ區別シ綴スルモ妨ナシ

二　番號ハ字區分ニ拘ラス之ヲ通シテ記入スヘシ

三　名簿ノ表紙及末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

昭和何年何月何日調製

陪審員候補者名簿　原（副）本

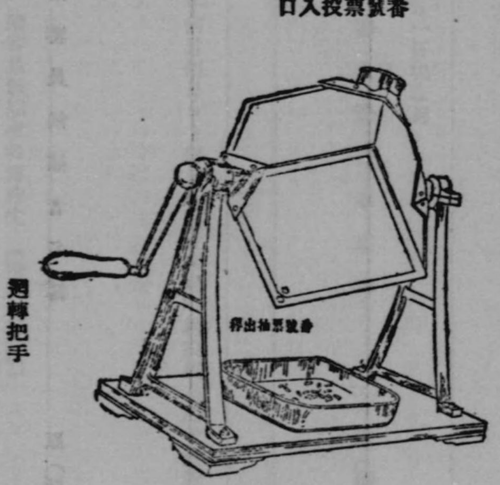
何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）

（末尾）

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）長　何　某印

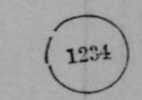
第三號　抽籤函及番號票樣式（木又ハ金屬製）

抽籤函



抽籤函ノ高、幅、横凡七寸
但大小ハ資格者ノ多寡ニ應シ適宜ニ之ヲ造ルヘシ

番號票（金屬製）

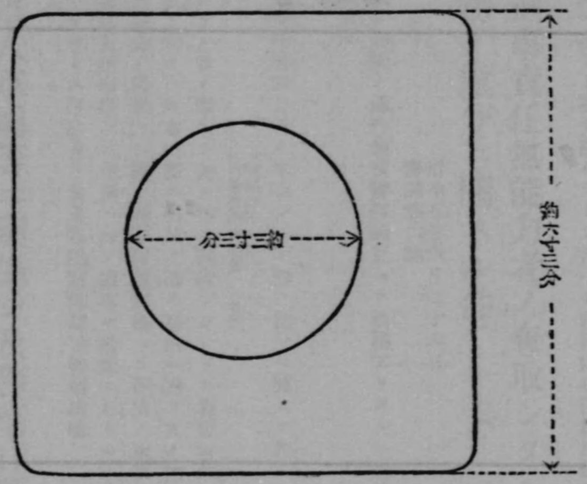


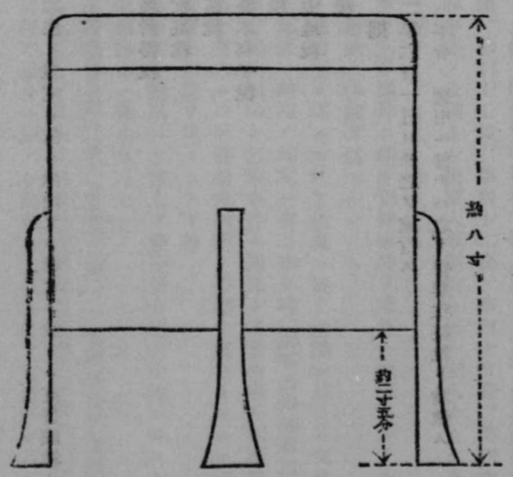
徑凡四分

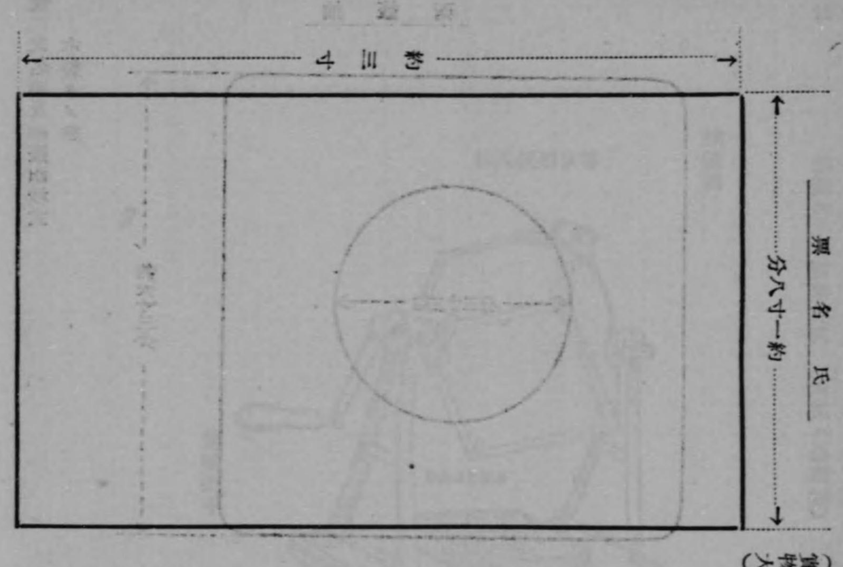
第四號　氏名票及抽籤函樣式

木製タメ塗

抽籤函







〔山梨警〕

●陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件

昭和二年五月二十八日
勅令第百四十六號

陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

陪審法第十二條ノ規定ニ依ル內地又ハ樺太ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一　地租
二　第三種所得稅
三　營業收益稅
四　砂鑛區稅
五　乙種資本利子稅
六　鑛業稅
七　市街宅地稅
八　漁業稅

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
國稅營業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ營業收益稅ト看做ス

●犯罪用物件及贓物假ニ所有主ニ交付ノ件

明治十五年六月
司法省達丙第二四號

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉輾シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ沒收スヘキモノ若クハ證憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クコトヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

〔山梨警〕

●刑事責任無能力者ノ奪取シタル物ノ處分ニ關スル件

昭和五年四月二十六日
警訓第六號

首標ノ件ニ關シ別紙ノ通內務省警保局長ヨリ通牒アリタルニ付取扱上心得ラルヘシ右訓示ス

（別紙）

刑事責任無能力者ノ奪取シタル物ノ處分ニ關スル件

（昭和五年六月二十一日
內務省四神警第二五號）

十四歲ニ滿タサル者ノ奪取シタル物ヲ押收シタルトキ被害者又ハ所有者等押收物ノ還付ヲ受クヘキ者所在不明其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ノ措置方ニ關シ神奈川縣知事ヨリ伺出ノ次第モ有之候處右ノ場合ハ便宜上該事件ト共ニ其ノ物ヲ檢事ニ送致スルトキハ檢事ニ於テ適宜處分スヘキコトニ司法省ト協定致置候條御了知相成度

●軍人軍屬等ニ關係シ及警察官憲兵同時ニ處分シタル犯罪事件取扱手續

明治三十一年二月
甲府地方裁判所檢事正訓示

第一條　司法警察官ニ於テ軍人軍屬ト常人ト共ニ犯セル事件ヲ發見シタル場合ニハ其軍人軍屬ニ付テハ陸海軍治罪法ニ從ヒ處分シ其常人ニ付テハ普通ノ手續ニ從ヒ所轄檢事ヘ送致ノ手續ヲ爲スヘシ（陸軍刑法第三條、第四條、第九條同治罪法第十八條、第二十六條、第三十一條、第四十二條、第四十三條、海軍刑法第五十條、第五十一條、同治罪法第二十一條、第三十一條、第三十七條、第四十二條、第四十五條、第四十九條參照）

第二條　犯罪事件ヲ取調タル後軍人軍屬等ニ係ル犯人ナルコト發見シタルトキ前條ニ同シ

第三條　陸軍々人軍屬等ニ係ル犯罪事件ヲ軍衙ヘ送致スルトキハ可成最寄憲兵屯所ニ送致ノ手續ヲ爲スヘシ

海軍々人ノ現行犯ニ係ルモソヲ巡查ニ於テ逮捕シ若クハ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ巡查ハ前項ノ規定ニ從フ事ヲ得（海軍治罪法第四十五條參照）

第四條　警察官憲兵同時ニ犯罪事件ニ關係シ其事件軍人軍屬等ニ係ルトキハ憲兵屯所ヘ常人ニシテ普通裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ係ルトキハ便宜警察署官署ヘ引渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ憲兵ヨリ常人ヲ警察署官署ヘ引渡シタルトキハ其ノ顚末ヲ具シ所轄檢事ヘ報告スヘシ

第五條　司法警察官ニ於テ軍人軍屬等ニ關スル犯罪事件ヲ陸海軍々衙ニ送致スルトキハ其被告人ノ住所氏名及犯罪事實ノ要領ヲ檢事正ヘ報告スヘシ

第三條第二項ノ場合ニ於テハ巡查ヨリ報告書ヲ差出サシムヘシ

●捜査中止事件取扱心得

明治四十三年七月
日記第二六四二號

捜査中止事件取扱心得別紙ノ通リ相定候ニ付自今之ニ準據シ處理セラルヘシ

一時不起訴事件捜査報告規程ハ之ヲ廢止ス

從前ノ分ハ此際新ニ事件簿ニ登載スルニ及ハス

第一條　各警察署ニ別紙樣式ノ捜査中止事件簿ヲ備ヘ置キ犯人不明ナルカ又ハ犯人若クハ關係人ノ所在不明ナルカ爲メ中止處分ヲ爲シタル事件ニ關シ檢事ヨリ捜査ノ指揮アリタル毎ニ必要ノ記入ヲ爲スヘシ

第二條　前條記入ノ後ハ檢事ノ指定スル期間ノ終了迄隨ヘス捜査ヲ繼續シ時々其ノ狀況ヲ該事件簿ニ記入スヘシ

第三條　犯人ヲ發見シ又ハ犯人若クハ關係人ノ所在ヲ覺知シタルトキハ速ニ檢事ニ報告シ其ノ指揮ヲ受ク可シ

逃走、證據湮滅其ノ他緊急處分ノ必要アルトキハ報告前適宜ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第四條　指定期間ノ終リニ近クモ尙目的ヲ達セサルトキハ期間滿了一ケ月前ニ其ノ狀況ヲ具シ(關係書類アラハ之ヲ添ヘ)檢事ニ報告スヘシ

進行番號	第　號	送致又ハ受付月日	大正　年　月　日
記錄號	第　號	捜査スヘキ者ノ住所氏名年齡	
件名			
捜査ノ目的	犯人　犯人ノ所在 關係人ノ所在		
公訴時效	大正　年　月　日		
犯罪事實概況			
捜査ノ參考トナルヘキ事實			

〔山梨警〕

●司法警察官微罪事件取扱規程

大正二年八月
日記第四〇九七號

第一條　司法警察官告訴以外ノ原由ニ依リ犯罪アルコトヲ認知シ捜査ヲ遂ケタル末罪證十分ナルモ處犯輕微ニシテ處罰ノ必要ナシト認メタルトキハ微罪事件トシテ被告人ニ對シ相當訓戒ヲ爲スニ止メ普通事件トシテ送致スルヲ要セス

第二條　前條ノ場合ニハ別紙樣式ニ從ヒ該當事項ヲ記入シ速ニ所轄檢事ニ報告スヘシ

第三條　第一條ノ場合ニハ一件記錄ノ作成ヲ省略スルコトヲ得

已ニ作成シタル記錄ハ公訴時效完成ニ至ル迄其署ニ保存スヘシ

第四條　第一條ノ事件ニ付キ檢事ヨリ普通事件トシテ送致ヲ命シタルトキハ更ニ必要記錄ヲ整備シ通常ノ手續ニ從ヒ送致スヘシ

第五條　共犯人中ノ一人又ハ數人ニ處罰ノ必要ナシト認ムルモノアルモ其者ヲ分離シテ微罪處分ヲ爲サス不起訴意見ヲ附シ通常事件トシテ共ニ送致スヘシ

共犯人ニ非スト雖モ事實ノ牽連セル犯罪ニ係ルトキ亦同シ

第六條　微罪處分ヲ爲シタルトキハ公訴時效ノ範圍內ニ於テ相當觀察期間ヲ定メ其行動ヲ觀察スヘシ但情狀ニ依リ觀察ノ必要ナシト認メタルトキハ其觀察ヲ省略スルコトヲ得

捜査狀況及ヒ結果	捜査中止事件簿

觀察期間中ト雖モ爾後觀察ノ必要ナシト認メタルトキハ其觀察ヲ解除スヘシ

觀察期間滿了後尙ホ觀察ノ必要アリト認メタルトキハ觀察期間ヲ延長スヘシ

第七條　前條觀察期間中其要觀察人他管內ニ移轉シタルトキハ所轄司法警察官ニ別紙樣式ニ揭ケタル事項ヲ通知シ觀察移牒ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ狀ヲ具シ直ニ所轄檢事ニ報告スヘシ

一　微罪處分ヲ爲シタル犯罪又ハ其他ノ犯罪ニ付キ普通事件トシテ送致シタルトキ

二　觀察ヲ解除シ又ハ觀察期間ヲ延長シタルトキ

三　移轉、死亡又ハ行衞不明ト爲リタルトキ

第九條　微罪處分人名簿ヲ作成シ左記事項ヲ記載スヘシ

一　犯人ノ原籍住所氏名職業年齡等

二　罪名及犯罪事實ノ概要

三　觀察期間及觀察ニ付セサルトキハ其旨

四　觀察ノ狀況及其結果

五　其他必要ノ事項

（樣式）

大正　年　月　日

某署

官氏　名印

某裁判所

檢事（正）氏名殿

微罪事件處分報告

氏名年齡	
本籍	
住所	
族籍職業	
官公吏議員等	
位勳功恩給	
扶助料等	
罪名	

●微罪釋放處分年表進達ノ件

大正七年三月
保收第一二六八號

爾今警察處分ニ係ル微罪釋放事件ニ就テハ毎年一月分ヨリ別紙樣式ニ依リ年表ヲ調製シ翌年一月十日限リ進達スヘシ但特別法犯ニ付テハ法定刑拘留科料ニ該當スルモノハ除外ス

微罪釋放處分第一表

罪名	男 初犯者	男 前科者	女 初犯者	女 前科者	計
刑法犯					
計					
特別法犯					

〔山梨警〕

計		
合計		

微罪釋放處分第二表

罪名	犯罪時季				計
刑法犯	性體	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
	男													
	女													
計	男													
	女													

微罪釋放處分第三表

罪名	犯時年齡							
刑法犯	性體	六年未滿	六年未滿	二十年未滿	三十年未滿	四十年未滿	五十年未滿	六十年未滿	七十年以上	計
	男									
	女									
計	男									
	女									

特別法犯			
	男		
	女		
計	男		
	女		
合計			

微罪釋放處分第四表　附表（未成年者ノ教育程度）

罪名	犯時教育程度					
刑法犯	性體	高等	中等	普通文字ノ讀ミ書キヲ爲シ得ル者	全ク教育ヲ爲シ得ル者ナキ者	不詳	計
	男						
	女						
計	男						
	女						

特別法犯			
	男		
	女		
計	男		
	女		
合計			

●違警罪即決例

明治十八年九月二十四日
太政官布告第三十一號

改正　昭和六年九月法律第六六號

明治十四年九第四拾四號布告及ヒ同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ〔違警罪〕即決例別紙ノ通制定ス
右奉　勅旨布告候事
（別紙）

〔違警罪〕即決例

第一條　警察署長及ヒ〔分署長〕又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル〔違警罪〕ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ
又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ニ對シテハ〔違警罪裁判所〕ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ配偶者ハ被告人ノ爲獨立シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限竝ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ〔違警罪裁判所〕檢察官ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ〔一圓ヲ一日〕ニ折算シテ之ヲ留置ス其〔一圓〕ニ滿サル者ト雖モ仍ホ〔一日〕ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ〔一日ヲ一圓〕ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サヽル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十條ノ二　前二條ノ規定ニ依リ留置シタル場合ニ於テハ速ニ被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者及ヒ被告人ノ屬スル家ノ戸主中被告人ノ指定スル者ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ〔一日ヲ一圓〕ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第十四條　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ留置セラレタル者ノ接見又ハ書類其他ノ物ノ接受ニ付テハ刑事訴訟法第百十一條及ヒ第百十二條第一項ノ規定ヲ準用ス但接見ハ之ヲ禁止スルコトヲ得ス

●違警罪卽決例執行手續

昭和六年八月
山梨縣訓令乙第百四十四號

第一條　警察官吏拘留科料ニ該ル犯罪ニ付報告スル場合ハ第一號樣式ニ依ルヘシ

第二條　警察署長軍人軍屬ノ拘留科料ニ該ル犯罪ヲ認知シ又ハ其ノ報告ヲ受ケタルトキハ速ニ一件書類ヲ甲府憲兵分隊長ニ移送スヘシ

第三條　警察署長ハ犯罪ノ情狀及犯人ノ身分等ニ照シ處分ノ必要ナシト認メタルトキハ之ヲ免除シ訓戒ニ止ムルコトヲ得

第四條　免除シタル場合ニ於テ被告人ノ住所他管內ナルトキハ第二號樣式ニ依リ所轄警察官署ニ訓戒ヲ囑託スルコトヲ得
前項ノ囑託ヲ受ケタル警察官署ハ速ニ訓戒ノ手續ヲ了シ關係書類ハ特定ノ簿冊ニ編綴スヘシ

第五條　拘留科料ノ言渡書ハ第三號樣式ニ依リ作製シ對席ノ場合ニ在リテハ之ヲ讀聞カセ闕席ノ場合ニ在リテハ言渡書ニ第四號樣式ノ送達書ヲ添ヘ本人又ハ其ノ住所ニ送達スヘシ
言渡書ノ送達ハ巡査ヲシテ爲サシムヘシ

〔山梨警〕

第六條　拘留科料ノ言渡ヲ爲シ違警罪卽決例（以下單ニ卽決例ト稱ス）第八條ニ基キ同例第九條又ハ第十條ノ規定ニ依ル處分ヲナサムトスルトキハ第五號樣式ニ依ル保證金差出命令書又ハ第六號樣式ニ依ル科料金假納命令書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ若シ應セサルトキハ第七號樣式又ハ第八號樣式ニ依ル留置命令書ヲ作リ之ヲ讀聞カスヘシ
留置中保證金又ハ假納金ヲ差出シタルトキハ留置日數ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額ヲ徵收シ留置ヲ解クヘシ

第七條　闕席言渡ノ場合ニ於テ被告人ノ住所他管內ナルトキハ第九號樣式ニ依リ言渡書ノ送達及刑ノ執行ヲ其ノ所轄警察官署ニ囑託スルコトヲ得
前項ノ囑託ヲ受ケタル警察官署ハ速ニ送達ノ手續ヲ爲シ又刑ノ執行ヲ了シタルトキハ送達書ノ欄外ニ執行年月日ヲ記入シ署長認印ヲ爲シ囑託署ニ返付スヘシ
言渡ヲ受ケタル者死亡、所在不明、他管內轉住等ノ爲メ送達又ハ刑ノ執行不能ノトキハ其ノ旨ヲ具シ一件書類ヲ囑託署ニ返送スヘシ

第八條　卽決例第十條ノ二ノ通知ハ被告人ヲシテ同條ニ列記シタル者ノ內ヨリ一名（特別ノ事情アル場合ニ於テハ數名）ヲ指定セシメ第十號樣式ノ書面ヲ以テ卽日之ヲ發送シ其ノ旨第十一號樣式ノ帳簿ニ記載シ置クヘシ
被告人カ卽決例第十條ノ二ニ依リ通知スヘキ者ヲ指定セサルトキハ第十一號樣式ノ帳簿ニ其ノ旨記載シ置クヘシ

第九條　正式裁判ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ受理ノ日時ヲ申立書ノ餘白ニ記入シ第十二號樣式ニ依ル正式裁判請求事件送致書ヲ添ヘ一件書類ヲ法定期間內ニ所轄檢事ニ送致スヘシ但シ此ノ場合ニ在リテハ一件書類ヲ謄寫シ其ノ署ニ保存スヘシ
卽決例第三條第二項ニ依リ正式裁判ノ請求ヲ爲ス者アリタル場合ニ於テ

〔山梨警〕

ハ被告人ノ法定代理人保佐人又ハ配偶者ニ非サル者ヨリノ請求ト認メラルヽトキハ前項ノ手續ニ依リ一件書類ヲ檢事ニ送致スル際送致書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十條　科料金ハ收入印紙ヲ以テ納付セシメ言渡書又ハ囑託書ノ欄外ニ貼付シ消印ヲ爲スヘシ但シ假納ニ係ルトキハ言渡ノ確定シタル後消印ヲ爲スヘシ

第十一條　拘留刑ノ執行又ハ科料金不納ノ爲勞役場留置ヲナサントスルトキハ第十三號樣式ノ引致命令書ヲ發シ之ヲ執行スヘシ

第十二條　拘留四又ハ勞役場留置人ヲ刑務所ニ送致シ又ハ殘刑ノ執行ヲ他署ニ囑託セムトスルトキハ第十四號樣式ニ依ル執行狀ニ言渡書ノ謄本ヲ添付シテ之ヲ爲スヘシ

第十三條　留置セラレタル者ニ對シ接見ヲ請フ者アルトキハ其ノ住所氏名、年齡、留置セラレタル者トノ續柄、面談ノ要旨等ヲ聽取シタル後左ノ接見心得事項ヲ告知シテ接見セシムヘシ
一、接見者ハ總テ警察官吏ノ指示ニ從フコト
二、接見者ハ豫メ申出タル面談ノ要旨以外ノ事項ニ渉リ談話スヘカラサルコト
三、特ニ承認ヲ得タル者ニ非ラサレハ外國語ヲ用ウヘカラサルコト
四、接見ノ際ニハ直接金品ヲ授受スヘカラサルコト
五、談話ハ簡明ヲ旨トシ冗長ニ渉ラサル樣注意スルコト
六、接見ノ際立會警察官吏ノ指示ニ從ハス其ノ他不穩ノ言動アルトキハ接見ヲ停止スルコトアルヘキコト

第十四條　接見ハ止ムヲ得サル事情アル場合ノ外其ノ時間ハ三十分以內トセシムヘシ
接見ハ執務時間內ニ限ラシムヘシ但シ正式裁判申立ノ期間切迫セル場合其ノ他止ムヲ得サル事情アル場合ニ於テハ執務時間外ト雖モ之ヲ認ムルコトヲ得

第十五條　接見ニハ警察官吏立會シ接見室其ノ他逃走等ノ虞ナキ適當ノ室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第十六條　接見ノ際ニハ外國語ハ警察署長ニ於テ承認シタル場合ノ外之ヲ使用セシムヘカラス

第十七條　接見ノ顚末ハ第十五號樣式ノ帳簿ニ記入シ置クヘシ

第十八條　留置セラレタル者ノ發スル信書ハ封緘ヲ爲サシテ之ヲ警察署長ニ差出サシメ留置セラレタル者ニ宛テタル信書ハ警察署長ニ於テ開披シ之ヲ檢閱シタル上交付スヘシ

第十九條　外國語ヲ用キタル信書ハ必要ニ依リ留置セラレタル者ノ費用ヲ以テ警察署長ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ讀譯セシムルコトヲ得
留置セラレタル者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其ノ負擔ヲ肯セサルトキハ場合ニ依リ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第二十條　留置セラレタル者ノ發受スル信書ノ檢閱發送及交付ノ手續ハ成ルヘク速ニ之ヲ爲スヘシ

第二十一條　留置セラレタル者ノ信書ノ發送交付及廢棄ノ年月日相手方ノ住所氏名其他必要ナル事項ハ留置場規程ニ依リ作成シタル在監人名籍簿ニ記載シ置クヘシ

第二十二條　留置セラレタル者ニハ筆、墨、紙、印紙、郵便切手、郵便端書、金錢、衣類、臥具、飮食物、手巾、履物又ハ警察署長ニ於テ特ニ許容シタル物ニ限リ差入ヲ許スヘシ

第二十三條　差入ヲ許スヘキ衣類臥具ハ時季ニ適シ且ツ留置場ノ紀律及衞生ニ害ナキ物ニ限リ又飮食物ハ留置場ノ紀律及衞生ニ害ナキモノニ限ルヘシ

第二十四條　新聞紙時事ノ論說ヲ記載シタル文書及留置場ノ紀律ヲ害スベキ物ノ差入ハ之ヲ許スヘカラス

第二十五條　留置セラレタルモノニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其ノ差出人ノ氏名若ハ住所不明ナルトキ其ノ差入ヲ許スヘカラスト認ムルトキ又ハ留置セラレタル者ニ於テ其ノ受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第二十六條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ第十六號樣式ノ沒入廢棄簿ニ其ノ品目數量竝處分ヲ爲シタル理由及年月日ヲ記載シ警察署長之ニ證印スヘシ

第二十七條　差入ヲ爲サムト請フ者アルトキハ其ノ住所氏名身分職業等ヲ調査スヘシ

第二十八條　留置セラレタル者ニ宛テ送致シ來リタル物又ハ差入ヲ爲シタル物ハ巡査部長以上ノ者立會ノ上巡査ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ飲食物ノ檢査ハ必要ニ依リ警察醫ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第二十九條　卽決例第十四條及刑事訴訟法第百十二條第一項ノ規定ニ依リ書類其ノ他ノ物ノ授受ヲ禁シ若クハ之ヲ差押フルノ處分ハ第十七號樣式ノ命令書ヲ以テ之ヲ爲シ第十八號樣式ノ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第三十條　警察署ニ於テハ左記簿冊ヲ設クヘシ

一、拘留科料言渡書類編（言渡書、報告書、聽取書、正式裁判申立書寫其ノ他言渡關係書類ヲ綴リ第十九號樣式ノ索引ヲ附ス）

二、拘留科料執行書類編（送達書、執行不能其ノ他執行ニ關スル書類ヲ綴ル）

三、拘留科料刑執行受託書類編（囑託書類其ノ他受託事件執行ニ關スル書類ヲ綴リ第二十號樣式ノ索引ヲ附ス）

四、拘留科料免除書類編（刑ノ免除ヲ爲シタル事件ノ關係書類ヲ綴リ第二十一號樣式ノ索引ヲ附ス）

五、卽決事件訓戒受託書類編（免除處分事件ノ訓戒受託關係書類ヲ綴ル）

六、通知簿

七、接見簿

八、沒入廢棄簿

九、文書其ノ他ノ物件授受禁止差押簿

附　則

第三十一條　本手續ハ違警罪卽決例改正法律施行ノ日ヨリ實施ス

第三十二條　大正十年十月訓令第二二一號拘留科料卽決及執行手續ハ本手續實施ト同時ニ之ヲ廢止ス

第一號樣式（用紙半紙）

報告書	
被告人住所身分職業氏名年齡（少年犯ニ在リテハ生年月日）	
犯罪年月日時	
犯罪場所	
犯罪事實	
法令適條	
備考	（本欄ニハ犯罪ノ情狀處分ニ關スル意見其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ具體的ニ記載スルコト）

〔山梨警〕

右及報告候

昭和　年　月　日　何警察署　巡査　氏　名印

何警察署長　官　氏　名殿

第二號樣式（用紙半紙）（回答不要）

卽決事件訓戒方囑託

被告人住所身分職業氏名年齡	
犯罪年月日時	
犯罪場所	
犯罪事實	
法令適條	

右ハ所犯輕微ニシテ處罰ノ必要無之免除處分致シ候ニ付キ本人ニ對シ相當御訓戒相成度此段及囑託候也

昭和　年　月　日　何警察署長　官　氏　名

何警察署長　官　氏　名殿

第三號樣式（用紙半紙）

言渡書

右ハ昭和　年　月　日　時　ニ於テ　ハニ該當スルヲ以テ　ニ處ス若シ確定後十日內ニ納付セサルトキハ　日間勞役場ニ留置スヘシ

此言渡ニ對スル正式裁判請求期間ハ（言渡アリタルヨリ三日內トス）言渡書ノ送達ヲ受ケタルヨリ五日內トス

昭和　年　月　日　何々警察署長　官　氏　名印

第四號樣式（用紙半紙）

送達書

一言渡書	通	受取人ノ署名捺印若シ能ハサル時ハ其ノ理由	
右		送達シタル月日時	昭和　年　月　日午　時
		送達シタル場所	

ニ送達スヘキモノ也

昭和　年　月　日

何警察署

親族若クハ雇人同居者ニ書類ヲ渡シタル時ハ其ノ理由	右送達致候也 昭和　年　月　日 何警察署詰 巡査氏　名印

第五號樣式（用紙半紙）

保證金差出命令書

住所　氏名　年齡

昭和年月日何取締規則第何條違反事件ニ付キ拘留何日ニ處シ保證金何圓ヲ差出スヘキコトヲ違警罪即決例第十條ニ依リ命令ス

昭和　年　月　日

何警察署長（代理）

官氏　名印

第六號樣式（用紙半紙）

科料金假納命令書

住所　氏名　年齡

昭和　年　月　日何取締規則第何條違反ニ付キ科料何圓ニ處シ假納スヘキコトヲ違警罪即決例第九條ニ依リ命令ス

〔山梨警〕

第七號樣式（用紙半紙）

留置命令書

住所　氏名　年齡

昭和　年　月　日何取締規則第何條違反事件ニ付拘留何日ニ處シ保證金何圓ヲ差出スヘキ旨命シタルモ之ヲ差出ササルニ付違警罪即決例第十條ニ依リ何日留置ス

昭和　年　月　日

何警察署長（代理）

官氏　名印

第八號樣式（用紙半紙）

留置命令書

住所　氏名　年齡

昭和　年　月　日何取締規則第何條違反ニ付科料何圓ニ處シ假納スヘキコトヲ命シタルモ納メサルニ付違警罪即決例第九條ニ依リ何日留置ス

昭和　年　月　日

何警察署長（代理）

官氏　名印

昭和　年　月　日

何警察署長（代理）

官氏　名印

第九號樣式（用紙半紙）

囑託書

住所氏名	
處分年月日	
刑名刑期	
法令適條	

右ノ通リ即決處分候條別紙言渡書送達ノ上執行方御取計相成度候也

昭和　年　月　日

何警察署長

官氏　名印

何警察署長

官氏　名殿

第十號樣式（用紙半紙）

通知書

被留置者　住所　氏名　年齡

右者何々違反ニ依リ昭和　年　月　日拘留何日（又ハ科料何圓）ニ處シタルニ保證金（又ハ假納金）ヲ納メサルヲ以テ違警罪即決例第十條（第九條）ニ依リ之ヲ留置シタリ右同例第十條ノ二ノ規定ニ基キ被告人ノ指定ニ依リ此段及通知候也

昭和　年　月　日

何警察署長

官氏　名印

住所

何某殿

第十一號樣式（用紙半紙）「即時留置通知控簿」

署長認印	警部警部補又ハ巡査部長認印	被告人ノ住所氏名年齡	即決言渡年月日及刑名	刑期	被告人ノ指定シタル者ノ住所氏名及被告人トノ續柄	通知書ヲ發送シタル年月日時	被告人カ通知スヘキ者ヲ指定セサルトキハ其ノ事實

主任

第十二號樣式（用紙半紙）

正式裁判請求事件送致書

本籍　住所　氏名　年齡

所關條項

刑　拘留　何日
　科料　金何圓
右頭書ノ通リ卽決言渡シタル處正式裁判請求候ニ付一件書類及送致候也
昭和　年　月　日
何警察署長
官氏　名印
何區裁判所
檢事　何某　殿

第十三號樣式（用紙半紙）

引致命令書

本籍住所　職業
氏名　年齡
何取締規則違反
拘留何日（科料何圓）留置何日
右之者頭書ノ通リ昭和　年　月　日　何縣何警察署ニ於テ拘留（科料）ノ言渡ヲ受ケ確定シ（科料ニ在リテハ「十日ヲ經過シ」ト書ス）タルニ付之カ（科料ニ在リテハ「勞役場留置ノ爲當署ニ引致スヘシ」ト書ス）執行ノ爲メ當署ニ引致スヘシ
昭和　年　月　日
何警察署長
官氏　名印

執行シタル年月日時	昭和　年　月　日午前後　時
執行シタル場所	
執行スルコト能ハサルトキハ其ノ理由	

右之通ニ候也
昭和　年　月　日
巡査氏　名印

第十四號樣式（用紙半紙）

執行狀

罪名		
言渡年月日	昭和　年　月　日	被告人ノ住所氏名年齡
確定年月日	昭和　年　月　日	
執行始期	昭和　年　月　日	
執行スヘキ刑名刑期	拘留　日 但殘刑　日執行濟	備考

右ノ者ニ對シ別紙ノ通リ卽決言渡ヲ爲シ頭書ノ通リ執行未了ニ付殘刑執行相成度候也
昭和　年　月　日
何警察署長　官氏　名印
甲府刑務所長官氏名殿
（何警察署長官氏名）殿

第十五號樣式（用紙半紙）（接見顚末記載簿）

署長認印	警部警部補又ハ巡査部長認印	立會者認印	主任
接見ノ年月日時			
接見者ノ住所職業氏名年齡及拘留人トノ續柄其ノ他ノ關係			
留置人ノ種別及氏名			
接見ノ要旨			
談話ノ要領			
備考			

第十六號樣式（用紙半紙）（沒入廢棄簿）

署長認印	處分年月日	品目	數量	沒入廢棄ノ留置人別及其ノ理由氏名	主任	備考

第十七號樣式（用紙半紙）

命令書

一、何々　何點
縣郡村何某（留置人何某）ヨリ留置人何某（縣郡村何某）ニ宛テ發送セル頭書物件ハ逃警罪卽決例第十四條及刑事訴訟法第百十二條第一項ニ依リ（之ヲ差押フ）之カ授受ヲ禁ス
右命令ス
昭和　年　月　日
何警察署長
官氏　名印

第十八號樣式（用紙半紙）

文書其他ノ物件授受禁止差押簿

署長認印	處分年月日	品目	數量	授受禁止又ハ差押ノ別及其ノ理由	留置人氏名	主任	備考

第十九號樣式（用紙半紙）

索引（拘留科料言渡書類編）

進行番號	處分月日	法令適條	刑名刑期	送達月日	執行又ハ完納月日	氏名	備考
一	九、三	……	五日	—		川野流水	即日正式裁判請求ニ付一件記錄檢事ヘ送致ス九月十日裁判ノ結果三日ニ確定ス
二	同	……	五圓	九、五	九、一〇 (印) 市川署ヘ	海野ツネ	市川署ヘ囑託ス九月十日完納ノ通知アリ
三	同	……	二圓	同	九、一〇 (印)	甲斐昌一	甲府署ヘ囑託ス十日當署ヘ完納ニ付キ甲府署ヘ通知ス

第二十號樣式（用紙半紙）

索引（拘留科料刑執行受託書類編）

進行番號	受託月日	署名	法令適條	刑名刑期	送達月日	執行又ハ完納月日	氏名	備考
一	九、一	甲府	……	五日		九、五 (印)	……	九月十日執行濟ノ旨甲府署ヘ通知
二	同	石和	……	一圓	九、五		……	直接石和署ニ完納ノ通知アリ送達書ヲ返戻ス (印)

第二十一號樣式（用紙半紙）

索引（拘留科料免除書類編）

進行番號	違反年月日	適條	訓戒年月日	訓戒別	氏名
一	月日	……	月日	呼出ノ上訓戒	
二	月日	……	月日	何署ヘ囑託	
三	月日	……	月日	又ハ何々	

●違警罪即決例執行手續制定ノ件

昭和六年八月
警訓第二一號

本日付訓令乙第一三三號ヲ以テ違警罪即決例執行手續ヲ定メ違警罪即決例改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ實施セラルルコトトナリタルカ右ハ第五十九議會ノ議決ヲ經タル同法律ニ於テ(一)正式裁判請求權者ノ擴張(二)留置セル場合ニ特定人ヘノ通知(三)被留置者トノ接見其ノ他ノ自由容認ノ三點ヲ追加セラルル爲之カ執行ニ關スル手續ヲ新ニ規定スルノ必要アリタルト且ハ舊手續中ニハ軍人軍屬ノ拘留科料刑ニ該ル犯罪ニ對スル取扱免除處分ヲ爲シタル事件ノ訓戒竝拘留殘刑ノ執行ヲ他署ニ囑託スル場合ノ手續及缺席言渡ノ場合ニ言渡書ノ送達竝刑ノ執行ヲ他署ニ囑託セルトキ之カ結果回報ノ手續等ヲ定メアラス又舊手續第二條ニハ拘留科料ニ該ル罪ニ付告訴告發ヲ受ケ又ハ自首アリタル場合ノ手續ヲ規定シアリシモ斯ノ場合ハ刑事訴訟法第二百七十四條及司法警察官職務規範第百十一條ニ依リ取扱ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ即決手續ニ規定スヘキモノニアラスト認メ之ヲ削除シ其ノ他多少ノ修正ヲ要スル點アリタルヲ以テ此ノ機會ニ執行手續全部ヲ改正セラレタルモノナルカ以上ノ改正部分以外ハ從來ノ取扱ト殆ト異ナラサルニ付心得置カルルト共ニ改正ノ點ニ就テハ今ヨリ研究シ置キ實施上誤ナキヤウセラルヘク尙改正法律ノ要旨ハ人權尊重ノ趣旨ニ基キ正式裁判ノ申立ヲ一層容易ナラシメムトスルニ外ナラス元來拘留科料ニ該ルヘキ犯罪ハ罪質輕微ナル爲動モスレバ其ノ取扱周到ヲ缺クノ虞ナキヲ保シ難ク其ノ措置ノ如何ニ依リテハ人權ニ影響スル所甚大ナルモノアルヲ以テ改正法律ノ運用ニ當リテハ立法ノ精神ニ鑑ミ萬遺憾ナキヲ期セラルヘシ右訓示ス

●違警罪執行ニ關スル刑期ノ件

明治四十五年一月
梨警收第五號

違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲セシモ即日保證金ヲ差出セシニ依リ留置ヲ解キタル場合ニ於テ其留置ハ假令短時間ナリト雖モ即決例第十三條ノ適用ニ際シテハ之ヲ拘留一日ト計算シ從テ第十一條ニ依リ保證金ヲ以テ本刑ニ換フル場合ニ於テモ之ヲ壹圓ニ換算スヘキ筋合ノモノナル處往々敍上ノ取扱ニ出テサル向アルヤノ聞ヘアリ處分上注意スヘシ

●違警罪即決例適用ニ關スル件

大正八年十月
保收第六八六二號

違警罪即決例適用ニ關スル件ニ付別紙ノ通川村內務省警保局長ヨリ通牒相成候條處分上心得ラルヘシ

違警罪即決例適用ニ關スル件依命通牒（大正八年十月內務省發警第一一九號）

違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ留置中保證金ヲ差出シタルモノニ對スル日數ノ計算方竝ニ同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時刑期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタルモノ刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其ノ執行ヲ受ケサル場合ニ於ケル取扱方各府縣區々ニ涉ル點有之候處今後左記ニ依リ御處理相成度候

追テ本件ハ司法省ト打合濟ニ付申添候

左記

一　違警罪即決例第十條ニ基キ留置ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ翌日又ハ其以後ニ保證金ヲ差出シタルトキハ假令差出ノ日カ一日ニ滿タサル場合ト雖モ之ヲ一日ニ計算スルコト

二　同條ニ依リ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時刑期ニ相當スル金額ヲ保證トシテ差出シタル者刑ノ言渡確定シタル後直ニ出廷シテ其執行ヲ受ケサルトキハ此等ノ者ニ對シ拘留執行ヲ强制スル方法ヲ講スルコトナク第十一條ニ依リ保證金ヲ沒入シ本刑ニ換フルコト

●即決處分ノ科料金ニ關シ勞役場留置ノ言渡ヲ爲シ得ルノ件

明治四十一年九月
司法省民刑甲第二一二號

本月二十四日警山第三七號ノ內ヲ以テ違警罪即決例ニ依リ科料ヲ言渡ス場合ニ於テ勞役場留置ノ言渡シヲモ爲シ得ルヤ否等其他ノ件ニ關シ御照會ノ趣領承右ノ場合ニ於テモ勞役場留置ノ期間ヲ定メ同時ニ之ヲ言渡スヘク而シテ若シ科料ヲ完納セサルトキハ同例第九條ニ依リ刑法第十八條第五項ニ定ムル期間內ハ勿論言渡シタル科料ノ金額ニ達スルマテ引續キ留置スヘキモノト思考致シ候又刑法施行前ニ於テ警察官署カ言渡シタル科料處分ニ付テハ刑法施行法第十三條ニ準シ警察官署ニ於テ其決定ヲ爲スヘキモノト思考致シ候將又留置スヘキ勞役場ハ監獄法第一條第八條及第九條ニ依リ警察官署ノ留置場ヲ以テ代用シ得ヘキモノト被考量候此段及回答候也

●即決處分ノ科料ニ對シテハ强制

〔山梨警〕

別紙ノ通內務省警保局長ヨリ通牒有之候ニ付テハ即決事件處理上注意セラルヘシ

別　紙（大正七年十月　內務省司警第五號）

通般各地方ニ起リタル米價暴騰ニ因ル騷擾事件ニ關シ騷擾恐喝ノ罪ノ首魁若ハ助勢者トシテ證據十分ナル事案ニ對シ別々不起訴處分理由書ノ通所轄警察官署ハ警察犯處罰令第一條第四號竝第二條第十一號ニ該當スルモノトシテ處分ヲ爲シタル結果公訴權消滅ニ歸シ起訴ノ手續ヲ爲ス能ハサルコト、相成タルモノ有之右ハ事案ノ調查徹底セサルノ致處ナルヤニ認メラレ將來ニ於ケル即決處分上大ニ考慮ヲ要スヘキコト、致思考候本件ニ付テハ特ニ司法省法務局長ヨリ通牒ノ次第モ有貫部下ニ對シ愼重處理候樣御示達相成度候

追テ右ノ外客年中東京市下谷區西黑門町二十二番地遠藤德右衞門ナル者印刷セル誇大廣告ヲ全國ニ配付シ各地ノ購買者ニ對シ不當ノ粗惡品ヲ販賣シタル事件ニ付全國警察署ニ於テ前後百數回警察犯處罰令第二條第六號ニ依リ即決ノ言渡ヲ受ケ何レモ正式裁判申立ノ結果水戶區裁判所ニ於テ內一件ニ付僅ニ科料五圓ニ處セラレ右判決確定シタル爲メ他ハ違犯タルノ關係上全部免訴ノ判決相成タル事例モ有之尤モ這回ノ事件トハ相違ノモノニ有之候得共如斯連續犯ノ場合ニ於テハ周密取調ノ上關係警察官署ト張絡ヲ通シ全部ヲ一罪トシテ之ニ相應セル科罰ヲ以テ監シ取締ノ目的ヲ達スル樣併テ御示達相煩度御參考申添候

別　紙

騷擾恐喝未遂罪（刑法一〇六條二九四條二項）

大正七年九月六日　不起訴處分

被告　兵庫縣津名郡富島村　理髮業　笠松富士太郎
同　同　魚業　濱口勝太郎
同　同　田中辰藏
同　同　長野寅藏
同　同　物品販賣業　南繁藏
同　同　志田淸吉
同　同　坂部相藏

犯罪事實及理由

被告等ハ大正七年八月米價暴騰シタルヨリ之カ廉賣ヲ要求スル暴民ノ騷擾各地ニ湧起スルアリ又居村ノ對岸地タル播州明石ニモ同種ノ暴動發生シタル場合漁夫薄井信藏ハ同月十三日偶然同地ニ到リ一升十八錢ノ相場ニテ白米若干ヲ廉買シ歸リタルヨリ此事一般ノ評判トナリ益々被告等ヲシテ廉買强要運動ヲ起スヘク刺戟セシメタル爲メニ被告等ハ他ノ多數ノ者ト共ニ同日午後七時頃ヨリ居村小字西ノ町戎神社附近ニ集合シ其ノ數約二百ニ達シ被告富士太郎ハ床机ノ上ニ立チテ現ニ播州明石ニハ一升十八錢ニテ廉賣スル由ナレハ當地ハ二十五錢ニテ廉買セシメテハ如何就テハ交涉委員ヲ選定シ此集會ノ人々ト共ニ米屋ニ押掛廉賣ヲ交涉スルニ若カストノ旨ヲ演說シ會集之ニ和シ被告勝太郎ハ富士太郎ヲ交涉委員タラシムヘク提議シ同人ヲ交涉員ニ推擧シ同日午後八時頃富士太郎、勝太郎、辰藏等ハ卒先シテ米商田路富士吉方ニ入リ他ノ被告ハ群衆ト共ニ其ノ附近ニ立チ若シ要求ヲ聽カスンハ何時暴行アルヤ因ラサルノ氣勢ヲ示シ富士太郎ハ田路ニ對シテ白米一升二十五錢ノ相場ニテ廉賣スヘキ旨ヲ交涉シタルニ田路ハ言ヲ左右ニシ容易ニ之ヲ肯ンセサルニ依リ屋外ノ群衆ハ何ヲケズ〳〵スルカ話カ早ク纏ラネハヤレー、ヤレート叫フモノアリ引出セト言フ者アリ漸ク喧噪增大シ來リ或ハ電燈ヲ打チ消ス者アリ或ハ麥米、醬油等ノ商品ヲ地上ニ引キ撒ク等ノ暴行ヲ演スル者アルニ至リタリ先是田路ハ危害ノ身ニ及ハンコトヲ畏レ遁去シタルヨリ被告等ハ遂ニ田路ヲシテ白米廉賣ノ承諾ヲ爲サシムルニ

徵收ヲ爲スヲ得サル件

明治四十一年十一月
梨警發第三二四號

警收第五七號ノ內

甲號照會ニ對シ乙號ノ通リ回答候條御參考迄及通牒候也

甲　號

秋田縣知事ヨリ警保局長宛（明治四十一年十月）

秋發保第四一五三號

警察官署ニ於テ即決シタル科料ノ徵收ニ際シ犯人相當ノ財產ヲ有スルモ任意ニ之ヲ納付セサル場合ニハ刑法第十八條二項刑事訴訟法第三百二十條三項等ノ主旨ニ依レハ直ニ勞役場留置ノ執行ヲ爲スヲ得スシテ强制徵收ヲ爲サヽルヘカラサルコト、被考候處右ノ場合ニハ如何ナル順序ニ依リ執行致スヘキ儀ニ有之候哉至急御意見承知致度此段及照會候也

乙　號

警保局長ヨリ秋田縣知事宛回答（明治四十一年十一月）

警秋第五七號ノ內

客月二十三日付秋發保第四一五三號ヲ以テ警察官署ニ於テ即決言渡シタル科料徵收方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ警察官ニ於テ刑法施行法第五十條及刑事訴訟法第三百二十條第三項ニ依リ强制徵收スルヲ得サルニ付違警罪即決例第九條又ハ刑法第十八條ニ依リ留置ヲ爲スヘキモノト存候此段及回答候也

●違警罪即決處分ニ關スル件

大正七年十一月
保收第六三五四號

至ラスシテ其ノ目的ヲ遂ケサルナリ

然ルニ所轄岩屋警察分署ハ前揭各被告ニ對シ事實ヲ目シテ警察犯處罰令第一條第十一號（南葉藏拘留十日其ノ他各四日）ニ該當スルモノナリト見做大正七年八月十七日各被告ニ對シ卽決處分ニ付シ其處分確定シタルモノニ係ルヲ以テ確定判決ニ依ル公訴權消滅ニ歸シタルモノト同一ナルカ故ニ起訴ノ手續ヲ爲サヽル所以ナリ（洲本區裁判所檢事）

騷擾恐喝罪（刑法第一〇六條同第二四九條第二項）

大正七年九月六日　不起訴處分

被告　兵庫縣津名郡富島村　漁業　山添岩次郎

同　同　雜寸職工　吉田力松

犯罪事實及理由

被告等ハ大正七年八月十三日居村小字西ノ町戎神社附近ニ現ハレタル群衆ノ一團カ同地米商田路富士吉方ヲ襲撃シ破壞暴動ヲ爲シタルヨリ各米商間ニ甚タシク恐怖セルニ乘シ多數ヲ率ヒテ織田半藏、登淺吉ノ二米商ヲ襲ヒ白米ノ廉賣ヲ承諾セシメンコトヲ企テ同夜八時頃西條彙吉方表街路ニ集合シ多數ノ者ヨリ廉賣交涉員ニ推擧セラレ多衆ト共ニ前記二名米商ヲ襲ヒ廉賣ヲ强要シ當時一升四十五錢ノ白米ヲ二十五錢ニ廉賣スルコトヲ承諾セシメ財產上不法ノ利益ヲ得各々首魁トナリテ騷擾恐喝ヲ爲シタルモノナリ

然ルニ所轄岩屋警察分署ハ前揭各被告ニ對スル事實ヲ目シテ警察犯處罰令第一條第四號ニ該當スルモノナリト做シ大正七年八月十七日被告岩次郎ニ對シ拘留四日被告力松ニ對シ拘留十日ニ處シ其ノ處分確定シタルモノニ係ルヲ以テ則チ確定判決ニ因ル公訴權消滅ニ歸シタルモノト同一ナルカ故ニ起訴ノ手續ヲ爲サヽル所以ナリ（洲本區裁判所檢事）

●違警罪卽決例ニ依ル正式裁判申立期間計算ニ關スル件

大正五年十月
保親收第一三六號

違警罪卽決例ニ依ル正式裁判申立期間計算方ニ關シ甲號熊本縣知事ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答シ置キタル旨內務省警保局長ヨリ通牒アリタルニ付取扱上心得ヘシ

甲號

熊本縣知事照會（大正五年七月十八日保第五四二號）

違警罪卽決例第五條ノ期限計算方ニ關シテハ明治二十九年十二月一日岐阜地方裁判所檢事正ノ請訓ニ對スル明治三十年一月八日民刑甲第一號司法大臣訓令及明治四十一年七月七日室蘭區裁判所檢事ノ問合ニ對スル同年七月九日民刑甲第一二六號民刑局長ノ回答ニ依レハ「前者ハ警察署ハ無休暇ノ官廳ナルヲ以テ刑事訴訟法第十五條中若シ最終ノ日云々以下ノ規定ハ違警罪卽決例ニ關シ準用スヘキ場合ナキモノトスト云ヒ後者ハ正式裁判申立期限ノ終日カ休暇日ト雖モ期限ニ算入スヘキモノトス」トアリテ從來本縣ニ於テハ右ノ趣旨ニ依リ取扱居候處大正五年(れ)第四七三號同年四月十九日宣告大審院ノ判決例ニ依レハ之ト反對ノ解釋ヲ採リ須ク刑事訴訟法第十五條ノ規定ニ遵據シ期間ノ初日ヲ算入セサルト共ニ期間ノ末日休暇ニ相當スルトキモ亦之ヲ期間ノ算入スヘカラサルモノト解スルヲ正當トス」ト判決シタリ固ヨリ大審院ノ判決ヲ以テ大臣ノ訓令ヲ變更スルヘカラサルハ勿論ノ儀ナルモ苟モ最高ノ裁判所ニ於テ斯ル判決ヲ爲セル以上ハ警察署ニ於ケル實際ノ取扱トシテハ何レニ從テ穩當トスヘキヤ聊カ貴官ノ御意見承知致度此段及照會候也

乙號

違警罪卽決例ニ依ル正式裁判申立期間計算ニ關スル件

回答（警保局長回答警熊第一五七號ノ內）

本年七月十八日付保第五四二號ヲ以テ本件ニ付御照會ノ趣モ有之司法省法務局長ニ對シ意見及問合候處本件期間計算方ノ義從來期間ニ算入スヘキ省議ニ有之候處今般之ヲ變更シ期間ニ算入セサルコトニ省議決定候旨回答有之候間右ニ依リ御取扱相成樣致度右申進候也

●違警罪卽決例ニ依ル保證金取扱ニ關スル件

大正十五年五月
刑收第四二四五號

違警罪卽決例ニヨル保證金ノ取扱ニ關シ別紙ノ通リ內務省警保局長ヨリ通牒アリタルヲ以テ取扱上心得ヘシ

別紙

（甲號）

兵會第一七八〇號
大正十五年一月十六日

兵庫縣知事

大藏省主計局長殿

違警罪卽決例ニ依リ保證金取扱ニ關スル件

違警罪卽決例ニ依ル拘留處分ニ對シ正式裁判請求ノ爲メ保證金ヲ提出シタル場合ハ明治四十四年神奈川縣知事ノ請訓ニ對スル依命回答ニ依リ該保證金ハ一件記錄ト共ニ裁判所ニ送致スヘキモノナリトノ理由ニ依リ保管轉換方要求スル向有之候然ニ從來本縣ニ於テハ正式裁判請求ト同時ニ一件記錄ノミ裁判所ニ送致シ保證金ハ卽決例ノ範圍ヲ脫スルモノニ付正式裁判ノ結果ニ依ラス本人ノ請求ニ依リ五ケ年間保管シ期滿失效ヲ待テ歲入ニ編入致居候處前記ノ通リ目下差懸リノ件モ有之付テハ御回答ノ趣旨ニヨリ取扱可然哉至急何分ノ御回報相成度此段及照會候

（乙號）

藏計第二二五號
大正十五年五月四日

大藏省主計局長

兵庫縣知事殿

大正十五年一月十六日附兵會第一七八號ヲ以テ違警罪卽決例ニ依ル保證金ノ取扱ニ關スル件御照會ノ趣了承右ハ請求ニ係ル正式裁判ノ申立成立シタルコトヲ確メタル後本人ノ請求ニ依リ還付スヘク若シ本人ノ請求ナキトキハ保管金規則第一條ノ規定ニ依ル時效完成ヲ待テ歲入ニ編入スヘキモノト認メ候條此段及回答候也

●拘留刑執行中ノ者檢事ニ送致方ノ件

大正七年十二月
日記第一〇一二三號

自今拘留刑執行中ノ者ニ對スル被告事件ハ身柄ト共ニ速ニ送致シ且ツ同時ニ卽決言渡書謄本及別紙執行狀ヲ添付セラルヘシ

執行狀

罪名		被告人
言渡年月日	大正　年　月　日	ノ住所
確定年月日	大正　年　月　日	氏名
執行始期	大正　年　月　日	年齡

執行スヘキ刑名刑期	拘留　日 但シ何日執行濟 殘刑何日	備考

右ノ者ニ對シ別紙ノ通リ即決言渡ヲ爲シ頭書ノ通リ執行未了ニ付殘刑執行相成度候也

大正　年　月　日　　警察署長
甲府監獄典獄　殿　　警部

注意　執行スヘキ刑名、刑期、欄内ノ執行濟日數殘刑日數及監獄ヘ送付ノ年月日ハ記入セス送付ノ事

●勞役場留置指揮ヲナシタルモノニシテ罰金科料ノ納付申出アリタル場合ニ於ケル取扱振ニ關スル件

大正九年八月
日記第三二一七號檢事正訓示

罰金科料ノ言渡ヲ受ケ之ヲ完納セサル者ニ對シ勞役場留置指揮ヲ爲シタルモノニシテ納付ノ申出アリタル場合ニ於ケル取扱振ニ付テハ明治四十二年六月五日附日記第二六四二號ヲ以テ別紙ノ通及訓示置候ニ付從來其趣旨ニ依リ取扱居ルコトヽ思料候得共今般其ノ筋ヨリ注意ノ次第モ有之候條尚一層勵行ノ上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

別　紙

罰金刑ノ言渡ヲ受ケ之ヲ完納セサル者ニ對シ換刑又ハ勞役場留置ノ指揮ヲ爲シタルモノニシテ納付申出アリタル場合警察官ニ於テ直接之レカ取立ヲ爲スコトナク左記ノ通取扱可有之候

一　現金又ハ收入印紙ヲ以テ納付ノ申出ヲ爲シタル者アリタルトキハ其納人ニ對シ直接裁判所ニ納付スヘキ樣說示シ其ノ旨執行ノ指揮ヲ爲シタル檢事ニ報告スヘシ

二　換刑又ハ勞役場留置ノ爲メ引致シ一日以上經過シタル者ニシテ本人又ハ親族故舊等ヨリ納付ノ申出アリタルトキハ納人ヨリ直ニ裁判所ニ納付スヘキ旨說示シタル上申出ノ如ク果シテ納付ノ手續ヲ爲シタルモノト思料シ得ラルヽニ於テハ假ニ執行ヲ停止シ其ノ旨檢事ニ報告スヘシ

明治四十二年六月五日　　甲府地方裁判所檢事正

但シ從前ノ訓示又ハ指揮ニシテ本文ニ牴觸スヘキモノハ其ノ部分ハ之ヲ取消ス

●少年法第十三條ノ勞役場留置ト違警罪即決例ニ依ル科料金ノ納付ヲ爲ス能ハサル場合勞役場留置ニ關スル件

大正十二年十月
刑收第七一三二號

右ノ件ニ關シ別紙甲號長崎縣知事照會ニ對シ乙號ノ通リ回答セラレタル趣ヲ以テ內務省警保局長ヨリ通牒アリタルニ付參考ニ資セラルヘシ

別　紙（大正十二年十月二十四日警發乙第二五號　內務省警保局長ヨリ各廳府縣長官ヘ通牒）

違警罪即決ニ關スル件（大正十二年五月十八日　甲號保司發第一二七三號）

〔山梨警〕

大正十一年法律第四二號少年法第十三條竝明治十八年九月第三十一號布告違警罪即決例第十條ノ取扱ニ關シ左ノ通リ疑義有之候條何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

一　違警罪即決例ニ依リ警察官署長又ハ其ノ代理者タル官吏ニ於テ科料ノ言渡ヲ爲シ被告カ其金額ヲ假納セサル場合相當勞役場ニ留置スヘキコトハ刑法第十八條及即決例第九條ニ明文アリ然ルニ右勞役場ニハ少年法第十三條ノ勞役場ヲ包含スルモノト被認果シテ然ハ少年法ノ適用ヲ受クヘキ少年ニ對シテハ科料處分ヲ爲スモ勞役場留置ヲ言渡ス能ハサル結果トシテ明治四十一年十一月警收第五七號御通牒ニ依リ難ク從テ科料金收入ヲ强制スヘキ方法缺如ス此場合ニ處スル方法トシテハ如何ナル取扱ヲ爲スヘキモノナルヤ

二　違警罪即決例第二條第一項ニ依リ拘留四日ノ言渡ヲ爲シ同例第十條ニ依リ保警金ノ差出ヲ命シタルモ其コトナキ爲メ即日留置シタル同例第五條ノ期間內タル刑期滿了ノ當日（已ニ當日幾分ノ執行ヲ了ス）ニ至リ被告カ保證金ヲ差出シ放還ヲ求ムル場合ニ於テモ明治四十四年十二月內務省第四三六九號及大正八年十月內務省第一一九號御通牒ノ趣旨ニ依リ取扱フヘキモノナルヤ果シテ然ハ本問ノ場合ニ於テハ當日既ニ幾分ノ執行ヲ爲シ居ルヲ以テ當日ノ執行ハ之レヲ一日ニ計算スルヲ至當トスルニ付キ保證金ヲ徵スル能ハサル結果ヲ生ス然ニ猶且ツ被告ヲ放還セサルヘカラサルヤ或ハ又即決例第八條ニ依リ必要ト認メサルヲ理由トシ該保證金ヲ受理セスシテ被告ヲ放還セサルコトヲ得ヘキモノト解スヘキカ

（大正十二年十月
警發乙特第二五號）

少年法第十三條ノ勞役場留置ト違警罪即決例ニ依ル科料金ノ納付ヲ爲ス能ハサル場合勞役場留置ニ關スル件

少年法第十三條ノ勞役場留置ノ違警罪即決例ニ依ル科料金ノ納付ヲ爲ス能ハサル場合勞役場留置ニ關スル件其他ニ付回答

本件ニ付去ル五月十八日保司發第一二七三號ヲ以テ御照會ノ義ハ左記ノ通リト御承知相成度候

第一項　少年ニ對シテハ少年法第十三條ノ規定ニ依リ勞役場留置ノ言渡ヲ爲ス能ハス從テ違警察官署トシテハ警罪即決例第八條ニ基キ必要ト認メタル場合同九條ニ依リ留置ヲ爲ス外可無之思料候得共本條ノ特別處分ヲ此等ノ場合ニ爲スハ穩當ナラサル嫌アルノミナラス少年法ノ趣旨ニ副ハサルモノト被存候尚本件ハ刑事訴訟法第三百二十條ノ檢事ノ命令ヲ受クヘキモノニ無之旁本項ハ少年法ノ趣旨ニ則リ勞役場留置ヲ爲ス能ハス執行ノ方法無之義ト存候

第二項　保證金ヲ徵收スル能ハサル結果ヲ生スルモ已ムヲ得サル義ト存候

追而本件ハ司法省刑事局長ト協議濟ニ付爲念申添候

●違警罪即決例ニ依ル刑ノ執行方ニ關スル件

昭和二年九月
警訓第一九號

標記ノ件ニ關シ別紙甲號警視總監照會ニ對シ乙號ノ通回答致置キタル旨內務省警保局長ヨリ通牒アリタルニ付取扱上心得ラルヘシ

（甲號）

發刑庶第四三〇號

大正十五年十一月十二日　　警視總監　太田政弘

內務省警保局長　松地義一殿

違警罪即決例ニ依ル刑ノ執行方ニ關スル件

違警罪即決例ニ依リ拘留又ハ科料ノ言渡ヲ爲シ同例第九條及第十條ニ依ル假納又ハ留置命令ヲ發セサル場合ニ於テ被告人正式裁判ヲ請求スルノ意思ナク且右申立期間内ナルニ拘ハラス刑ノ執行ヲ受ケタキ意思ヲ表示シタルトキ（例ヘハ科料納付ノ爲メ其ノ實額ニ相當スル收入印紙ヲ納付スルカ如キ）ノ取扱方ニ關シテハ同例中何等規定ナク從テ實際ノ便宜上改正刑事訴訟法第三百八十二條上訴權抛棄ノ場合ニ準シ即時其ノ言渡ハ確定シタルモノト看做シ刑ヲ執行シテ支障ナキモノナリヤ將又斯ノ如キ特別規定ナキ以上被告人ニ於テ假令一旦正式裁判請求權ヲ抛棄スルノ意思ヲ表示シタリトスルモ其ノ意思ヲ飜スニ就キ制限サルヽコトナキヲ以テ同例第五條ノ期間ヲ經過セサル限リ何時ニテモ正式裁判ヲ請求スルヲ得ヘク即チ其ノ言渡ハ請求權抛棄ノ意思表示ニ依リテ確定力ヲ生セス延テ刑ノ執行ヲ爲シ得サルモノト解スヘキヤ疑義有之候條何分ノ御回示相煩シ度此段及稟申候也

（乙號）

警保局發乙第九六四號

昭和二年九月六日

内務省警保局長

警視總監殿

違警罪即決例ニ依ル刑ノ執行方ニ關スル件回答

大正十五年十一月十二日附發刑庶第四三〇號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會相成候處違警罪即決ノ言渡ニ對スル正式裁判申立權ノ抛棄ハ違警罪即決例中之ヲ認容シタル規定無キヲ以テ被告人正式裁判ヲ請求スル意思ナク且ツ申立期間ナルニ拘ラス刑ノ執行ヲ受ケ度キ意思ヲ表示シタルトキト雖モ同例第五條ノ期間經過セサル限ハ即決ノ言渡ハ確定セサルモノニ有之候追テ本件ハ司法省ト打合濟ニ候條爲念申添候

●即決處分竝行政檢束ニ關スル件

昭和二年十二月十七日
警訓第三〇號

拘留科料ノ即決處分竝ニ行政檢束處分ハ之レヲ愼重ニスヘキハ勿論ナルカ近時民間ニ於テ是等ノ處分ヲ不當ナリトシテ當該官憲ノ責任ヲ問ハムトスルモノアルヤノ聞ヘアリ其ノ多クハ事實ノ誤認ニ出テタルヘキモノナルモ本件ハ何レモ人權ニ至大ノ影響ヲ及スモノナルヲ以テ將來之レカ處分ヲ一層愼重ニシ警察處分ノ公正ナルコトヲ周知セシムル樣セラルヘク尚本件ニ關シ全國ニ於テ地方的紛議ヲ惹起シタルモノ行政檢束ニ對シ昨年中三件本年九月迄ニ三件即決處分ニ對シ本年一件アリタル趣ニシテ假令之カ處分ニ過誤ナカリシモノナリトスルモ是等紛議ヲ未然ニ防止シ得サリシハ遺憾ナリト謂ハサルヘカラス

又全國ニ於テ警察署ニ拘禁中ノ者ニシテ自殺既未遂昨年中四十一名本年九月末迄ニ三十名ヲ出シタル趣ナルカ是等モ留置場ノ構造不完全ナリシカ一因タルヘキモ一面ニ於テハ看守巡査ノ不注意ニ因ルモノモ尠ナカラサルヘシト思料セラルヽヲ以テ玆ニ上ノ趣旨ヲ部下ニ徹底セシメ萬遺憾ナキヲ期セラルヘシ

右訓示ス

●違警罪即決處分件數表

明治四十四年八月
警發一四一號

報告期日　翌年一月十五日迄

罪目	拘留				科料				免除
	二十日以上	十日以上	十日未滿	計	十圓以上	五圓以上	二圓以上	一圓以上	一圓未滿	計	
内務省令警察犯處罰令第一條一號 何々											
同第二條一號 何々											
何々											
省令警察犯處罰令小計											
縣令警察犯處罰令第一條一號 何々											
何々											
縣令警察犯處罰令小計											
法律鐵道營業法何條 何々											
何省令 何々											
縣令 何々											
小計 何々											
總計											

記載上注意

記載順序ハ内務省令警察犯處罰令、山梨縣警察犯處罰令、法律、省令、縣令ノ順トスルコト

警察犯處罰令ハ條文順ニ記載シ各小計ヲ記シ法律省令縣令ハ小計トナシ總計スルコト

罰目下欄ハ可成詳細ニ記載スルコト

第三章　捜査

●犯罪捜査規程

大正十四年九月
山梨縣訓令乙第百九十五號

改正　昭和一一年訓令乙第二〇九號一部

第一章　總則

第一條　犯罪捜査（以下單ニ捜査ト稱ス）ニ關スル事務ノ取扱ハ別ニ規定アルモノヽ外本規程ニ依リ處理スヘシ

第二條　警察官署ニ於テハ警部警部補又ハ巡査部長ヲ以テ司法事務主任ニ充テ捜査ニ關スル事務ヲ擔任セシムヘシ

内勤巡査又ハ特務巡査ニシテ司法警察事務ニ關スル照會回答其ノ他文書ノ整理取扱ヲ擔任スルモノハ司法事務補助者ト看做ス

第三條　捜査ニ從事スル者ハ協力一致事ニ當リ互ニ連絡ヲ保持シ祕密ヲ嚴守シ迅速機敏ナルヲ要ス

第四條　警察官署長ハ各署間ノ連絡保持ニ關シテ常ニ注意ヲ拂ヒ捜査上機宜ノ措置ヲ誤ラサルコトニ留意スヘシ

第五條　警察官署長ハ其ノ署員ニ對シ捜査ニ關スル智識ノ教養及實務ノ指導ニ努ムヘシ

前項ノ指導教養ニ關シテハ刑事課員ヲ派遣スルコトアルヘシ

第二章　捜査

第六條　警察官吏强盜竊盜等ノ被害ノ届出ヲ受ケ又ハ之ヲ認知シタルトキハ便宜被害事實ヲ記載シタル届書ヲ徴スヘシ

第七條　犯罪ヲ認知シ又ハ犯罪ノ届出ヲ受ケタルトキハ證據ノ散逸ヲ防キ現場ノ保存ニ關シ迅速適當ノ措置ヲ講スヘシ

第八條　警察官署長ハ殺人强盜放火其他重大犯罪發生シタルトキハ速ニ犯罪現場ニ臨檢シ犯罪事實及現場事物ノ發見ニ努メ捜査ノ方針ニ誤ナキヲ期スヘシ

第九條　警察官署長ハ未檢擧犯罪事件ニ對シ受持巡査及刑事巡査ヲシテ捜査ヲ繼續セシムヘシ

司法事務主任其他ノ監督者ハ未檢擧犯罪事件ノ捜査ニ就キ監督ヲ爲スヘシ

第十條　警察部刑事課長ハ上官ノ命令ヲ承ケ縣下全般ニ於ケル捜査事務ヲ統轄シ捜査ニ從事スル者ヲ指揮スルモノトス

第十一條　警察部刑事課長ハ警察官署長ノ要求ナキ場合ト雖モ捜査上必要アリト認ムルトキハ上官ノ指揮ヲ承ケ課員ヲ犯罪地ニ派遣スルコトヲ得

捜査ノ爲メ派遣セラレタル者及應援ノ爲メ出張シタル者ハ事件ノ繫屬スル警察官署長ノ指揮ニ從フモノトス

第十二條　重大犯罪事件發生シタルトキ又ハ其他廣ク手配ノ必要アリト認ムル犯罪事件發生シタルトキハ直ニ縣下各警察官署ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル警察官署ニ於テハ速カニ相當ノ手配ヲ爲スヘシ

第三章　共助

第十三條　捜査ニ關シ他ノ警察官署ヨリ共助ノ求メヲ受ケタルトキハ直ニ之ニ應シ捜査ノ進行上支障ナキヲ期スヘシ

第十四條　他ノ警察官署管内ノ犯罪事件ニ關シ取調ノ必要アルトキ又ハ關係人等ノ呼出ヲ必要トスルトキハ當該所轄警察官署ニ其ノ旨囑託スヘシ

前項ノ囑託ヲ受ケタル警察官署ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　他ノ警察官署管内ニ於テ捜査ヲ爲サントスルトキハ犯人追跡其

他急ヲ要スル場合ノ外當該所轄警察官署ノ共助ヲ求ムヘシ

前項ノ急ヲ要スル場合ニ在リテハ事後其ノ旨通知スヘシ

第十六條　警察官署長他ノ警察官署ニ犯人又ハ被疑者ヲ引渡シタルトキハ附錄第二號樣式ニ依リ又犯罪事件ヲ移送シタルトキハ附錄第三號樣式ニ依リ警察部長ニ報告スヘシ

第四章　警戒配備

第十七條　警察官署長ハ犯罪事件發生シタル場合又ハ其他犯罪豫防及犯人逮捕ノ目的ヲ以テ隨時警戒配備ヲ實施スヘシ

第十八條　警戒配備ハ之ヲ分チテ二種トシ犯罪發生ノ場合ニ犯人逮捕ノ目的ヲ以テ行フヲ非常配備トシ隨時行フヲ臨時配備トス

前項ノ警戒ハ張込、密行、檢索ノ方法ニ依リ行フモノトス

第十九條　警戒スヘキ場所及地點概ネ左ノ如シ

一　張込ヲ爲スヘキ地點

イ　樞要通路ノ交叉點、問道

ロ　市町村ノ入口

ハ　展望シ得ヘキ場所

ニ　停車場及停留場

ホ　船ノ發着場所、渡船場、橋梁

ヘ　其他犯人ノ隱遁脫出ノ虞アル場所

二　檢索スヘキ場所

イ　洞穴、河原、森林、原野等ニシテ山窩浮浪ノ巢窟又ハ犯人ノ潛伏シ得ヘシト認ムル場所

ロ　社寺佛堂、空屋等

ハ　進行中ノ人力車、荷車、自動車、自轉車

ニ　宿屋、料理屋、飲食店、待合茶屋、貨座敷等

ホ　其他必要アリト認ムル場所

密行ハ刑事要視察人ノ動靜視察ヲ兼ネ通行人ノ誰何取調ニ當ルモノトス

第二十條　警察官署長ハ警戒配備ノ計畫及其ノ圖面ヲ作製シ警察部長ニ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

警戒配備ヲ行ハントスルトキハ豫メ隣接警察官署長ニ其ノ旨通報スヘシ但シ警察部長ノ命ニ依リ實施スル場合ハ此ノ限リニアラス

第二十一條　二以上ノ警察官署協力シテ警戒配備ヲ行ハントスルトキハ豫メ警察部長ニ報告スヘシ

第二十二條　非常配備ヲ行ハントスルトキハ電話又ハ口頭ニテ命令スル場合ノ外附錄第四ノ樣式ノ命令書ヲ送達スヘシ

第二十三條　警戒配備ヲ行ヒタルトキハ附錄第五號樣式ニ依リ其結果ヲ電話又ハ便宜ノ方法ニ依リ速カニ警察部長ニ報告スヘシ

第五章　捜査組合

第二十四條　犯罪捜査ノ連絡ヲ保持シ且ツ其ノ統一ヲ圖ランカ爲メ各警察官署ヲ通シ左ノ組合ヲ置ク

第一組合　甲府、龍王、小笠原、韮崎、日野春、石和、日下部

第二組合　鰍澤、市川、南部

第三組合　谷村、吉田、猿橋、上野原

第二十五條　組合各警察官署ハ毎年一回以上組合會議ヲ開キ刑事係巡査及司法事務取扱者ヲ會同セシメ捜査ニ關スル事務ノ打合ヲ爲スヘシ

第二十六條　組合會議ハ會議所々在地ノ警察官署長司會者トナリ議事ヲ掌理ス

會議司會者ハ會議ヲ開クヘキ日時場所ヲ豫メ警察部長ニ報告シ會議ノ結果ハ記錄ヲ添ヘ同シク警察部長ニ報告スヘシ

第六章　報告

第二十七條　左ニ揭クル犯罪發生シタルトキハ警察部長ニ即報スヘシ

一　皇室ニ對スル罪

二　內亂ニ關スル罪

三　外患ニ關スル罪

四　國交ニ關スル罪

五　公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪

六　騷擾ノ罪

七　放火ノ罪

八　通貨、有價證券、僞造ノ罪

九　殺人ノ罪

十　傷害ノ罪（除輕微）

十一　强盜ノ罪

十二　强姦ノ罪

十三　逃走ノ罪

十四　賭博百圓以上ノ窃盜ノ罪

十五　賭博三百圓以上ノ橫領詐欺ノ罪

十六　遺棄ニ關スル罪

十七　恐喝ニ關スル罪

十八　阿片煙ニ關スル罪

十九　溢水及水利ニ關スル罪

二十　往來妨害ニ關スル罪

二十一　爆發物ニ關スル罪

二十二　銃砲火藥類ニ關スル罪

二十三　職業的旅行的犯人ノ所爲ト認メラルヽ犯罪

二十四　手段斬新ニシテ巧妙ナル犯罪及模倣者ノ續出スル虞アル犯罪

二十五　停車場又ハ列車內ニ於ケル犯罪

二十六　其ノ他重要又ハ異例ト認メラルヽ犯罪

二十七　右ノ外世人ノ耳目ヲ惹クヘシト認メラルヽ犯罪

前項第一號乃至第十二號第二十一號第二十三號乃至第二十六號ノ犯罪ニシテ犯人ヲ逮捕シタルトキハ附錄第六號樣式ニ依リ「犯人逮捕ニ至ラサルトキハ同第七號樣式ニ依リ」即報後速カニ警察部長ニ報告スヘシ

第二十八條　警察官署長刑法犯アリタルトキハ附錄第八號樣式ニ依リ之ヲ檢擧シタルトキハ附錄第九號樣式ニ依リ其都度森林窃盜犯ニアリテハ六月十二月末日現在ニ依リ前六ケ月分ヲ附錄第十三號樣式ニ依リ翌月二十日迄ニ警察部長ニ報告スヘシ但シ前條第二項ニ依リ報告シタルトキハ此ノ限リニアラス

犯罪發覺ト同時ニ犯人ヲ檢擧シタルトキ及犯罪手口票取扱細則第五條ニ依リ被害通報票ヲ送達シタルトキハ之ヲ提出スルニ及ハス

第二十九條　犯罪事件ヲ起訴中止事件トシテ檢事ニ送致シタルトキハ附錄第十號樣式ニ依リ警察部長ニ報告スルト共ニ縣下警察官署ニ捜査方手配スヘシ

第三十條　警察官署長ハ每月犯罪事件及檢擧件數ヲ調査シ附錄第十一號樣式ニ依リ翌月五日迄ニ警察部長ニ報告スヘシ

第三十一條　警察官署長ハ每年三月六月九月十二月ノ四回各其ノ末日ヲ期シ前三ケ月間ニ於ケル署員ノ犯罪檢擧成績ヲ調査シ附錄第十二號樣式ニ依リ翌月十日迄ニ警察部長ニ報告スヘシ

第七章　補則

第三十二條　他府縣下ニ於テ强盜殺人等其他重大ナル罪ヲ犯シ逃走中ノ犯人ヲ逮捕シタルトキハ犯人及逮捕ノ狀況ヲ速カニ警察部長ニ報告スヘシ

第三十三條　犯罪捜査ノ爲メ縣外警察官ノ出張アリタルトキハ相當ノ援助

ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ捜査事件ノ要領ヲ速カニ警察部長ニ報告スヘシ

附錄第一號樣式　削除

附錄第二號樣式（用紙半紙）

犯人（被疑者）引渡報告

被引渡人ノ原籍住所職業氏名生年月日	
逮捕年月日時	
逮捕ニ至ルマテノ捜査經過要領	
犯罪事實ノ概要	
引渡スニ至リタル事情	
引渡先警察官署	
引渡シタル年月日	

右及報告候也

年　月　日

〔山梨警〕

警察署長

警部

警察部長殿

附錄第三號樣式（用紙半紙）

犯罪事件移送報告

移送事件ノ被害者住所氏名	
被害報告年月日及文書番號	
移送事件ノ概要	
捜査經過ノ大要	
移送スルニ至リタル事情	
移送先警察官署	
移送年月日	

右及報告候也

年　月　日

警察署長

警部

警察部長殿

附錄第四號樣式（用紙半紙）

非常配備命令書

配備場所	東山梨郡七里村鹽山鐵道踏切	犯罪ノ場所	東山梨郡三富村字三富炭彌方
警戒方法	張込	犯罪方法	拔刀ノ强盜押入リ家人ヲ脅迫現金百五十圓强奪逃走
服裝	私服	被疑者	住所氏名不詳年齡三十歲前後丈ケ高キ方法被股引黑布ニテ覆面裸足足袋
參著日時	十四年六月九日午後十一時		
警戒目的	犯人逮捕	被害品其他	十圓紙幣十枚五圓紙幣十枚脅迫用ノ刀ハ日本刀ナルモ所持シ居ルヤ否ヤ不明
引揚時刻	翌日午前五時		

右命令ス

年　月　日　時

警察署長

警部

駐在

巡査　殿

附錄第五號樣式（用紙半紙）

警戒配備執行報告　月　日　警察署

執行月日時	月　日　自　時　至　時

〔山梨警〕

警戒ノ目的	非常配備（臨時配備）窃盜被害多キ爲メ又ハ何某方何罪事件ニ付キ云々
警戒區域	管內全部（又ハ一部）
犯罪發見數	刑法犯　件內　何罪何件 其他ノ法令違反　件內　何罪何件 卽決事件　件內　何規則違反何件 何々　何々
逮捕及同行人員	現行犯　何罪　人何罪　人計何人逮捕 非現行犯　何罪　人何罪　人計何人同行 其他擧動不審者同行　何人
誰何人員	通行人　人 自動車　臺　人 自轉車　人 人力車　人
其他	家出人　保護シ又ハ說諭ス 何々ノ件ニテ說諭　人 何々ノ件ニテ注意　人
參考	監督ニ從事シタル監督者名 張込ニ從事シタル巡査ノ數 密行ニ從事シタル巡査ノ數 檢索ニ從事シタル巡査ノ數 合計　人

右及報告候也

年　月　日

警察署長

警部

警察部長殿

附錄第六號樣式（表）

事件　　署　　警察　　年						
番號	類分	罪名	異名又ハ綽名	身分	氏名	犯罪人

本籍　　出生地

住所　　生年月日

重ナル親族關係

職業ノ經歷

生育

教育程度

特技

素行

現在生計ノ基礎

嗜好

信仰

人相書

身體容貌髮頭面眼口鼻習癖音聲步容

其他ノ特徴

言語

擧動

體格

髮色

鬚色

肥

中

瘠

前科

指紋番號 No.

注意

一、上欄……年……縣府……事件ハ索出ノ便宜ニ供スルモノナルカ故ニ發生場所及廣ク世ノ視聽ニ觸レタル名稱ヲ附スルコト例ヘハ大正十三年甲府市新青沼町三人殺シ事件ト云フカ如シ

〔山梨警〕

二、犯人二人以上ノ場合ニハ各犯人ニ付キ本紙一枚ヲ作成シ足ラサル分ハ補充用紙（青紙）ヲ用ヒ一綴リトシテ送付スルコト

三、犯人捜査基礎資料及犯人逮捕迄ノ經過ハ他ノ事件捜査上ノ參考ニ供スルタメ其ノ捜査ノ結果アリシト否トニ不拘出來得ル限リ詳細記入スルコト

四、逮捕年月日ヲ必ス記入スルコト

五、報告作成年月日作成場所作成者ヲ必ス記入スルコト

六、本樣式ニ依リ報告スルモノハ刑事警察上ノ趨向知悉竝ニ警察官教養資料ニ供スルモノナルカ故ニ文飾ヲ要セス又捜査從事員ノ功績ノ記載ニ偏セス事實ヲ有ノ儘ニ記載スルコト

七、本用紙表面分類番號欄ハ内務省ニ於テ分類打號スルモノニ付空欄トナシ置クコト

八、本用紙處分結果欄ニハ確定判決ヲ記載スヘキモノナルニ依リ判決確定後年二回（六月及十二月）ニ報告スルコト

九、停車場及列車内ニ於ケル置引掏摸犯人檢擧ノ際ハ本用紙所定欄ニ夫々記入ノ上撮影年月日付ノ寫眞添付報告ノコト

一〇、本用紙ニテ報告スル場合ニハ別ニ報告付例文ヲ添付スルニ及ハサルカ故ニ報告年月日及番號ヲ欄外上部ニ記載スルコト

〔山梨警〕

附錄第六號樣式（裏）

犯罪事實ノ概要	犯罪事實認知ノ端緒	本件ニ於ケル犯罪捜査ノ基礎資料竝ニ其ノ調査ノ狀況
		犯罪當初ニ於ケル捜査方針及犯人逮捕迄ノ經過
		金錢費消ノ用途及ヒ賍物ノ處分

主任者名	取扱件數	官氏名

犯罪動機	犯罪ノ處分結果	寫眞ノ添否	備考

犯人常用手段

本件檢擧ノ殊動者及ヒ其ノ殊動ト認メラルヽ要點

成作テ於ニ　日　月　年　正大　署察警

聲片及ヒ所在	考

附錄第六號樣式（補充報告用紙）

補充報告用紙（原報告用紙ニ記入シ能ハサル部分ニ付キ記入スルコトヲ得）（割シ記入スルコト便宜ニ欄ヲ事項キ）

件事ニ關スル

附錄第七號樣式（表）

犯罪ノ種類		事件發生ノ日時		事件發見ノ日時		事件發生ノ場所		犯罪事件ノ大要	

警察署　重要異例犯罪報告

〔山梨警〕

〔山梨警〕

注意

一、本報告用紙（赤色）ハ犯罪事實發生後犯人未檢擧ノ場合速ニ報告スルコト

二、捜査ノ基礎資料竝ニ捜査方針欄ハ特ニ詳細記載スルコト

三、停車場竝列車内ニ於ケル置引掏摸被害ノ屆出ヲ受ケタル場合ニ於テハ本用紙ニ被害事實發生ノ日時被害驛又ハ被害地域事實發生ノ列車番號及乘車等級被害者住所氏名被害金品被害模樣ノ大要容疑者アル場合ハ人相年齡服裝其他捜査上參考事項屆出受理警察署ヲ記入報告スルコト

四、臨檢犯ニアリテハ現場寫眞又ハ現場見取圖若クハ其兩者ヲ添付スルコト

五、本報告用紙ニテ報告スル場合ニハ別ニ報告例文ヲ要セサルカ故ニ報告年月日及番號ヲ欄外上部ニ記載スルコト

附錄第七號樣式（裏）

特徴アル被害金品ノ概要	其他參考事項	所轄警察官署	此ノ報告作成年月日及ヒ作成者

捜査ノ基礎資料竝ニ捜査方針					特徴ナキ被害金品ノ大要				受命刑事警察官

即報例

一、職業的旅行的犯人ノ所爲ト認メラルヽ犯罪
（强盜、竊盜、詐欺、橫領、贓物ニ關スル罪ニ付キ）

二、手段斬新ニシテ巧妙ナル犯罪及模倣者ノ續出スル虞アル犯罪

三、重要ト認ムル犯罪刑法第二編罪
皇室ニ對スル罪
内亂ニ關スル罪
外患ニ關スル罪
國交ニ關スル罪
公務ノ執行ヲ妨害スル罪

賭博ノ罪　収賄ノ罪　贈賄ノ罪　殺人ノ罪　傷害ノ罪及暴行ノ罪　遺棄ノ罪　逮捕及監禁ノ罪　略取誘拐及人身売買ノ罪　放火及失火ノ罪　通貨偽造ノ罪　有価証券偽造ノ罪　文書偽造ノ罪　印章偽造ノ罪　不正指令電磁的記録ニ関スル罪　共用部分ニ関スル罪　建造物損壊ノ罪　器物損壊ノ罪

附録第八號樣式（用紙半紙横造紙）

送致第　號	犯罪被害報告	種別	被害者住所	被害者氏名	年齢	職業	性別
年　月　日送達	大正　年　月　日坎第　號	罪名	縣　郡市　町村				
警察（分）署		被害ノ原因					

附録第九號樣式（用紙半紙横造紙）

罪名						
送致第　號	犯罪検挙報告	被害者及犯人ノ住所氏名年齢	犯人ノ身分職業住所	遺留品	現場指紋足跡	犯罪ノ手口及方法
月　日警察署						

（備考）

一、殺人ノ罪ニ係ル場合ニハ被害者ノ氏名年齢ノ欄ニ被害者ノ死体ノ発見ノ場所ヲ記入スルコト

二、強盗ノ罪ニ係ル場合ニハ被害者ノ氏名年齢ノ欄ニ被害者ノ住所ヲ記入スルコト

三、強盗ノ罪ニ係ル場合ニハ被害者ノ欄ニ被害ノ原因ノ欄ニ強盗ト記入スルコト

四、放火ノ罪ニ係ル場合ニハ被害者ノ欄ニ被害ノ原因ノ欄ニ放火ト記入スルコト

五、有価証券偽造ノ罪ニ係ル場合ニハ被害者ノ欄ニ偽造ノ有価証券ノ種類ヲ記入スルコト

六、通貨偽造ノ罪ニ係ル場合ニハ被害者ノ欄ニ偽造ノ通貨ノ種類ヲ記入スルコト

七、若シ欄内ニ記入スルノ場合ニハ別紙ニ記入スルコト

（備考）

一、逮捕ニ関スル書類ニハ犯罪検挙報告ノ外別ニ逮捕手続書ヲ作リ逮捕ノ年月日時及場所ヲ明カニシ犯人ニ対シ告知シタル犯罪事実ノ要旨及弁護人選任ニ関シ告知シタル旨ヲ記載スルコト

二、逮捕ニ関スル書類ニハ犯罪検挙報告ノ外別ニ逮捕手続書ヲ作リ逮捕ノ年月日時及場所ヲ明カニシ犯人ニ対シ告知シタル犯罪事実ノ要旨及弁護人選任ニ関シ告知シタル旨ヲ記載スルコト

三、逮捕ニ関スル書類ニハ犯罪検挙報告ノ外別ニ逮捕手続書ヲ作リ逮捕ノ年月日時及場所ヲ明カニシ犯人ニ対シ告知シタル犯罪事実ノ要旨及弁護人選任ニ関シ告知シタル旨ヲ記載スルコト

四、被害者ノ住所氏名年齢ノ欄ニハ犯罪ノ行ハレタル場所ヲ記入スルコトヲ得サルトキハ犯人ノ住所氏名年齢ヲ記入スルコト

五、被害者ノ欄ニハ被害金品ノ明カニナリタル時ノ状況ヲ記入スルコト

六、遺留品ノ欄ニハ特徴アル物品ニ付テハ品名箇数及其ノ特徴ヲ記載スルコト

七、被害金品ノ欄ニハ被害金品ノ品名箇数及見積価額ヲ記載スルコト

八、被害者ノ欄ニハ被害ノ年月日時ヲ記入スルコト

九、犯人ノ欄ニハ犯人ノ住所氏名年齢ヲ記入スルコト

十、犯罪ノ手口及方法ノ欄ニハ犯罪ノ行ハレタル場所ヲ記入スルコト

十一、遺留品ノ欄ニハ犯人ノ遺留シタル物品ヲ記入スルコト

十二、現場指紋足跡ノ欄ニハ犯人ノ遺留シタル指紋足跡ヲ記入スルコト

十三、身分職業ノ欄ニハ犯人ノ職業ヲ記入スルコト

十四、検挙ニ至ル事由ノ欄ニハ犯人ヲ検挙スルニ至リタル事由ヲ記入スルコト

十五、手配ノ状況ノ欄ニハ犯人ノ手配ヲ為シタル状況ヲ記入スルコト

十六、備考ノ欄ニハ其ノ他参考トナルヘキ事項ヲ記入スルコト

〔山梨警〕

附錄第九號樣式記載例

一、被害者ニ還付セシ被害金品數量欄ニハ現金ナル場合ハ其金額穀類ナル場合ハ數量價格衣類ナル場合ハ點數價格雜品ナル場合ハ箇數及價格家畜ノ場合ハ頭數及價格ヲ記入スルコト

二、他府縣下ノ警察署ニ於テ檢擧サレタル場合ハ犯罪事件移送報告ヲ提出スルコト

三、他府縣下ノ犯罪ヲ檢擧セル場合モ本樣式ニ依リ報告スルコト

四、縣下他署管內ノ被害事件ヲ檢擧シタルトキハ犯罪發生地所轄署ヘ通報スルコト

五、犯罪事實欄ニ不足ヲ生シタル場合ハ補充用紙ヲ用フルコト

附錄第十號樣式

起訴中止事件送致報告

罪名	
被疑者ノ原籍住所職業氏名年齡	
前科	
犯罪事實	
犯罪ノ年月日時	
被害金品ノ數量	
被害發見額	
中止事件トシテ送致スル理由	

〔山梨警〕

手配ノ概要	
被害者ノ人相特徴	
送致年月日	大正　年　月　日

右及報告(手配)候也

年　月　日

警察署長

警部

殿

附錄第十一號樣式（用紙半紙）

諸法令違反發生竝檢擧件數月表　昭和　年　月　警察署

罪名	發生件數 本月事件	發生件數 本年以前ノ事件	發生件數 計	檢擧件數 縣內事件 本月事件	檢擧件數 縣內事件 本年以前ノ事件	檢擧件數 管外事件	檢擧件數 計
陸海軍刑法							
警察犯處罰令（省令・縣令）							
縣令違反							
其ノ他ノ法令違反							
合計							

附錄第十二號樣式

發第　號

月　日　追達

警察署

檢擧件數調	
管內檢擧件數	縣外檢擧件數
績　調	

令違反（罰金以上）ヲ計上ス

未ニ竝害被罪犯中月										
自至										
被害總件數			同上ノ内							他
			檢舉件數			未檢舉件數				
犯罪檢舉成										
區別		官氏名 檢舉者								
刑法犯	單獨	件數								
		人員								
	協力	件數								
		人員								
諸法令違反	單獨	件數								
		人員								
	協力	件數								
		人員								
計	單獨	件數								
		人員								
	協力	件數								
		人員								
同上ノ内	有罪意見	單獨								
		協力								
	豫意見起訴猶	單獨								
		協力								
	其他	單獨								
		協力								
	計	單獨								
		協力								

備考　(一)　犯罪被害竝ニ未檢舉調ハ刑法犯竝ニ諸法ルコト
(二)　意見欄ニハ人員數ヲ記入スルコト

附錄第十三號樣式（用紙半紙）

月　日　進達　警察署

年自至	月月	森林竊盜檢舉成績表					
被害件數	檢舉件數	被害金額	檢舉人員			措置	
			男	女	計	有罪	起訴不起猶豫訴	微罪

備考

●犯罪捜査規程ニ依ル報告ニ關ス

ル件

大正十四年十一月
刑親發第四五號

本年九月訓令乙第一九五號犯罪捜査規程第二十七條及第二十八條ニ依ル報告ニ關シ左記ノ通リ心得ラルヘシ

記

一　第二十七條第一項第十號傷害ノ罪ニ對スル第六號樣式第七號樣式報告ハ同條第一項第二十六號又ハ第二十七號ニ該當セサル限リ過失ニ因ルモノハ提出ニ及ハス

二　削除

三　第九號樣式ノ報告ニシテ已ニ第八號樣式ニ依リ報告シタルモノナルトキハ當該犯罪事實ノ上部欄外ニ『發第何號何月何日被害報告』ト記載スルコト

四　第九號樣式中發見シタル被害金數量欄ニハ被害者數名アル場合現金ヲ還付シタルトキハ還付ヲ受ケタル者ノ氏名及金額ヲ記載スルコト

●刑事事件調ノ件

昭和十一年四月
警訓第二號

爾今毎月取扱ヒタル刑事事件ヲ調査シ別表ニヨリ翌月五日迄ニ報告セラルヘシ

月　日　進達

月刑事事件調									警察署
犯罪事件件數	同上ノ内令狀ヲ發セラレタル人員	令狀ヲ發セラレタルモノヽ處分結果							
		懲役	禁錮	罰金	何々	何々	未確定	計	累計

備考

記載例

一、本表ハ總テ選擧違反ノ犯罪ハ除外スルコト

二、犯罪事件件數欄ハ毎月取扱ヒタル刑事事件（送致記錄件數）ニシテ微罪處分ニ附シタルモノハ除クコト

三、令狀欄ノ人員ハ檢事豫審判事ヨリ拘留狀ヲ發布セラレタルモノヲ掲ケ拘引狀ニヨリ一時身柄拘束ノモノハ除クコト

四、令狀ヲ發セラレタル人員ハ罪名、氏名ヲ記載ノコト

●犯罪事件各種別一覽表ノ件

昭和九年八月二十九日
刑發第一三八號

爾今其ノ署ニ於テ取扱ヒタル犯罪事件ハ別紙樣式ニ依リ毎月統計ノ上其ノ月分ヲ翌月十日迄ニ報告セラルベシ

昭和　年　月中犯罪事件各別一覧表

區別	犯罪別 / 性別	刑法犯 男	刑法犯 女	刑法犯 計	諸法令違反 男	諸法令違反 女	諸法令違反 計	合計	備考
犯罪地別	市街地								
	農村								
出身地別	本縣人								
	他府縣人								
	朝鮮人								
前科別	初犯者								
	前科者								
身分職業	官公吏								
	其他公務員								
	農業								
	商業								
	工業								
	其他雜業								
	俸給生活者								

〔山梨警〕

〔山梨警〕

別	筋肉勞働者							
	學生							
	無職							
年齢別	十八歳未滿							
	十八歳以上三十歳未滿							
	三十歳以上五十歳未滿							
	五十歳以上							
動機別	失業苦							
	有職者ノ生活苦							
	性癖							
	環境							
	貧慾又ハ怨恨							
	公憤又ハ群衆心理							
	遊蕩又ハ痴情							
	酒ニ起因							
	其ノ他							
	前月末迄未定分							

送致結果	本月送致數						
以上ノ内	起訴						
	起訴猶豫						
	微罪不起訴						
	犯罪嫌疑ナキタメ不起訴						
	微罪處分						
	未定						

注意

一、暴力行爲、盜犯防止ノ犯罪ハ刑法犯ノ欄ヘ計上スルコト
二、犯罪地ガ市街地及農村ニ跨ガルトキハ主タル犯罪地ニ計上スルコト
三、出身地別ハ戸籍ノ所在ニ關セズ實際ノ出身地ニ據ルコト
四、刑法犯ノ前科欄ニハ同法ノ前科ノミ計上スルコト
五、身分職業欄中
イ、他ニ職業ヲ有スル者ト雖モ公務員トシテノ身分上ノ犯罪ニ付テハ其該當欄ニ計上スルコト
ロ、俸給生活者欄ニハ公務員ヲ除キタル俸給生活者ヲ計上スルコト
ハ、筋肉勞働者欄ニハ他ノ各欄ニ該當セザル賃金勞働者ヲ計上スルコト
六、犯罪ノ動機別ハ事件ヲ大觀シテ最モ近接シタル事由アル該當欄ニ計上スルコト
七、送致結果欄中告訴、告發事件ノ數竝ニ其事件ノ内犯罪嫌疑ナキニ依リ不起訴トナリタル人數ハ各備考欄ニ記載スルコト

●犯罪捜査要項ニ關スル件

大正十年六月
警訓第七二號

犯罪ノ早期發見及當初ノ捜査著手ノ適切ナルヤ否ヤハ檢擧ノ遲速ニ至大ノ關係アル而已ナラス犯罪現場ノ保存ハ事案ノ取調及採證上最モ留意スヘキモノナルヲ以テ重大事件ニ在リテハ刑事、司法主任、署長若ハ檢事豫審判事ノ到著スル迄ハ斷シテ變更セス保存ニ專ラ力ヲ注クヲ要ス尙一般受持巡査ニ對シ捜査要項トシテ左記事項ヲ標準トシテ注意方指示スヘシ

左記

一　犯罪ノ行ハレタル場所…及其狀況
二　犯罪ノ行ハレタル時(晝夜晴雨祭禮其ノ他注意スヘキ事項)
三　犯罪人ノ入口出口竝近接方法
四　家宅侵入ノ際ニ使用セル道具及手段方法
五　被害物件…特徵ヲ詳査スルコト
六　單獨ノ犯罪ト認ムヘキカ共犯アリト認ムヘキカ
七　賍物運搬方法
八　遺留品ノ有無…特徵…保存
九　詐欺横領犯ニ在リテハ手段方法供用物件虛構事實詳細
十　繼續的敢行ノ有無
十一　容疑者ノ有無…人相、著衣、言語、訛、特徵
十二　其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
十三　現場ヲ確實ニ保存シ變更、出入等ヲ爲サヽル事ニ注意

●刑事警察報配付ニ關スル件

昭和六年四月十七日
警訓第五號

内務省ニ於テ刑事警察執務上ノ參考資料トシテ各廳府縣ヨリ報告セル重大若ハ異例ニ屬スル犯罪ノ捜査經過等ヲ蒐錄シ刑事警察報トシテ爾今引續キ發行スル趣ナルニ付之ヲ各署(所)及警部補派出所ニ一部宛送付スルヲ以テ順次編綴シ置キ部下(生徒)ノ教養資料トセラルヘク尙其ノ内容ニハ豫審中ノ犯罪事件ヲモ登載セラルヘキヲ以テ外部ニ漏洩スルカ如キコトナキ樣注意スヘシ

右訓示ス

●犯罪捜査手配ニ關スル件

大正十年十二月
刑發第四九號

犯罪捜査手配ニ關シ隣府縣ヘ別紙ノ通リ協議セシ結果夫々同意ノ旨回答有之候ニ就テハ自今其ノ署管内ニ於テ手配ヲ要スヘキ事件發生ノ場合ハ別紙記載ノ隣縣警察署ヘハ直接其ノ署ヨリ手配ヲ爲スト共ニ其ノ旨當部ヘ報告スヘシ

(別紙)

犯罪捜査手配ニ關シ協議ノ件

近來交通機關ヲ利用スル所謂旅行的犯罪人比年其數ヲ加ヘ捜査ノ範圍彌々擴大セラレ隣(貴)府縣トノ連絡殊ニ隣接警察署間ニ於ケル捜査手配ノ關係ハ一層切ナルモノ有之候ヘ共從來ノ慣例トシテ犯罪手配ノ場合ハ直接貴部ト相互ニ於テ之ヲ爲シ居ルヲ以テ接受シタル後各警察署ニ手配ヲ爲シ居ルト雖斯クテハ其ノ間時日ヲ經過シ殊ニ急ヲ要スル場合ハ殆ント何等ノ效ヲ奏セサル結果ニ陷ル等ノ事例往々有之捜査上遺憾ノ點不尠候ニ付貴縣下及

縣下左記警察官署相互間ニ於テ重大事件ハ勿論重大ナラサルモ手配ヲ要スヘキ事件發生ノ場合ハ爾今直接互報スルト同時ニ其ノ旨ヲ附記シテ手配方（貴部）（當部）照會相成度此段及御協議候也

左記

警視廳（八王子町田／青梅五日市）……本縣（上野原吉田／谷村猿橋）各警察署分署

神奈川縣（松田中野）各警察署……本縣（同　右）

靜岡縣（靜岡江尻／沼津吉原／大宮御殿場）各警察署分署……本縣（南部市川／鰍澤吉田／谷村）各警察署

長野縣（上諏訪岡谷／富士見臼田）各警察署分署……本縣（日野春韮崎／龍王甲府）各警察署分署

第一號樣式

年　月　日

照會取受	被害者ノ住所職業氏名等	事件ノ大要	同上被疑者 本籍住所 職業氏名年齢 人相及著衣	備考
廳府縣名 番號				

警察部長

●他廳府縣下ノ犯罪手配ニ關スル件

昭和二年九月
警訓第二一號

從來他廳府縣下ヨリノ犯罪手配ニ對シテハ該通報ノ全文ヲ掲記シ又ハ警察報ニ其ノ大要ヲ登載指示シ來タリタリ而シテ各署ニ於テハ之レニ對シ適當ナル工夫ヲ凝ラシテ捜査ヲ勵行セラレツヽアリト信スルモ日々劇增スル犯罪ニ對シ捜査ノ敏活確實ヲ期シ且事務ノ簡捷ヲ圖ルハ最緊要ナリト認ムルニ依リ爾今捜査上特ニ犯罪ノ内容其他關聯事項等ヲ詳細ニ知得スルノ要アリト認メラルルモノ及警察報ニ登載スルモノヽ外他廳府縣下ヨリノ犯罪手配ニ對シテハ別紙第一號樣式ニ依リ其ノ手配解除ニ對シテハ第二號樣式ニ依リ夫々指示スルヲ以テ捜査上遺憾ナキヲ期セラルヘシ

埼玉縣（秩父小鹿野）各警察署分署……本縣（上野原猿橋／日下部）各警察署分署

第二號樣式

年　月　日

照會廳府縣名	前指示年月日	取受番號	事件名	備考

警察部長

●犯人引渡內規ノ件

昭和十年七月
警訓第六號

時代ノ進運ト共ニ犯罪モ亦斬新巧妙ヲ極メ而モ交通網ノ整備發達ト其ノ機能ノ增大ニ伴ヒ所謂移動的トナリ即チ犯罪地ハ數府縣ニ亙ル場合アリ甚シキハ全國的規模ヲ有スルモノ漸ク增加ノ傾向アリテ捜査ノ範圍ハ愈ミ擴大セラレ從テ捜査ハ益ミ困難ヲ極ムルニ至レリ

故ニ之カ檢擧ハ各府縣相互間ノ隔意ナキ聯絡ト誠意アル協調ヲ保持シテ相互ニ援助スルノ要緊切ナルモノアリ然ルニ從來各府縣ノ捜査ニ從事スル者ニシテ往々相互ニ事功ヲ爭ヒ戰力協商ノ實ヲ缺クノ例未タ其ノ跡ヲ絶タス爲ニ思ハシカラサル結果ヲ招來セシコト決シテ尠シトセス依テ之カ禍根ヲ斷ツヘク今回左記ノ通各府縣間ニ於ケル犯人引渡內規ヲ協定セルニ付テハ克ク其ノ趣旨ヲ體シ大乘的見地ヲ以テ誠意ヲ旨トシ信義ヲ重シテ之ヲ處理シ以テ過誤ナキヲ期セラルヘシ

尙縣內各警察署相互間ニ於ケル犯人引渡ニ對シテモ右內規ニ準シテ取扱フ儀ト心得ラルヘシ

右訓示ス

追而大正十五年十二月二十三日警訓第八五號犯人引渡ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

犯人引渡內規

（イ）犯人トシテ指名シ又ハ人相、特徵、著衣、立廻先等其ノ犯人ヲ明瞭ナラシムル要點ヲ明示シテ手配方通報アリタルモノヲ取押ヘタルトキハ直ニ通報府縣警察官署ニ引渡スコト但シ取押ヘタル廳府縣ニ於テ手配廳府縣ニ於ケル犯罪ト同程度ノ犯罪ヲ比較的多數敢行シ又ハヨリ重要ナル犯罪ヲ敢行セル場合ハ此ノ限ニ在ラス

（ロ）甲府縣警察署ニ於テ正犯ヲ取押ヘ乙府縣警察官署ニ於テ從犯ヲ取押ヘタルトキハ正犯ヲ取押ヘタル府縣警察官署ニ從犯ヲ引渡スコト但シ犯罪地廳府縣警察官署ニ於テ從犯ヲ取押ヘタルトキ又ハ從犯ノ取押ヘ正犯ノ取押ヘニ先シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

（ハ）正犯數名ヲ數府縣ノ警察官署ニ於テ各別ニ取押ヘタルトキハ其ノ內最初ニ取押ヘタル警察官署ニ引渡スコト

其ノ取押ヘ同時ナルトキハ犯罪地廳府縣警察官署ニ引渡スコト

（ニ）殺人又ハ强盜殺人、强盜傷人、通貨僞造其ノ他特ニ重要ナル犯人ヲ取押ヘタル場合ハ指名手配ノ有無ニ拘ラス其ノ犯人ヲ犯罪地ノ廳府縣警察官署ニ引渡スコト但シ取押ヘタル廳府縣內ニ於テ同程度又ハヨリ重

要ナル犯罪ヲ敢行セル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(ホ) 他廳府縣警察官署拘禁者ニシテ逃走シタル者ヲ取押ヘタルトキハ之ヲ逃走地ノ廳府縣警察官署ニ引渡スコト但シ取押ヘタル廳府縣ニ於テ比較的多數ノ犯罪若ハ重要犯罪ヲ敢行セル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(ヘ) 被害額百圓以下ノ竊盜及二百圓以下ノ橫領其ノ他之ニ準スル輕微財産犯ニ付テハ指名手配ノ效力ヲ六ケ月トス同程度ノ犯罪ニ付再手配ヲ爲シタル場合亦同シ

(ト) 以上各項ニ據リ難キ場合ハ關係府縣警察部長（警視廳ニアリテハ刑事部長）ニ於テ臨機協調スルコト

指名犯人トシテ引渡ヲ爲ス場合ニハ逮捕署ニ於テハ其ノ廳府縣內ノ被害事件ノ記錄ヲ添ヘ身柄ヲ引渡スコト

引渡ヲ爲サヽル場合ハ手配ヲ爲シタル府縣ヨリ被害事件ノ記錄ノ送致ヲ受ケルコト

檢擧成績ハ被害地ニ於テ計上スルコト

〔山梨警〕

●犯人引渡方交涉ニ關スル件

昭和八年十一月二十七日
刑發第一七一號

犯人引渡方ニ關スル他廳府縣下警察署間トノ交涉ニ付テハ從來多クハ關係警察署間ニ於テ適宜之ヲ行ヒ來リタルモ斯テハ時ニ司法警察事務全局ノ圓滑ナル運捗ヲ阻害スル虞アル場合モ無之トセス各廳府縣間ニ於ケル犯罪捜査ノ連絡協調上遺憾ナル點ヲ以テ本月二十日警視廳ニ開催セラレタル近府縣刑事課長懇談會ニ於ケル協議ノ次第モ有之ニ付テハ爾今犯人引渡ニ關スル他廳府縣警察署間トノ一切ノ交涉ハ直接之ヲ行ハス本情ヲ具シ警察部長ニ報告スル樣取扱ハルヘシ

右指示ス

●犯人引渡ニ關スル件

昭和十一年十一月五日
刑發第二八九號

指名犯人引渡ニ關シテハ昭和十年七月二十四日警訓第六號犯人引渡內規ニ據ルヘキハ勿論ナルモ指名犯人トシテ他廳府縣警察官署ニ手配スル場合刑事日報ニ登載ノモノハ之カ引渡ニツキ優先權ヲ有シ原則トシテ引渡スコトヽナリタルヲ以テ爾今指名犯人トシテ縣外ニ手配ノ場合ハ速ニ刑事日報登載方要求スル樣取扱ハラルヘシ

右指示ス

●刑務所收容者ヲ取調フル手續ニ關スル件

昭和六年六月
警訓第一四號

甲府刑務所長ヨリ通牒アリタルニ付爾今同刑務所收容者ニ對シ餘罪取調ノ爲メ警察官吏ヲ同所ニ派遣スル場合ハ左記文書ヲ携行セシムヘシ

右訓示ス

記

〔山梨警〕

年　月　日

警察署長名

甲府刑務所長宛

貴所收容中ノ何某ニ對シ何々事項取調ノ爲メ巡査（又ハ警部）補何某ヲ派遣候條便宜御供與相成度候也

第四章　鑑識

●警察指紋採取規程

昭和九年十月二十三日
内務省訓第二一〇九號

第一條　左ノ各號ニ該當スル者ニ就テハ其ノ指紋ヲ採取シ別紙第一號樣式ノ警察指紋原紙ヲ作成スベシ

一　禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ノ被疑者ニシテ身柄ヲ檢事ニ送致スル者

二　禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ノ被疑者ニシテ身柄ヲ檢事ニ送致セザル者及罰金刑ニ該當スル犯罪ノ被疑者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪敢行ノ虞アリト認メタル者

三　拘留囚其ノ他ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪敢行ノ虞アリト認メタル者

前項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ト雖現行犯留置、拘留、檢束等ノ處分ヲ爲サザリシトキハ警察指紋原紙ノ作成ヲ要セズ

第二條　前條第一項第一號又ハ第二號ニ該當スル被疑者ニシテ本令ニ依リ既ニ警察指紋原紙ヲ作成シタル確證アルトキハ別紙第二號樣式ノ小票ヲ作成スベシ但シ創傷其ノ他ノ事由ニ因リ指頭又ハ隆線缺損シ指紋分類番號ニ異動ヲ生ジタリト認ムルトキハ警察指紋原紙ヲ作成スベシ

前項但書ノ警察指紋原紙ニハ其ノ欄外左側上部ニ別紙第三號樣式ノ㊞ノ印ヲ押捺スベシ

第三條　第一條第一項第三號ニ該當スル者ニシテ既ニ警察指紋原紙作成ノ確證アルトキハ前條第一項ニ定ムル小票ノ作成ヲ要セズ但シ創傷其ノ他ノ事由ニ因リ指頭又ハ隆線缺損シ指紋ノ分類番號ニ異動ヲ生ジタリト認ムルトキハ前條第二項ノ規定ニ準ジ警察指紋原紙ヲ作成スベシ

第四條　疾病、創傷等ノ事由ニ因リ指紋ヲ採取スルコト能ハザルトキハ指紋ノ採取ヲ要セズ但シ被疑者其身柄ヲ刑務所ニ收容セラレタルトキハ疾病又ハ創傷ノ治癒ヲ待チテ刑務所ニ依囑シ其ノ指紋ヲ採取スベシ

第五條　指紋ヲ採取スルニ當リテハ左ノ各號ニ留意スベシ

一　警察指紋原紙表面上欄及中欄ニハ各欄指定ノ順序ニ依リ指紋ヲ鮮明ニ廻轉押捺セシムルコト

二　警察指紋原紙表面下欄ニハ掌指ヲ除キ他ノ四指ノ指紋ヲ同時ニ平面ニ押捺セシムルコト

三　警察指紋原紙裏面ノ左手示指欄ニハ左手示指ヲ廻轉押捺セシムルコト

四　指紋ヲ押捺セシメタルトキ其ノ印象不鮮明ナルトキハ更ニ上部ノ餘白ニ押捺セシメ餘白ナキトキハ貼紙シテ押捺セシムルコト

第六條　指紋ヲ採取シタルトキハ直ニ本人ヲシテ警察指紋原紙裏面ノ氏名自署欄ニ其ノ氏名ヲ自署セシムベシ若シ自署スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ同欄ニ記載スベシ

第七條　指紋ヲ採取シタルトキハ直ニ警察指紋原紙各欄ニ所定ノ事項ヲ記載スベシ

警察指紋原紙裏面ノ送致事件處分結果欄ニ就テハ出所ノ事由ヲ除ク各事項ヲ警察指紋原紙作成ノ場所ニ於テ遲滯ナク記載スベシ

警察指紋原紙ノ記載ハ左ノ例ニ依ルベシ

一　難解又ハ讀方數個ニ渉ル氏名ニハ假名ヲ附スルコト

氏名欄ニ記載スベキ氏名カ自署氏名ト異ルトキハ氏名自署欄ニ其ノ事由ヲ細字ヲ以テ記載スルコト

二　綽名其ノ他ノ稱呼欄ニハ本名以外ノ通稱又ハ俗稱ノ全部ヲ記載スルコト

三　原籍、出生地、住所欄ニハ道府縣郡市區町村大字番地ヲ記載スルコト

四　親族關係欄ニハ主タル近親者ノ氏名及其ノ續柄ヲ記載スルコト

五　職業欄ニハ既往及現在ノ職業ヲ記載スルコト

六　指紋分類ニ關スル事項ハ第十條ニ定ムル警察指紋原紙保管廳ニ於テ記載スルコト

七　表面備考欄ニハ指紋ノ缺損、創痕等ニ因リ指紋ヲ押捺セシムルコトヲ得ズ又ハ之等ノ事由ニ因リ不整ノ印象ヲ生ジ若ハ現ニ押捺ノ印象以上ニ鮮明ニ押捺セシムルコト能ハザル事由等指紋ニ關スル參考事項ヲ記載スルコト

八　檢擧欄ニハ檢擧ノ年月日、罪名、犯罪手口名、檢擧官署名ヲ記載スルコト

九　送致欄ニハ送致ノ年月日、身柄、又ハ書類送致等ノ別、區裁判所檢事局、地方裁判所檢事局等送致先ヲ記載スルコト

十　釋放欄ニハ釋放ノ年月日、警察署、檢事局等釋放場所ノ別、釋放ノ事由ヲ記載スルコト

十一　受刑事項欄ハ左ノ例ニ依リ記載スルコト

イ　判決氏名欄ニハ判決書記載ノ氏名ヲ記載スルコト

ロ　罪名欄ニハ併合罪ナルトキハ併合セラレタル各罪名ヲ記載スルコト

ハ　刑名、刑期欄ニハ判決ノ刑名刑期ヲ記載シ若シ加重又ハ減刑ニ依リ變更セラレ又ハ未決拘留日數ノ算入セラレタル者ナルトキハ其ノ左傍ニ變更刑期若ハ未決拘留算入日數ヲ朱書スルコト

ニ　判決裁判所欄ニハ確定シタル判決ヲ言渡シタル裁判所名ヲ記載スルコト

ホ　執行刑務所欄ニハ最初ニ刑ヲ執行シタル刑務所名ヲ記載スルコト

ヘ　出所年月日欄及出所事由欄ニハ恩赦、假出獄、刑ノ終了、刑ノ執行停止、逃走等出所ノ事由及出所ノ年月日ヲ記載スベシ但シ現ニ執行中ノ刑ニ就テハ豫メ刑ノ終了ニ因リ出所スベキ年月日ヲ記載スルコト

ト　受刑事項中二箇以上引續キ執行スベキ刑ヲ有スルモノナルトキハ各刑ニ付各一欄ヲ用ヒ執行ノ順序ニ依リ之ヲ記載シ尙刑名刑期ノ肩ニ朱書ヲ以テ(1)(2)等ノ符號ヲ付シ且(1)ノ刑ノ出所ノ年月日及其ノ事由ノ左傍ニ下欄ノ刑ヲ引續キ執行スベキコトヲ朱書スルコト

十二　其ノ他ノ司法行政處分欄ハ左ノ例ニ依リ記載スルコト

イ　事件名欄ニハ「住所不定」「面會强要」等事件ノ名稱ヲ記載スルコト

ロ　處分內容欄ニハ拘留(日)科料(金額)檢束等ノ別ヲ記載スルコト

十三　捜査手配欄ニハ犯罪概要、手配官廳及其ノ年月日ヲ記載スルコト

十四　對照照會欄ニハ對照年月日及照會官廳名ヲ記載スルコト

十五　身體及精神上ノ特徵欄ニハ痘痕、疣、癤、痣、文身、創痕、不具、白痴、痴愚、色情倒錯、殘忍性格、痞唖、聾、唖、吃音等指紋其ノモノニ關セザル特徵ヲ記載スルコト

十六　裏面備考欄ニハ各欄記載事項ノ追加又ハ異動ノ整理及其ノ年月日其ノ他ノ參考事項ヲ記載スルコト

第八條　指紋被採取者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ受刑事項ニ關スル異動トシテ別紙第四號樣式ノ小票ヲ作成スベシ

一　刑務所入所中他ノ罪ニ因リ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ判決ヲ受ケ其ノ刑確定シ受刑事項ニ追加アリタルトキ

二　包藏ノ前科アルコトヲ發見シタルトキ

三　減刑セラレ又ハ加重刑ノ決定ヲ受ケ其ノ刑確定シ受刑事項ニ異動ヲ生ジタルトキ

四　刑ノ執行猶豫ノ言渡ノ取消アリタルトキ

五　執行刑務所ヲ變更シタルトキ

六　恩赦、假出獄、刑ノ執行停止、逃走等ニ因リ刑期終了前出所シタルトキ

七　假出獄ノ取消、刑ノ執行停止ノ取消、逃走逮捕等ニ因リ執行刑務所ニ復歸シタルトキ

第九條　指紋被採取者ニシテ本籍若ハ氏名ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ死亡シタルトキハ別紙第五號樣式ノ小票ヲ作成スベシ

第十條　廳府縣ニ於テハ警察指紋原紙、小票各三枚ヲ作成シ指紋ノ押捺及記載事項ニ過誤ナキコトヲ確認シタル後別紙第六號樣式ノ送付書ヲ添付シ速ニ警察指紋原紙保管廳(警視廳、大阪府、福岡縣)ニ各一枚宛送付スベシ

警察指紋原紙保管廳以外ノ廳府縣ニ於テハ前項ノ外尙警察指紋原紙一枚ヲ作成シ之ヲ豫備原紙トシテ保管シ管內ノ犯罪捜査ニ利用シ及小票作成ノ資料ニ供スベシ

第十一條　警察指紋原紙保管廳(現場指紋ノ對照ニ付テハ警視廳)ニ於テハ警察指紋原紙ヲ保存整理シ對照其ノ他ノ利用ニ關スル廳府縣ノ依囑ニ應ズベシ

第十二條　警察指紋原紙保管廳ニ於テ第二條及第三條ノ規定ニ依ル㊞ノ印ア警察指紋原紙ヲ受理シタルトキ又ハ重複セル警察指紋原紙ヲ發見シタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　創傷其ノ他ノ事由ニ因リ指頭又ハ隆線缺損シ指紋分類番號ニ異動ヲ生ジタリト認ムルトキ又ハ舊原紙ニ押捺セラレタル指紋不鮮明ナリト認ムルトキハ新原紙ニ所定ノ事項ヲ移記シタル後舊原紙ヲ廢棄スベシ

二　指紋分類番號ニ異動ナク且印寫ニ差異ナシト認ムルトキハ舊原紙ニ所定ノ事項ヲ移記シタル後新原紙ヲ廢棄スベシ

第十三條　警察指紋原紙保管廳ニ於テハ死亡者又ハ年齡七十五年ニ達シタル者若ハ其ノ他ノ事由ニ由リ保管ノ必要ナシト認ムル者ノ警察指紋原紙ハ之ヲ廢棄スベシ但シ死亡者若ハ老齡以外ノ事由ニ依リ保管ノ必要ナシト認ムル者ノ警察指紋原紙ヲ廢棄セントスルトキハ警察指紋原紙保管廳合議ノ上之ヲ決スベシ

第十四條　警察指紋原紙保管廳ニ對シ指紋ノ對照ヲ照會セントスルトキハ現場指紋ヲ除クノ外別紙第七號樣式ノ照會用紙ヲ用フベシ

第十五條　廳府縣ニ於テ犯罪者ノ指名手配ヲ爲シタルトキハ警察指紋原紙保管廳ニ通報スベシ其ノ手配ヲ解除シタルトキ亦同ジ

警察指紋原紙保管廳ニ於テ前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨警察指紋原紙ニ記載シ必要ナル事項ヲ當該廳府縣ニ通報スベシ

第十六條　廳府縣ハ他ノ廳府縣ノ指紋被採取者ニシテ其ノ管內所在ノ刑務所ニ於テ服役中ノ者ニ付第八條及第九條ニ定ムル小票作成上必要ナル事項ヲ調査シ當該廳府縣ニ之ヲ通報スベシ

廳府縣ニ於テハ其ノ管內ニ居住スル他ノ廳府縣ノ指紋被採取者タル前科者ニシテ死亡シタルモノアルトキハ死亡ノ年月日又ハ死亡確認ノ事由ヲ當該廳府縣ニ通報スベシ

第十七條　廳府縣ニ於テハ別紙第八號樣式ノ警察指紋原紙受發簿及小票受發簿ヲ備フベシ

第十八條　警察指紋原紙及警察指紋關係文書ニ發送又ハ收受番號ヲ記載スルニ當リテハ別紙第九號樣式ノ符號ヲ用フベシ

第十九條　警察指紋原紙ヲ發送セントスルトキハ其ノ封皮ニ「警指」ノ符號ヲ表示スベシ

第二十條　廳府縣ニ於テハ每年一月及七月ニ前六月分ノ警察指紋原紙ノ指紋被採取者數ヲ調査シ別紙第十號樣式ニ依リ內務省ニ報告シ其ノ副本ヲ警察指紋原紙保管廳ニ送付スベシ

第二十一條　警察指紋原紙保管廳ニ於テハ每年一月ニ十二月三十一日ニ於ケル警察指紋原紙現在數及前年間ニ於ケル警察指紋原紙對照成績ヲ夫々別紙第十一號樣式及第十二號樣式ニ依リ調査シ內務省ニ報告スベシ

第二十二條　廳府縣ニ於テハ每年一月ニ前年中ニ於ケル現場指紋採取數及現場指紋ニ依リ犯罪者ヲ確認シタル數ヲ別紙第十三號樣式ニ依リ調査シ內務省ニ報告スベシ

附　則

本令ハ昭和九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式　警察指紋原紙（用紙B百斤模造紙　縱三四、二糎　横二三、五糎）

警指第　　號

警察指紋原紙（表）

氏名	稱呼其ノ他ノ名綽	男女別	分類番號
	原籍		
年　月　日生	出生地		

（折）　左手廻轉押捺

1 示指	2 中指	3 環指	4 小指	5 拇指

（折）　右手廻轉押捺

6 示指	7 中指	8 環指	9 小指	10 拇指

（折）左手平面押捺	右手平面押捺

（折）親族關係	職業	住所	住所

昭和　年　月　日　廳府縣　署ニ於テ作成	作成者印	檢査者印	備考
昭和　年　月　日　廳府縣　ニ於テ分類	分類者印	檢査者印	

（山梨警）

警察指紋原紙（裏）

搜査手配

照會對照

左手示指廻轉押捺	自署氏名

身體及精神上ノ特徵

備考

送致事件處分結果

檢擧				送致			處分結果												其ノ他ノ司法行政處分			
							釋放			受刑事項												
年月日	罪名	手口名	官署	年月日	種別	送致先	年月日	場所	事由	判決氏名	罪名	刑名刑期(金額)	判決年月日	刑ノ始期	判決裁判所	執行刑務所	出所年月日	出所事由	事件名	處分內容	處分年月日	處分官廳

（山梨警）

第二號樣式

小票（用紙B八十斤模造紙　縱十四糎　横二十糎）

警指第　　號

廳府縣

（表）

氏名及生年月日	綽名其ノ他ノ稱呼		原籍	
	親族關係		出生地	
	職業		住所	
年　月　日生	男女別			

氏名自署	左手示指廻轉押捺	身體及精神上ノ特徴	原紙ヲ作成セザリシ事由

				備考
昭和　年　月　日　廳府縣　署ニ於テ作成	作成者印		檢査者印	
昭和　年　月　日　廳府縣　ニ於テ整理	整理者印		檢査者印	

（裏）

檢擧				送致			送致事件處分結果：處分結果												其ノ他ノ司法行政處分			
							釋放			受刑事項												
年月日	罪名	手口名	官署	年月日	種別	送致先	年月日	場所	事由	判決氏名	罪名	刑名、刑期（金額）	判決年月日	刑ノ始期	判決裁判所	執行刑務所	出所年月日	出所事由	事件名	處分內容	處分年月日	處分官廳

〔山梨警〕

〔山梨警〕

第三號樣式

再……徑一糎

第四號樣式

小票（用紙A四十五斤模造紙　縱二十糎　横十四糎）

警指第　　號

廳府縣

氏名			送致事件處分結果										異動事由及其ノ年月日
年　月　日生			受刑事項										
原籍	出生地	住所	判決氏名	罪名	刑名、刑期（金額）	判決年月日	刑ノ始期	判決裁判所	執行刑務所	出所年月日	出所事由		
			異動前原紙記載事項										
			異動事項										

第五號樣式

小票（用紙A四十五斤模造紙　縱十十四糎　横十四糎）

警指第　　號

廳府縣

異動シタル本籍又ハ氏名	異動前ノ原紙記載事項	區分
		氏名及生年月日
		出生地
		原籍
死亡ノ年月日又ハ死亡ノ確認ヲ得タル事由		住所
		異動事由及其ノ年月日

第七號樣式

照會用紙

警察指紋對照會用紙（用紙美濃半紙大）

（用紙洋紙大A四十五斤模造紙）

指紋對照方照會	出生地	本籍	住所	氏名	生年月日	罰金以上ノ前科ノ有無	指紋採取由來	右指紋對照ノ結果御回報相煩度	右回答ス	備考
	自稱 訂正	自稱 訂正	自稱 訂正	自稱 訂正	自稱 訂正	執行ヲ終ルノ年月日 及言渡裁判所	備考	御中 縣府廳	年 月 日	指紋番號 No.....
	判決ヲ受ケタル氏名	罰金 刑名	刑名 刑期	刑期 判決年月日	執行ヲ終ルノ年月日 及言渡裁判所					

備考

一、照會ノ出生地、本籍、住所、氏名、生年月日ノ欄ハ右側ニ自稱ヲ記載シ若シ指紋原紙保管廳ニ於テ住所氏名等詐稱セルモノヲ發見セルトキハ其ノ左側ニ訂正記入スルコト

二、指紋採取ハ其ノ左側ニ何年何月何日住所不定ニ依リ拘留十日ニ處スル旨言渡シタル裁判所ノ檢事又ハ警察署又ハ檢事局ノ處分欄ニ依リ拘留十日ニ處スル旨ノ前科又ハ處分ニ犯罪事實ノ要旨ヲ記載シ若シ指紋原紙保管廳ニ於テ住所氏名等詐稱セルモノヲ發見セルトキハ其ノ左側ニ訂正記入スルコト

三、指紋採取ハ回答ノ前科欄及警察署又ハ檢事局ノ處分欄ニ依リ拘留十日ニ處スル旨ノ前科又ハ處分ニ犯罪事實ノ要旨ヲ記載シ若シ指紋原紙保管廳ニ於テ住所氏名等詐稱セルモノヲ發見セルトキハ其ノ左側ニ訂正記入スルコト

第六號樣式

受付書（用紙美濃半紙大）

指紋採取者住所	氏名	發送年月日	受取年月日	番號	作成事由	備考
原籍 住所	原籍 住所	發昭和　年　月　日	收昭和　年　月　日			
原籍 住所	原籍 住所	發昭和　年　月　日	收昭和　年　月　日			
原籍 住所	原籍 住所	發昭和　年　月　日	收昭和　年　月　日			
原籍 住所	原籍 住所	發昭和　年　月　日	收昭和　年　月　日			
原籍 住所	原籍 住所	發昭和　年　月　日	收昭和　年　月　日			
原籍 住所	原籍 住所	發昭和　年　月　日	收昭和　年　月　日			

備考

用紙ハ警察指紋原紙ノ小票ノ別ニ之ヲ改ムルコト

番號ハ受送ノ順序ニ依リ年度中通記スルコト

作成事由欄ニハ規程第何條第何項第何號該當ト記入ノコト

四、其ノ他ノ前科又ハ處分欄ニハ前記以外ノ前科(處分)ヲ何罪何犯(回)計何犯(回)ト記入スルコト故ニ其ノ者ノ前科又ハ前處分總數ハ同計ト前欄記載ノ前科(處分)ヲ合シタルモノタルコト

五、警察署又ハ檢事局ノ處分欄中處分別ニハ起訴猶豫、微罪處分等ノ別ヲ記入スルコト

(裏)

左手廻轉押捺	示指	中指	環指	小指	拇指	右手廻轉押捺	示指	中指	環指	小指	拇指	平面押捺	左手小環中示指	右手示中環小指

〔山梨警〕

第八號樣式　警察指紋原紙(小票)受發簿　(用紙美濃半紙大)

警察指紋原紙(小票)受發簿

〔山梨警〕

番號	收受 發送 年月日	指紋被採取者 氏名	原籍住所	原紙(小票)作成 官署名	作成事由及其ノ年月日	備考
	收昭和 年 月 日 發昭和 年 月 日		原籍 住所			
	收昭和 年 月 日 發昭和 年 月 日		原籍 住所			
	收昭和 年 月 日 發昭和 年 月 日		原籍 住所			
	收昭和 年 月 日 發昭和 年 月 日		原籍 住所			

廳府縣

備考　作成事由欄ニハ規程第(何)條第(何)項第(何)號該當ト記入スルコト

簿冊ハ警察指紋原紙ト小票ノ別ニ依リ之ヲ改ムルコト

送致書ト本簿ハ樣式同一ニ付複寫ニ依リ同時ニ作成シ編冊スルヲ便宜トス

第十二號様式

警察指紋原紙対照成績表

昭和　年　月　日末現在保管数

縣府廳

區別 / 縣府廳名					
對照會數					
前科發見數					
發見歩合					
同上ノ内發見數					

第十三號様式

現場指紋採取及犯罪者確認成績表

縣府廳

該當者	第一該當者號		第二該當者號		第三該當者號		計		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	

第十三號様式

警察指紋原紙対照成績報告様式

犯罪名及	現場指紋	警察指紋原紙ニ依ル犯罪者確認數		
手口名	採取數	紙ニ依リ	者ノ指紋ニ依リ	計

第十一號様式

警察指紋原紙現在數報告様式

縣府廳

區別 / 縣府廳名	新原紙	再原紙	人計
指紋採取人員			
追加小票作成人員			

第十號様式

報告様式

一、禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ノ被疑者ニシテ身柄ヲ檢事ニ送致スル者

二、禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ノ被疑者ニシテ身柄ヲ檢事ニ送致セザル者及罰金刑ニ該當スル犯罪ノ被疑者ニシテ前科ノ有無ヲ調査スル者

三、拘留囚其ノ他ノ者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ヲ敢行シ又ハ犯罪ヲ敢行シタリト認メラルル者

合	拘留	拘留囚其ノ他ノ者		禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪ヲ敢行シタリト認メラルル者	
		檢事ニ送致スル	檢事ニ送致セザル	檢事ニ送致スル	檢事ニ送致セザル

第九號様式

警察指紋原紙及書類送付番號

警察指紋關係文書類送付番號	警察指紋原紙				犯罪名
	新原紙		再原紙		
	指紋採取人員	人計	指紋採取人員	人計	

第八號様式

警察指紋原紙及書類送付番號

警指第　號	警察指紋原紙及書類送付番號				
	新原紙		再原紙		犯罪名
	指紋採取人員	人計	指紋採取人員	人計	

備考　警指ノ上ニ縣府縣名ノ頭字ヲ附スルコト但シ頭字ヲ同フスル府縣ニ在リテハ其ノ府縣名ノ全部ヲ附スルコトヲ得

第十一號様式

警察指紋原紙現在數調

縣府廳

第一號	第一項 / 數	現在數						合計
		既往保管原紙			新作成原紙		受理總數	
		男		女	男	女		
		別						
男	現在未送致數							
	廢棄數							
	現在數							
	廢棄數							
	現在數							
	合計							

第十一號様式

警察指紋原紙現在數報告様式

區別	拘留	檢事ニ送致スル	檢事ニ送致セザル	共ノ他	合計
指紋採取人員	新原紙				
	再原紙				
	人計				
追加小票作成人員					

警察指紋取規程

昭和九年訓令十一乙第一九〇號

山梨縣

第一條　本規程ニ於テ内務省規程ト稱スルハ別冊昭和九年十月二十三日内務省令第三十九號警察指紋取扱規程ヲ謂フ

務省訓令第二一〇九號警察指紋採取規程ヲ謂フ

第二條　警察署ニ於テハ內務省規程第一條各號ニ該當スル者ニ就テハ一人毎ニ同規程第一號樣式ニ依ル警察指紋原紙ヲ各四枚宛作成スヘシ

同規程第二條第三條第四條第八條第九條ノ小票竝指紋原紙ニ付テモ亦同シ

第三條　警察指紋原紙(小票)ノ作成及指紋ノ採取ニ付テハ內務省規程第二條乃至第七條ノ定ムル所ニ據ルヘシ

第四條　前條ニ依リ作成シタル指紋原紙及小票ハ之ヲ速ニ警察部長ヘ進達スヘシ

第五條　警察署ニ於テハ內務省規程第八條第九條ノ異動事項ニ注意シ檢事局刑務所等官公署ヨリ通知ヲ受ケ若ハ其他ノ方法ニ依リ事由ヲ確認シタル後同規程第四號樣式第五號樣式ノ小票ヲ作成スヘシ

第六條　警察署ニ於テハ指紋取扱主任者ヲ定メ之ヲ警察部長ニ報告スヘシ

其後異動ヲ生シタルトキ亦同シ

指紋取扱主任者ノ作成シタル指紋原紙竝小票ハ署長若ハ司法事務主任者ニ於テ檢印ノ上處理スヘシ

第七條　警察部刑事課ニ於テハ指紋事務取扱主任者ヲ定メ警察署ヨリ進達ニ係ル指紋原紙及小票ヲ檢査シ指紋ノ押捺、記載事項等ニ過誤ナキコトヲ確認シタル後原紙保管廳ニ送付シ豫備原紙ハ之ヲ分類排列シテ常ニ整備シ警察署ヨリ發スル指紋對照ノ求メニ應スヘシ

第八條　警察署ニ於テ警察指紋對照ノ必要生シタルトキハ直接指紋原紙保管廳ニ對シ內務省規程第十四條所定ノ用紙ニ依リ照會ヲ發スルト同時ニ當廳警察部保管ノ豫備原紙ニ對シテモ對照ヲ求ムヘシ

司法省指紋部ニ對スル指紋對照方ノ照會ニ關シテハ當分從前ノ取扱例ニ依ルヘシ

第九條　警察部刑事課及警察署ニ於テハ內務省規程第十三條ニ依ル指紋原紙保管ノ必要ナシト認ムル者ヲ常ニ調査シ發見ノ都度警察部長ニ報告スヘシ

第十條　警察署ニ於テ犯罪者ノ指名手配竝其手配解除ヲ爲シタルトキハ速ニ警察部長ニ報告スヘシ

警察部刑事課ニ於テハ前項ノ報告ニ基キ之ヲ內務省規程第十五條第一項ニ依リ指紋原紙保管廳ニ通報スヘシ

其部ニ於テ指名手配竝手配解除ヲ爲シタルトキ亦同シ

第十一條　內務省規程第十六條第一項ニ依ル他廳府縣ノ指紋被採取者ニシテ管內所在ノ刑務所ニ服役中ノ者ニ對スル異動小票ノ作成上必要ナル調査ハ警察部刑事課ニ於テ之ヲ爲スヘシ

警察署ニ於テハ其管內ニ居住スル他廳府縣ノ指紋被採取者タル前科者ニシテ死亡シタル者アルトキハ同規程第十六條第二項ノ事項ヲ速ニ警察部長ニ報告スヘシ

第十二條　警察部刑事課ニ於テハ內務省規程第十七條所定ノ指紋關係簿册ヲ備フヘシ

警察署ニ於テハ別紙第一號樣式ノ警察指紋採取簿ヲ備ヘ指紋原紙及小票作成ノ都度登載シ其異動ハ常ニ整理シ置クヘシ

第十三條　警察署ニ於テハ指紋原紙(小票)ヲ進達スル際ハ內務省規程第六號樣式ニ依ル送付書ヲ用フヘシ

第十四條　警察署ニ於テハ警察指紋原紙(小票)ノ收發ニハ本規程第十二條二項ノ指紋採取簿ニ依ル進行番號及內務省規程第十八條ノ樣式ニ準シタル符號ヲ用フヘシ

第十五條　警察署ニ於テハ指紋原紙(小票)ヲ發送セントスルトキハ其封皮ニ內務省規程第十九條所定ノ符號ヲ表示スヘシ

前項ノ表示アル文書ハ警察部刑事課ニ於テ直接之ヲ收受シ規程第十七條、第十八條、第十九條ニ依リ處理スヘシ

第十六條　警察署ニ於テハ毎年一月十日及七月十日迄ニ前六月分ノ警察指紋原紙ノ指紋被採取者數ヲ調査シ內務省規程第二十條所定ノ樣式ニ依リ警察部長ニ報告スヘシ

第十七條　警察署ニ於テハ毎年一月十日迄ニ前年中ニ於ケル現場指紋採取數及現場指紋ニ依リ犯罪者ヲ確認シタル數ヲ內務省規程第二十二條所定ノ樣式ニ依リ警察部長ニ報告スヘシ

附則

本規程ハ昭和九年十二月一日ヨリ施行ス

昭和七年一月訓令乙第二號指紋取扱規程ハ之ヲ廢止ス

〔山梨警〕

第一號樣式

警察指紋原紙採取(小票作成)簿　(美濃半紙大)

番號	採取 發送 年月日	指紋被採取者 氏名	生年月日	原籍住所	原紙(小票)作成 官署名	作成事由及其年月日	備考
	採 昭和 年月日 發 昭和 年月日		年月日	原籍 住所	警察署	昭和 年月日	
	採 昭和 年月日 發 昭和 年月日		年月日	原籍 住所	警察署	昭和 年月日	
	採 昭和 年月日 發 昭和 年月日		年月日	原籍 住所	警察署	昭和 年月日	
	採 昭和 年月日 發 昭和 年月日		年月日	原籍 住所	警察署	昭和 年月日	
	採 昭和 年月日 發 昭和 年月日		年月日	原籍 住所	警察署	昭和 年月日	

採	昭和　年　月　日		原籍
發	昭和　年　月　日	警察署	年　月　日　住所

備考　作成事由欄ニハ規程第(何)條第(何)項第(何)號該當ト記入スルコト
簿冊ハ警察指紋原紙ト小票ノ別ニ依リ之ヲ改ムルコト

●警察指紋分類規程印刷送付ノ件

昭和十年四月
刑發第七八號

各署ニ於テ採取サルヽ警察指紋ハ昭和七年八月十七日付司法省訓令第二號指紋分類規程及同規程附表ニ準據シテ分類スル樣內務省警保局ヨリ通牒アリタルヲ以テ同規程及同附表ヲ別冊ノ通印刷送付候條爾今警察指紋採取規程第八條(內務省警察指紋採取規程第十四條)ニ依リ指紋對照方ヲ求ムル場合ハ別冊規程ニ準據シ附假ノ上照會セラルヘシ

(別冊)

指紋分類規程

昭和七年八月十七日
司法省訓令第二號

第一條　人ノ異同識別ノ爲作成スヘキ指紋ノ分類ハ本規程ニ依ル

第二條　本規程ニ依ル指紋トハ指頭內面ニ於テ皮膚ノ隆起セル線又ハ點ヲ以テ形成セラレタル各種ノ紋樣ヲ謂フ

第三條　皮膚ノ隆起セル部分ヲ隆線ト稱シ其ノ形狀ニ依リ之ヲ左ノ十七種ニ區別ス(附表第一圖參照)

一　弓狀線　左側又ハ右側ヨリ起リ弓狀若ハ波狀ヲ成シ反對ノ側ニ流ルル隆線ヲ謂フ

二　蹄狀線　左側又ハ右側ヨリ起リ斜ニ向テ走リ馬蹄形ヲ成シテ原起リタル方ヘ還流スル隆線ヲ謂フ

三　中核蹄線　蹄狀線中最內部ニアルモノヲ謂フ

四　渦狀線　隆線ガ一回以上圓又ハ楕圓ヲ描キ原起點ニ合セザルモノヲ謂フ

五　環狀線　隆線ガ一箇ノ圓又ハ楕圓ヲ成スモノヲ謂フ

六　接合線　二箇以上ノ隆線ガ一點ニ於テ相接合スルモノヲ謂フ

七　棒狀線　棒狀ヲ成シタル隆線ヲ謂フ

八　短線　隆線中獨立シテ極メテ短キ長サヲ有スルモノヲ謂フ

九　點　隆線中長サヲ有セザルモノヲ謂フ

十　點線　點ノ相連リテ線ヲ形成スルモノヲ謂フ

十一　分岐線　一隆線ガ分レテ二線ト成リタルモノヲ謂フ

十二　幹線及支線　分岐線ノ幹ヲ幹線、枝ヲ支線ト謂フ

十三　接觸線　二箇ノ隆線相接觸スルモノヲ謂フ

十四　鳥形線　一ノ隆線中ニ圓楕圓又ハ紡垂形等ヲ含ムモノヲ謂フ

十五　弧狀線　弧狀ヲ成シタル隆線ヲ謂フ(附表第二圖參照)

十六　鉤狀線　鉤狀ヲ成シタル隆線ヲ謂フ(附表第二圖參照)

十七　介在線　竝行セル二隆線ノ間ニ介在セル線ヲ謂フ

第四條　三角洲　二隆線接合シ若ハ將ニ接合セントシテ竝行シ三角形又ハ之ニ類スルモノヲ謂フ(附表第三圖參照)

第五條　內端　蹄線ノ流レト反對ノ側ニ在ル三角洲ノ外側ノ一點ニ對シ最遠キ中核蹄線ノ肩部(蹄狀內端)中核蹄線內ニ在ル棒狀線ノ頂點(棒狀內

端)又ハ點(點內端)弧狀線(弧狀內端)鉤狀線(鉤狀內端)ノ尖端ヲ謂フ(附表第四圖參照)

第六條　外端　蹄線ノ流レト反對ノ側ニ在ル內端ニ最近キ三角洲ノ外側ノ一角ガ隆線ノ接合ニ因ルトキハ其ノ接合點(接合外端)竝行セルトキハ隆線ノ竝行ヲ始ムル中央ノ一點ヨリ內端ニ向テ假想ノ直線ヲ引キ第一ニ觸レタル線又ハ點(竝行外端)ヲ謂フ(附表第五圖參照)

第七條　標準角　二箇以上ノ三角洲ヲ有スル指紋ニ於テ左右兩側ノ三角洲ノ一角ニシテ中央部ヨリ最遠キモノヲ謂フ(附表第六圖參照)

第八條　標準點　標準角ノ頂點ヲ謂フ(附表第六圖參照)

第九條　追跡線　左側標準角ノ下部ノ一邊ヲ成ス線ヲ右側標準角ノ內側又ハ外側ニ至ル迄追ル線ヲ謂フ(附表第七圖參照)

第十條　指紋ヲ其ノ紋樣ニ依リ弓狀紋、蹄狀紋、渦狀紋ノ三種ニ大別ス

第十一條　弓狀紋　弓狀線ニ因リ形成スル指紋ニシテ之ヲ普通弓狀紋ト突起弓狀紋トノ二種ニ分ツ(附表第八圖參照)

普通弓狀紋　單純ナル弓狀線ニ因リ形成スル指紋ヲ謂フ

突起弓狀紋　突出セル弓狀線ニ因リ形成スル指紋ヲ謂フ

第十二條　蹄狀紋　蹄狀線ニ因リ形成シ其ノ隆線ノ流レト反對ノ側ニ三角洲ヲ有スル指紋ニシテ之ヲ甲種蹄狀紋ト乙種蹄狀紋トノ二種ニ分ツ(附表第九圖參照)

甲種蹄狀紋　蹄狀線ガ拇指側ヨリ起リ原方向ニ還流スル指紋ヲ謂フ

乙種蹄狀紋　蹄狀線ガ小指側ヨリ起リ原方向ニ還流スル指紋ヲ謂フ

第十三條　渦狀紋　渦狀線、環狀線、蹄狀線若ハ其ノ他ノ隆線ヲ以テ獨立又ハ混合ニ因リ形成セラレ二箇以上ノ三角洲ヲ有スル指紋ニシテ之ヲ左ノ七種ニ區別ス(附表第十圖參照)

一　純渦狀紋　中心ガ渦狀線ニ因リ形成セラレタルモノヲ謂フ

二　環狀紋　中心ガ環狀線ニ因リ形成セラレタルモノヲ謂フ

三　二重蹄狀紋　中心ヲ爲ス一箇ノ隆線ニ因リ二箇以上ノ蹄線ヲ形成シ其ノ隆線ガ同一方向ニ流ルルモノヲ謂フ

四　雙胎蹄狀紋　中心ヲ爲ス一箇ノ隆線ニ因リ二箇以上ノ蹄線ヲ形成シ其ノ隆線ガ反對ノ方向ニ流ルルモノヲ謂フ

五　有胎蹄狀紋　蹄線內ニ弧狀線又ハ鉤狀線ヲ有シ其ノ凸部ガ弓形ヲ成シ蹄線ノ口ト相對スルモノヲ謂フ

六　混合紋　二箇以上ノ紋樣ヲ有シ一箇ノ指紋ヲ形成スルモノヲ謂フ

七　變體紋　何レノ種類ニモ屬セザル變形ノ指紋ヲ謂フ

第十四條　內端ヲ定ムルニハ左ノ方法ニ依ル(附表第十二圖參照)

一　蹄狀內端　中核蹄線頭ノ弧ヲ含ム假想ノ圓ト蹄線ノ脚トノ接點ニシテ外端ヲ去ルコト最遠キモノトス

二　棒狀內端　中核蹄線內ニ線又ハ點ノ存在スルトキハ前項假想圓ト蹄線ノ脚トノ二接點ヲ結ブ直線ニ達シタル其ノ數ガ

イ　棒狀線(點ヲ含ム)一箇ナルトキハ其ノ頂點トス

ロ　棒狀線(點ヲ含ム)二箇ナルトキハ外端ヨリ遠キ線ノ頂點トス

ハ　棒狀線(點ヲ含ム)三箇以上ニシテ奇數ナル場合ハ中央ノ一線ノ頂點、偶數ナル場合ハ中央ノ二線ノ中外端ヨリ遠キモノノ頂點トス

ニ　二箇以上ノ線ガ頂點ニ於テ接合スルトキハ其ノ接合點トス

ホ　二箇以上ノ蹄線及棒狀線(點ヲ含ム)在ルトキハ蹄點ノ脚ヲ夫々棒狀線ト看做シ(ハ)號ニ依リ內端ヲ定ム

ヘ　蹄線交叉シタルトキハ其ノ交點トス

但シ交點二箇在ルトキハ外端ヨリ遠キモノトス

ト　蹄線ノ頭部ヲ貫通スル棒狀線在ルトキハ其ノ棒狀線ノ頂點ト貫通セラレタル蹄線ノ頂點トヲ比較シ高キモノヲ以テス

第十五條　外端ヲ定ムルニハ左ノ方法ニ依ル(附表第十三圖參照)

一　接合又ハ並行外端ニシテ同一方向ニ二箇以上ノ完全ナル三角洲アルトキハ內端ニ對シ最近キモノトシ又不完全ナル三角洲ナルトキハ比較的完全ナルモノヲ以テス

二　三角洲ヲ形成スベキ二線ノ並行ヲ始ムル中央ノ一點ニ介在線在ルトキハ同點ヲ以テス

第十六條　追跡線ノ起點竝終點ハ左ノ方法ニ依リ定ム(附表第七圖參照)

一　起點　標準角ヲ形成スル隆線ガ接合スルトキハ接合點ヲ以テシ並行スルトキハ並行ヲ始ムル下邊ノ一點ヲ以テス

二　終點　追跡線ガ右側標準角ノ內側ニ出ヅルトキハ其ノ標準角ヲ二等分スル假想ノ直線ヲ引キ之ト追跡線トノ交點ヲ以テシ追跡線ガ右側標準角ノ外側ニ出ヅルトキハ右側標準點ヨリ其ノ追跡線ニ向テ比較的直角ナル假想ノ直線ヲ引キ其ノ直線ト追跡線トノ交點ヲ以テス

第十七條　追跡線スベキ隆線消滅シタル場合ハ外側ノ隆線ヲ追跡ス

一　隆線中斷シ其ノ同一線ヲ發見シ得ザルトキ亦同ジ

二　追跡線ガ分岐セル場合ニ於テ幹線支線ノ區別判明セルトキハ幹線ヲ、不明ナルトキハ外側ノ線ヲ追跡ス

三　追跡線ガ右側標準角ノ內側ニ出デ倘聯曲シテ再ビ標準角ノ內側又ハ外側ニ出ヅルトキト雖常ニ最初標準角ノ內側ニ出デタルトキニ止ムベキモノトス

第十八條　乙種蹄狀紋及渦狀紋ノ線(點ヲ含ム)ノ數ヲ計フルニハ左ノ方法ニ依ル

一　乙種蹄狀紋ニアリテハ內端ヨリ外端ニ向テ假想ノ直線ヲ引キ之ニ觸レタル線(點ヲ含ム)ヲ計フルモノトス(附表第十五圖參照)

但シ內端及外端ヲ加算セズ假想直線ガ外端ヲ有スル介在線ニ重リ或ハ之ト交ル隆線ノ交點ヲ過ルトキ亦同ジ

二　渦狀紋ニアリテハ右側標準點ヨリ追跡線ニ向テ假想直線ヲ引キ之ニ觸レタル線(點ヲ含ム)ヲ計フルモノトス(附表第十五圖參照)

但シ標準點及追跡線ヲ加算セズ假想シタル標準點ノ場合ニアリテハ其ノ標準點ヲ基準トシ初ニ觸レタル線(點ヲ含ム)亦同ジ

第十九條　弓狀紋ニハ總テ(1)ノ價ヲ附ス(附表第十六圖參照)

第二十條　蹄狀紋ニハ(2)乃至(6)ノ價ヲ附ス(附表第十六圖參照)

一　甲種蹄狀紋ナルトキハ(2)ノ價ヲ附ス

二　乙種蹄狀紋ナルトキハ其ノ線(點ヲ含ム)ノ數ニ依リ(3)乃至(6)ノ價ヲ附ス

イ　線(點ヲ含ム)ノ數　七箇以下ナルトキハ(3)トス

ロ　同　上　八箇以上十一箇以下ナルトキハ(4)トス

ハ　同　上　十二箇以上十四箇以下ナルトキハ(5)トス

ニ　同　上　十五箇以上ナルトキハ(6)トス

第二十一條　渦狀紋ハ之ヲ上流、中流、下流ノ三種ニ分チ(7)乃至(9)ノ價ヲ附ス(附表第十六圖參照)

一　追跡線ガ右側標準角ノ內側ニ出デ線(點ヲ含ム)ノ數四箇以上ナルトキハ上流ト爲シ(7)トス

二　追跡線ガ右側標準角ノ外側又ハ內側ニ出デ線(點ヲ含ム)ノ數三箇以內ナルトキハ中流ト爲シ(8)トス

三　追跡線ガ右側標準角ノ外側ニ出デ線(點ヲ含ム)ノ數四箇以上ナルトキハ下流ト爲シ(9)トス

第二十二條　渦狀紋ノ標準角缺如セルモ的確ニ推定シ得ベキトキハ所定ノ價ヲ附シ然ラザルトキハ總テ(9)ノ價ヲ附ス(附表第十七圖參照)

第二十三條　蹄狀紋ノ外端缺如セルモ的確ニ推定シ得ベキトキハ所定ノ價ヲ附シ然ラザルトキハ(0)ノ價ヲ附ス

第二十四條　指頭ハ存スルモ隆線ノ缺損セル場合若ハ隆線存スルモ著シク損傷セラレ指紋ノ種類及其ノ價ヲ附スルコト能ハザルトキハ(0)ノ價ヲ附ス

但シ疾病其ノ他ノ故障ニ因リ價ヲ附スルコト能ハザル場合ニアリテハ一時推定シタル價ト疑問符號(?)ヲ附シ其ノ事由ヲ備考欄ニ記スベキモノトス(附表第十八圖參照)

第二十五條　指頭缺如シ指紋ヲ押捺シ得ザルトキハ(0)ノ價ヲ附ス

第二十六條　本規程ニ關スル圖解ハ附表ニ依ル

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

指紋分類規程附表

第一圖

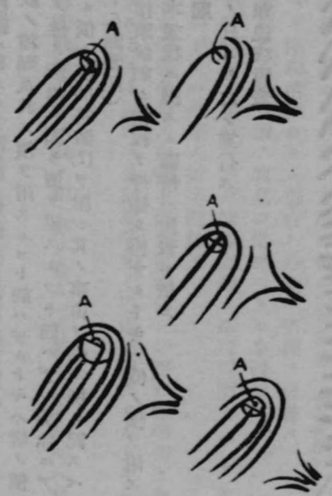
第二圖

第三圖

三角洲
（A點ヲ以テス）

第四圖

內蹄
（A點ヲ以テス）



〔山梨警〕

第五圖

外蹄
（A點ヲ以テス）

第六圖　標準角及標準點

第七圖　追跡線起點及追跡線終點

〔山梨警〕

第八圖

普通弓狀紋

弓狀紋

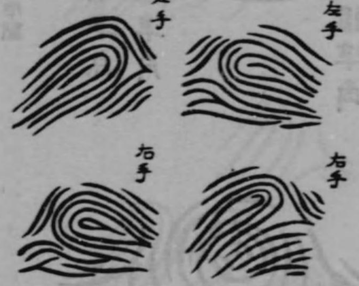
突起弓狀紋

第九圖

甲種蹄狀紋

蹄狀紋

乙種蹄狀紋



第十圖

純渦狀紋

渦狀紋

環狀紋

有胎蹄狀紋

二重蹄狀紋

雙胎蹄狀紋

混合紋

變體紋

第十一圖

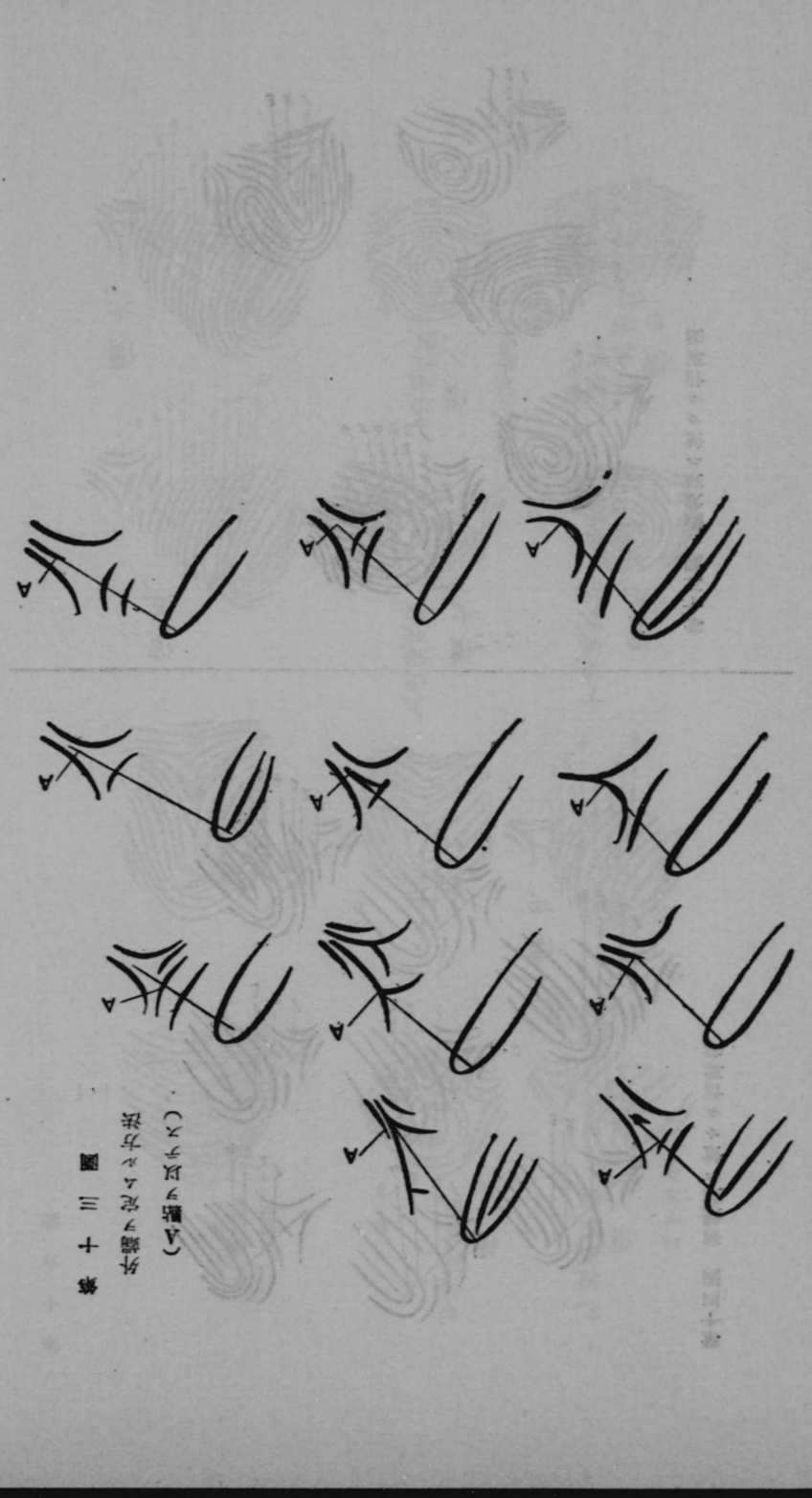
弓狀紋

蹄狀紋

渦狀紋

第十二圖

內縮ヲ定ムル方法
（A點ヲ以テス）



第十三圖

外縮ヲ定ムル方法
（A點ヲ以テス）

第十四圖　蹄狀紋ニ於ケル計算法

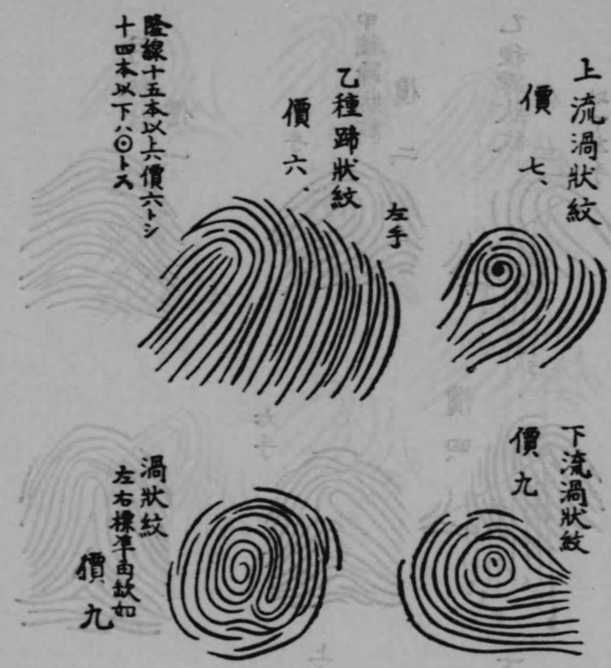
〔山梨醫〕

第十五圖　渦狀紋ニ於ケル計算法

第十六圖

〔山梨醫〕

第十七圖　推定シ得ル指紋



隆線十五本以上價六トシ十四本以下ハ〇トス

【山梨警】

第十八圖　推定シ得ザル指紋

●警察寫眞取扱規程

昭和五年十二月
山梨縣訓令乙第一七〇號

改正　昭和一一年八月訓令乙第二一〇號

第一條　警察寫眞ハ犯罪捜査及行政捜査上ノ資料ニ供スル爲撮影スルモノトス

第二條　警察寫眞ハ之ヲ分チテ人物寫眞現場寫眞ノ二トス

第三條　人物寫眞ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ撮影スヘシ但シ曾テ寫眞ヲ撮影シタル者ニシテ其ノ人相ニ變化ナキトキ及犯罪手口票取扱細則第四條ニ基キ犯罪手口別寫眞票ヲ作成シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　犯罪嫌疑者トシテ取調タルモノニシテ再犯ノ虞アル者

二　甲府刑務所釋放者中再犯ノ虞アル者

三　其ノ他刑事警察上特ニ必要アリト認ムル者

第四條　現場寫眞ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ撮影スヘシ

一　證據保全上犯罪現場ヲ撮影シ置クノ必要アルトキ

二　證據物件ヲ撮影シテ鑑別ヲ要スルトキ

三　犯罪現場ノ指紋ヲ撮影シテ保存スルノ必要アルトキ

四　犯罪現場ノ遺留品ヲ撮影シ捜査竝證據保全ニ利スルノ必要アルトキ

五　身元不詳ノ變死者竝變死者ノ變死ノ狀況ヲ後日ニ保存スルノ必要アルトキ

六　被殺傷者ノ創傷ノ部位及加害ノ狀況ヲ知ル爲撮影スルノ必要アルトキ

七　前各號ノ外特ニ現場寫眞ヲ撮影スルノ必要アリト認ムルトキ

第五條　人物寫眞ハ手札形ベルチヨン式トシ現場寫眞ハ成ルヘク キャビネ形トス

第六條　警察署ニ於テ警察寫眞ヲ撮影シタルトキハ左ノ各號ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　人物寫眞ハ印畫二部ヲ作成シ之ヲ第一號樣式ノカードニ貼付シ所要事項ヲ記入シ其ノ一部ヲ原板ト共ニ警察部ニ進達シ一部ヲ署ニ保存スルコト

二　現場寫眞ハ印畫二部ヲ作成シ之ヲ第二號樣式ノ用紙ニ貼付シ所要事項ヲ記入シ其ノ一部ヲ原板ト共ニ警察部ニ進達シ一部ヲ關係記錄ニ一括シ置クコト

第七條　警察部刑事課ニ於テ撮影シタル寫眞ノ中人物寫眞ハ第一號樣式ノカードニ現場寫眞ハ第二號樣式ノ用紙ニ貼付シ各所要事項ヲ記入シ其ノ一部ヲ關係警察署ニ送付スヘシ

第八條　警察部刑事課ニ於テハ自課撮影ニ係ル寫眞竝警察署ヨリ進達ニ係ル寫眞ヲ左ノ各號ニ依リ整理スヘシ

一　人物寫眞ノ原板ハ第三號樣式ノ臺帳ニ登載シ原板ニハ順次番號ヲ付シ保存スルコト

二　現場寫眞ノ原板ハ第四號樣式ノ臺帳ニ登載シ原板ニハ順次番號ヲ付シ保存スルコト

三　人物寫眞ノ印畫ハ氏名ノ頭字ニ依リ五十音ニ分類シカード收納箱ニ保存スルコト

四　現場寫眞ノ印畫ハ犯罪現場寫眞竝變死人寫眞竝ニ編綴保存スルコト

第九條　警察署ニ於テハ自署撮影ニ係ル寫眞竝警察部刑事課ヨリ送付ヲ受ケタル寫眞中人物寫眞ハ前條第三號ニ準シ保存シ現場寫眞ハ關係記錄ニ一括シ置クヘシ

第十條　警察署ニ於テ捜査上寫眞ノ必要アルトキハ警察部長ニ燒増送付方申請スヘシ

【山梨警】

第十一條　警察署ニ保存シアル人物寫眞中其ノ署管内現住者ニシテ死亡シタルモノヲ毎年六月十二月ノ二回ニ調査シ警察部長ニ報告シ同時ニ其ノカードヲ廢棄スヘシ

（第一號樣式）（表）

（號　第　組　眞寫察警）

原板番號	第　號
綽名	
偽名	
振假名	
氏名	
生年月日	年　月　日生
本籍	
住所	
人相特徴	
前科及指紋	犯歴
犯罪手口	
最近出監	年　月　日　刑務所
撮影年月日場所	年　月　日
撮影者	
備考	

（原板番號ハ警察部ニ於テ記入スルモノトス）

〔山梨警〕

（裏）

貼付

（第二號樣式）（表）

寫眞原板番號	事件名	事件發生ノ時	事件發生場所	撮影時	撮影者
第　號		昭和　年　月　日午　時　分		昭和　年　月　日午　時　分	

〔山梨警〕

（裏）

寫眞ノ說明

（第三號樣式）

人物寫眞原板索引

原板番號	撮影年月日	氏名	備考

（第四號樣式）

現場寫眞原板索引

原板番號	撮影年月日	事件名	備考

〔山梨警〕

●犯罪手口票取扱規程

昭和十一年六月
內務省訓第五五五號

第一條　强盜、竊盜又ハ詐欺ニ該當スル犯罪ノ被疑者ヲ檢擧シタルトキハ別紙第一號表、第二號表及第四號表ニ依リ別紙第一號樣式ノ被疑者原紙（以下單ニ原紙ト稱ス）ヲ作成スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ガ作成ヲ省略スルコトヲ得

一　別紙第三號表列記手口中各第六欄以下ノモノナルトキ

二　微罪處分ヲ爲シ又ハ不起訴意見ヲ附シ送致セントスルモノニシテ再犯ノ虞ナシト認メタルトキ

第二條　原紙ハ一事件毎ニ一枚ヲ作成スベシ但シ別紙第三號表中犯罪手口ノ「中種別」同種ノモノ二件以上アルトキハ其ノ主ナルモノニ付之ヲ作成シ他ハ該原紙ノ備考欄ニ其ノ被害年月日及被害者名ヲ記載スベシ

第三條　前二條ニ依リ作成シタル原紙ハ別紙第八號樣式ノ送付書ヲ添附シ

左ノ區別ニ從ヒ之ヲ指定ノ廳府縣ニ送付スベシ

一　北海道ハ北海道廳

二　青森、岩手、宮城、秋田、山形及福島ノ各縣ハ宮城縣廳

三　茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野及靜岡ノ各府縣ハ警視廳

四　岐阜、愛知及三重ノ各縣ハ愛知縣廳

五　富山、石川及福井ノ各縣ハ石川縣廳

六　滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良及和歌山ノ各府縣ハ大阪府廳

七　鳥取、島根、岡山、廣島及山口ノ各縣ハ廣島縣廳

八　德島、香川、愛媛及高知ノ各縣ハ香川縣廳

九　福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎及鹿兒島ノ各縣ハ福岡縣廳

十　沖繩縣ハ沖繩縣廳

前項ニ依リ指定ヲ受ケタル廳府縣ハ之ヲ犯罪手口廳ト稱ス

第四條　犯罪手口廳ニ於テ原紙ヲ受理シタルトキハ左ノ方法ニ依リ之ヲ整理保存スベシ

一　別紙第三號表ニ依リ犯罪ノ手口別ニ分類スルコト

二　犯罪ノ手口同種ノモノハ年齡順ニ整理スルコト

三　年齡同年ノモノハ身長順ニ整理スルコト

四　身長同長ノモノハ體格ノ大小順ニ整理スルコト

第五條　原紙整理中同一人ノ同一手口ノ原紙ヲ發見シタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　新原紙表面下欄ノ舊原紙氏名欄ニ舊原紙ノ氏名ヲ記載シ同時ニ其ノ左欄原紙整理回數欄ニ其ノ回數ヲ朱示スルコト

二　舊原紙ハ前條ニ準ジ別ニ之ヲ整理保存スルコト

第六條　犯罪手口廳ニ於テハ原紙ニ基キ被疑者ノ氏名及異名ノ各ニ付別紙第二號樣式ノ被疑者氏名索引票ヲ作成シ氏名（異名ヲ含ム）ノ五十音順ニ整理保存スベシ

第七條　廳府縣ニ於テハ被疑者ノ寫眞ヲ氏名（異名ヲ含ム）ノ五十音順ニ整理スルノ外別紙第三號樣式ノ手口別寫眞票ヲ作成シ第四條ニ準ジ之ヲ整理保存スベシ

旅行的犯罪敢行ノ虞アリト認メラルル被疑者ニ付テハ前項ノ外寫眞一葉ヲ複製シ原紙ト共ニ之ヲ犯罪手口廳ニ送付スベシ

犯罪手口廳ニ於テ前項ノ寫眞ヲ受理シタルトキハ別紙第三號樣式ノ手口別寫眞票ヲ作成シ第四條ニ準ジ之ヲ整理保存スベシ

第八條　强盜、竊盜又ハ詐欺ノ被害發生シタルトキハ別紙第一號表、第二號表及第四號表ニ依リ別紙第四號樣式ノ被害通報票（以下單ニ通報票ト稱ス）ヲ作成シ別紙第八號樣式ノ送付書ヲ添附シ速ニ之ヲ犯罪手口廳ニ送付スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ガ作成ヲ省略スルコトヲ得

一　別紙第三號表列記手口中各第六欄以下ノモノナルトキ

二　被害發生後直ニ犯人ヲ檢擧シタルトキ

三　其ノ他通報手配ノ必要ナシト認メタルトキ

第九條　犯罪手口廳ニ於テ通報票ヲ受理シタルトキハ直ニ別紙第三號表ニ依リ手口分類ノ上原紙ト對照シ該當原紙ヲ發見シタルトキハ其ノ旨通報票ヲ送付シタル官署ニ速報スベシ

第十條　前條ニ依リ原紙ト對照シタルモ該當原紙ヲ發見セザルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　他ノ通報票ト對照シ同一人ノ犯行ト認メラルル通報票ノ發見ニ努ムルコト

二　對照ヲ終リタル通報票ハ第四條ニ準ジ之ヲ整理保存スルコト

三　通報票ニ基キ別紙第五號樣式ノ被害者氏名索引票ヲ作成シ第六條ニ

〔山梨警〕

準ジ整理保存スルコト

四　通報票記載ノ被害品中其ノ特徴ニ依リ他ノ同種ノ物ト正確ニ識別シ得ルモノアルトキハ別紙第六號樣式ノ贓品票ヲ作成シ別紙第五號表ニ依リ贓品ノ種別及特徴別ニ整理保存スルコト

第十一條　前條第一號ニ依リ同一人ノ犯行ト認メラルル他ノ通報票ヲ發見シタルトキハ左ノ各號ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　各通報票ハ之ヲ一括整理スルト同時ニ各票ニ付精査ヲ爲シ人相、特徴其ノ他犯人識別上新資料ノ獲得ニ努ムルコト

二　前號ノ場合ニ於テハ其ノ都度別紙第七號樣式ノ圖面ニ犯行ノ地點ヲ點示シ犯行ノ日時順ニ番號ヲ附スルト同時ニ其ノ裏面欄ニ夫々該當事項ヲ記載シ又ハ朱示スルコト

前項第二號ノ圖面ハ犯罪ノ手口別ニ分類シ犯罪ノ手口同種ノモノアルトキハ裏面ニ記載シタル最後ノ被害發生年月日順ニ整理保存スルコト

第十二條　前條第二號ノ圖面ニ依リ旅行的犯罪敢行ノ虞アリト認メタルトキハ速ニ該犯人ノ通路ニ當ル關係廳府縣ニ通報手配シ被害ノ豫防、犯人ノ檢擧ニ付連絡協調ヲ爲スベシ

第十三條　廳府縣ハ犯罪手口廳ニ對シ左ノ各號ノ事項ニ付照會ヲ爲スコトヲ得

一　犯罪ノ手口ニ依リ該當被疑者ノ有無

二　指名被疑者ノ手口內容又ハ親族、知友、職歷、趣味其ノ他原紙面ノ記載事項

三　人相、特徴又ハ習癖等ニ依リ該當被疑者ノ有無

四　現場指紋ニ依リ該當被疑者ノ有無

五　被害者又ハ證人等ノ手口別寫眞票閱覽ニ依ル該當被疑者ノ有無

六　餘罪ノ有無

〔山梨警〕

七　該當贓品ノ有無

犯罪手口廳ニ於テ前項ノ照會ヲ受ケタルトキハ直ニ精査ヲ爲シ速ニ其ノ結果ヲ回答スベシ

第十四條　犯罪手口廳又ハ廳府縣ハ必要アリト認メタルトキハ他ノ犯罪手口廳ニ前條第一項ノ照會ヲ爲スコトヲ得

第十五條　原紙又ハ通報票送付後記載事項中ニ追加、削除其ノ他訂正ノ必要生ジタルトキハ別紙第九號樣式ニ依リ速ニ犯罪手口廳ニ通報スベシ

第十六條　廳府縣ニ於テ第十九條第一號又ハ第二十條第一號ニ該當スル事實ヲ確認シタルトキハ別紙第十號樣式ニ依リ速ニ犯罪手口廳ニ通報スベシ

第十七條　犯罪手口廳ニ於テハ別紙第十一號樣式ニ依リ刑事日報ヲ發行スベシ

前項ノ刑事日報ニハ廳府縣ノ要求其ノ他ニ依リ一般手配又ハ周知ノ要アリト認メタルモノニ付左ノ各號ノ例ニ依リ各別紙ニ登載シ之ヲ關係廳府縣、他ノ犯罪手口廳及內務省ニ送付スベシ

一　容疑者アルモ犯罪事實不明ノ場合ハ「人アリ犯罪ヲ求ム」トシテ

二　犯罪發生シ犯人不明ノ場合ハ「犯罪アリ人ヲ求ム」トシテ

三　贓品ト認メラルルモ其ノ被害者不明ノ場合ハ「品アリ持主ヲ求ム」トシテ

四　被害品ノ所在不明ノ場合ハ「持主アリ品ヲ求ム」トシテ

五　被疑者判明セルモ其ノ所在不明ノ場合ハ「指名手配」トシテ

六　手配中ノ被疑者ヲ檢擧シ又ハ贓品ノ所在等判明セル場合ハ「手配解除」トシテ

七　新規ノ犯罪手口、犯人ノ檢擧其ノ他刑事警察上參考トナルベキモノアル場合ハ「參考資料」トシテ

〔山梨警〕

第十八條　刑事日報ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ整理シ滿三年間保存スベシ

一　犯罪手口廳別ニ整理スルコト

二　各項目別ニ分類シ發行年月日順ニ整理スルコト

三　爾後ノ日報ニ依リ其ノ都度整理スルコト

第十九條　左ノ各號ニ該當スル原紙、被疑者氏名索引票及手口別寫眞票ハ犯罪手口廳ニ於テ之ヲ廢棄スベシ

一　被作成者死亡シタルトキ

二　被作成者ノ年齡滿七十五歲ニ達シタルトキ

三　其ノ他保存ノ必要ナシト認メタルトキ

第二十條　左ノ各號ニ該當スル通報票、被害者氏名索引票、圖面及贓品票ハ犯罪手口廳ニ於テ之ヲ廢棄スベシ

一　被疑者死亡シタルトキ

二　公訴ノ時效完成シタルトキ

第二十一條　犯罪手口廳ニ於テ原紙ヲ受理シタルトキハ既存ノ通報票ト對照シテ該當通報票ヲ索出シ原紙ヲ送付シタル廳府縣ニ之ヲ交付スベシ

第二十二條　廳府縣ニ於テハ每年一月末日迄ニ別紙第十二號樣式ニ依リ前年中ニ於ケル原紙、通報票及手口別寫眞票ノ作成數ヲ調査シ之ヲ內務省ニ報告スベシ

第二十三條　犯罪手口廳ニ於テハ每年一月末日迄ニ別紙第十三號乃至第十六號樣式ニ依リ前年中ニ於ケル原紙、通報票、手口別寫眞票及贓品票ノ受理、作成、利用及交付ノ數ヲ調査シ之ヲ內務省ニ報告スベシ

附　則

第二十四條　本令ハ昭和十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條　犯罪手口廳以外ノ廳府縣ニ於テ當分ノ間單獨施行ヲ便宜トスルモノニ在リテハ其ノ事由ヲ具シ之ガ承認ヲ受クベシ

〔山梨警〕

●犯罪手口票記載例及取扱心得

昭和十一年六月
內務省發警第三〇號

一　被疑者原紙（以下單ニ原紙ト稱ス）及被害通報票（以下單ニ通報票ト稱ス）ハ執モ刑事警察上各般ノ重要ナル基礎資料ニ供セラルベキモノナルヲ以テ之ガ作成ニ當リテハ嚴密ナル調査ヲ遂ゲ內容ノ正確ヲ期スベシ

二　原紙及通報票ノ作成ニ付テハ當該事件取扱ノ司法主任其ノ責ニ任ズベシ

三　原紙、通報票其ノ他犯罪手口票ハ「ペン」及「インク」ヲ以テ明瞭ニ記載スベシ

四　原紙表面ノ各欄ニ左ノ各號ニ依リ記載スベシ

（一）上方ノ生年、身長、體格、犯罪別、大種別、中種別、小種別、手口番號ノ各欄及下方ノ手口分類者等ノ捺印、原紙整理回數、舊原紙氏名、備考ノ各欄ハ犯罪手口廳ニ於テ之ヲ記入シ及捺印スルコト

（二）氏名欄ニハ事件送致書記載ノ氏名ヲ記入シ、讀方ノ特異ナルモノニハ振假名ヲ附スルコト

（三）異名欄ニハ本名以外ノ通稱、俗稱、綽名、僞名等異名ノ全部ヲ記入スルコト

（四）性別欄ニハ男又ハ女ト記入スルコト

（五）身分欄ニハ有位帶勳者及華族ニ限リ其ノ種別ヲ記入スルコト

（六）住所欄ニハ同居者ナルトキハ何某方ト記入シ、住所不定ナルトキハ其ノ旨記載シ且括弧ヲ附シ最近ノ住所ヲ記入スルコト

（七）職業欄ニハ檢擧當時ノ職業ヲ記入シ、無職ナルトキハ其ノ旨記載シ且括弧ヲ附シ最近ノ職業ヲ記入スルコト

(八) 犯罪手口欄ニハ別紙第一號表ニ基キ左ノ例ニ依リ記入スルコト但シ犯罪ノ性質上不用ノ欄ニハ記入ヲ要セズ

イ　犯行場所欄ニハ犯罪ノ實行サレタル場所ヲ記入スルコト若シ一犯行ニシテ其ノ場所二箇所以上ニ亙リタルトキハ之ヲ併記スルコト

ロ　侵入口欄ニハ「應接室(箇所欄)」ノ「硝子窓(種別欄)」ヨリ等ノ例ニ依リ實際屋内ニ侵入シタル箇所ヲ記入スルコト若シ其ノ他ニ未遂ニ終リタル箇所アリタルトキハ括弧ヲ附シ之ヲ併記スルコト

ハ　侵入方法欄中第一次欄ニハ「電柱ヲ傳ヒ」等ノ例ニ依リ屋内ニ侵入スル迄ノ豫備的方法ヲ記入シ、第二次欄ニハ實際屋内ニ侵入シタル方法ヲ記入シ若シ其ノ他ニ未遂ニ終リタル方法アリタルトキハ括弧ヲ附シ之ヲ併記スルコト

ニ　用具欄ニハ侵入ニ際シ使用シタル器具類ノ全部ヲ記入スルコト若シ其ノ他ニ使用セントシタルモノアリタルトキハ括弧ヲ附シ之ヲ併記スルコト

ホ　暴力手段欄ニハ暴行脅迫ノ手段ヲ記入スルコト若シ其ノ手段二以上ニ及ビタルトキハ之ヲ併記スルコト

ヘ　犯行時欄ニハ「朝」「日沒頃」「深夜」等ノ例ニ依リ概念的時刻ヲ記入スルコト

ト　共犯欄ニハ共犯者ノ氏名ヲ記入シ、氏名判明セザルトキハ人員竝ニ男女別ヲ記入シ、共犯者ナキトキハ無ト記入スルコト

チ　風體欄ニハ「會社員風」「遊人風」「行商人風」等ノ例ニ依リ直感的風采ヲ記入スルコト

リ　語話欄中自稱欄ニハ犯人自稱ノ身分ヲ記入シ、話題欄ニハ被疑者ノ物語リタル話ニ依リ「身ノ上話」「商取引ノ話」「ロケーション

ノ話」等ノ例ニ依リ記入スルコト若シ話題ニシテ二種以上ニ亙リタルトキハ從タル話題ニハ括弧ヲ附シ之ヲ併記スルコト

ヌ　目的物欄ニハ犯行ノ目的トシタル財物ノ種目ヲ記入スルコト若シ其ノ種目二種以上アリタルトキハ之ヲ併記スルコト

ル　特癖欄ニハ犯罪手口上犯人ノ特癖ト認メラルル行爲ヲ記入スルコト若シ其ノ特癖二種以上ニ亙リタルトキハ之ヲ併記スルコト

(九) 犯罪事實欄ニハ左ノ例ニ依リ記入スルコト

イ　犯罪名欄ニハ「强盜」「强盜殺人」「窃盜」「詐欺」等ノ例ニ依リ犯罪ノ種別名ヲ記入スルコト

ロ　手口名欄ニハ別紙第二號表ニ基キ「押入リ」「空巢狙」「剽盜」「籠拔ケ」等ノ例ニ依リ手口ノ種別名ヲ記入スルコト

ハ　日時欄ニハ夫々該當事實ヲ記入シ同欄中ノ備考欄ニハ犯行ノ當日又ハ其ノ前後ニ於テ祭禮、市日、緣日其ノ他冠婚葬祭等記憶ノ對象トナルベキ事實アリタルトキハ其ノ事實ヲ記入スルコト

ニ　場所欄ニハ當該現場ノ所番地ヲ記入スルノ外別紙第一號表中犯行場所ノ下段ニ示シタル例ニ依リ該當種目ヲ夫々所定欄ニ記入スルコト若シ其ノ種目二種以上ニ該ルトキハ之ヲ併記スルコト

ホ　被害者欄ニハ夫々該當事項ヲ記入スルコト若シ被害者二人以上アリタルトキハ其ノ主タルモノニ付記入スルコト

ヘ　行爲欄ニハ犯罪ノ構成要素ヲ簡明ニ記載スルト共ニ手口ノ特徵ト認メラルル行爲ヲ明記スルコト尙詐欺犯ニ在リテハ其ノ語話ニ依リ犯人ノ人格又ハ職業關係等ヲ推知シ得ベキモノナルヲ以テ此ノ點ニ留意記載スルコト

ト　備考欄ニハ餘罪ノ摘錄又ハ參考事項ヲ記入スルコト

(十) 人相欄ニハ身長ヲ記入スルノ外該當種目ニ夫々朱示スルコト

(十一) 特徵欄ニハ別紙第四號表ニ基キ該當種目ヲ夫々所定欄ニ記入スルコト

(十二) 習癖欄ニハ「步行ニ際シ兩手ヲ後ニ組ム癖アリ」「對話ニ際シ手ニテ口ヲ覆フ癖アリ」等ノ例ニ依リ記入スルコト

(十三) 作成欄ニハ作成ノ年月日及作成ノ課署名ヲ記入シ、作成者、司法主任及課署長之ニ捺印スルコト

(十四) 寫眞欄ニハ不用文字ヲ抹消シ被疑者ノ寫眞撮影ノ有無ヲ明示スルコト

五　原紙裏面ニ指紋ヲ押捺セシムルニ當リテハ左ノ各號ニ留意スベシ

(一) 廻轉印象欄ニハ所定ノ欄ニ當該指頭ヲ出來得ル限リ廻轉シテ押捺セシムルコト

(二) 平面印象欄ニハ所定ノ欄ニ掌指ヲ除キタル四指ヲ揃ヘタル儘押捺セシムルコト

前項ノ指紋ハ指紋ヲ犯罪ノ手口別ニ分類整理スルコトニ依リ將來現場指紋トノ對照資料ニ供セラルベキモノナルヲ以テ最モ鮮明ナル印象ヲ得ルコトニ留意スベシ

詐欺犯ニ限リ指紋ノ押捺ハ之ヲ省略スルコトヲ得

六　原紙裏面ノ各欄ニ依リ記載スベシ

(一) 自署欄ニハ被疑者ヲシテ自稱ノ氏名ヲ自署セシムルコト但シ自署スルコト能ハザルトキハ原紙作成者ニ於テ其ノ事由ヲ記入スルコト

(二) 生立欄ニハ幼少時ニ於ケル養育者、生活狀態其ノ他本人ノ生立ニ關シ參考ト爲ルベキ環境ヲ記入スルコト

(三) 教育欄ニハ既往ニ於テ履習シタル學歷及現在ニ於ケル學力ノ程度ヲ記入スルコト

(四) 兵役欄ニハ服役ノ種別、兵種及階級等ヲ記入スルコト但シ兵役關係ナキトキハ無ト記入スルコト

(五) 職歷欄ニハ過去及現在ノ職業竝ニ其ノ從業期間ヲ記入スルコト

(六) 趣味欄ニハ文藝、美術、音樂、演劇、映畫、野球、競馬、圍碁、將棋、撞球、麻雀等趣味娛樂ニ關スルモノヲ全部記入スルコト

(七) 前科欄ニハ前科(執行猶豫又ハ起訴猶豫等ヲ含ム)ノ罪名及犯數ヲ記入スルコト但シ前科ナキトキハ無ト記入スルコト

(八) 親族欄及知友欄ニハ親交厚キ者ヨリ順次所定欄ニ記入スルコト

(九) 贓物欄ニハ左ノ例ニ依リ記入スルコト

イ　運搬具欄ニハ自轉車、自動車、貨物自動車、リヤカー、乳母車又ハ舟等犯行現場ヨリ贓物ヲ運搬スルニ使用シタルモノヲ記入スルコト

ロ　處分欄ニハ「入質ス」「古物商ニ賣却ス」「情人ニ贈與ス」「自身所持ス」等ノ例ニ依リ「改造シテ」欄又ハ「其ノ儘」欄ニ贓物ノ處分方法ヲ記入スルコト

ハ　費途欄ニハ「酒色費」「賭博ノ資金」「債務ノ返濟」「生計費」等ノ例ニ依リ贓物ノ費途ヲ記入スルコト

(十) 犯行動機欄ニハ「治療費ニ窮シテ」「出來心」「失職ノ爲生計困難ニ陷リ」等ノ例ニ依リ「直接」欄又ハ「間接」欄ニ犯行ノ動機トナリタル原因ヲ記入スルコト但シ職業的犯罪者犯罪常習者ニ付テハ其ノ旨記入スレバ足ル

(十一) 檢擧欄中端緒欄ニハ告訴、告發、自首、密告、現認、不審尋問等檢擧ノ端緒トナリタル事實ヲ記入シ、送致欄ハ不用ノ文字ヲ抹消スルコト

第五號、第六號及第八號ノ事項ハ執モ將來立廻先手配ノ資料ニ供セラルベキモノナルヲ以テ此ノ點ニ留意記載スルコト

七　通報票表面ノ各欄ハ左ノ各號ヲ除クノ外第四項ニ準シ之ヲ記載シ又ハ朱示スベシ但シ事實不明ノ爲所定欄ニ記入又ハ朱示スルコト能ハザルモノハ「不明」ト記入スベシ

（一）上欄被害通報欄ニハ「强盗」「强盗殺人」「竊盗」「詐欺」等ノ例ニ依リ犯罪ノ種別名ヲ記入シ、同時ニ通報ノ年月日及通報警察署名ヲ記入スルコト

（二）犯罪手口欄中犯行時欄ニ正確ナル時刻ヲ記入スルコト能ハザルトキハ「何日何時頃ヨリ何日何時頃迄ノ間」ノ例ニ依リ記入スルコト

（三）犯罪事實欄中著衣欄ニハ頭部ヨリ順次足部ニ其ノ著用物ヲ記入スルコト

（四）共犯者アル場合ニ於テハ甲乙ノ記號ヲ附シ夫々該當欄ニ記入又ハ朱示スルコト

八　通報票裏面ノ各欄ハ左ノ各號ニ依リ記載スベシ

（一）被害金品欄中物品欄ニハ左ノ例ニ依リ記入スルコト

イ　種別欄ニハ「懐中時計」「拳銃」「債券」「三ツ紋女羽織」「山水ノ畫幅」「布袋ノ置物」等ノ例ニ依リ贓品ノ種別ヲ記入スルコト

ロ　記號、番號欄ニハ被害品ニ記銘シアル製造又ハ發行等ノ記號、番號ヲ記入スルコト

ハ　地質欄ニハ「金側」「銀側」「金地」「銀地」「紙地」「絹地」「錦紗地」等ノ例ニ依リ地質ノ種別ヲ記入スルコト

ニ　製作又ハ發行者欄ニハ「何々會社製」「應擧筆」「何々銀行發行」等ノ例ニ依リ記入スルコト

ホ　型、紋又ハ模様欄ニハ「十八型」「梶型」「蒲鉾型」「菊ノ浮刻アルモノ」「圓ニ桔梗ノ染紋」「孔雀ノ裾模様」等ノ例ニ依リ直感的特徴ヲ記入スルコト

〔山梨警〕

ヘ　重量欄ニハ指輪又ハ寶石類ノ重量ヲ記入スルコト

ト　特徴欄ニハ「示時板IIトIIIトノ間ニ米粒大ノ瑕アリ」「何々ノ箇所ニ修理痕アリ」「右袖口ノ箇所ニ大豆大ノ燒痕アリ」「裏ハ白羽二重地ニ赤ノ市松模様」等ノ例ニ依リ出來得ル限リ詳細ニ其ノ特徴ヲ記入スルコト

チ　時價欄ニハ被害當時ノ賣買價額ヲ記入スルコト

本欄記入ノ被害品ハ將來容疑ノ物品ヲ發見シタル場合ニ於テ對照資料ニ供セラルベキモノナルヲ以テ、他ノ同種ノモノト正確ニ識別シ得ル確固不動ノ特徴ヲ捕捉スルコトニ留意スベシ

（二）被害金品欄中現金欄ニハ其ノ種別、枚數、金額ヲ記入シ、紙幣番號其ノ他特徴ノ判明セルモノハ之ヲ記入スルコト

（三）遺留欄ニハ其ノ種別、特徴及發見箇所ヲ記入スルコト但シ遺留ナキトキハ無ト記入スルコト

（四）被疑者欄ニハ判明シタル被疑者ノ氏名、異名、年齢、職業、前科及立廻見込先ヲ記入スルコト

（五）備考欄ニハ衣類ノ紋、被害品ノ特徴、現場ノ圖解、説明等ヲ記入スルコト
同欄ハ之ヲ通信文欄ニ使用スルコトヲ得

（六）臨検者欄ニハ現場ニ臨検シタル所轄警察署員、刑事課（部）員及裁判所員ノ各官職氏名ヲ記入スルコト

九　犯罪手口臨ニ於テ記載スベキ原紙及通報票ノ各表面上方ノ各欄ハ左ノ各號ノ例ニ依ルベシ

（一）生年欄ニハ出生ノ皇歴年ヲ記入スルコト

（二）身長欄ニハ該當ノ數字ヲ記入シ、體格欄ニハ大、中、小ノ別ヲ朱示スルコト

（三）犯罪別、大種別、中種別及小種別ノ各欄ニハ別紙第三號表ノ該當種目ヲ左ノ例ニ依リ記入スルコト

イ　犯罪別欄中上欄ニハ「盗犯」「詐欺」ノ種別ヲ記入シ、其ノ下欄ニハ之ニ該當スル表示記號「1」又ハ「2」ノ例ニ依リ記入スルコト

ロ　大種別欄中上欄ニハ「侵入强盗」「掏摸」「借倒シ」等ノ大種別名ヲ記入シ、其ノ下欄ニハ之ニ該當スル表示記號ヲ「1」「9」「2」等ノ例ニ依リ記入スルコト

ハ　中種別欄中上欄ニハ「押入リ」「空巣狙」「盥廻シ」等ノ中種別名ヲ記入シ、中欄ニハ「オシイリ」「アキスネライ」「タライマワシ」等ノ例ニ依リ之ニ該當スル假名ヲ記入シ其ノ下欄ニハ別紙第六號表ニ依リ中欄ノ假名ニ該當スル換數番號「1319」「123591」「491783」等ノ例ニ依リ記入スルコト但シ假名及換數番號ニシテ五位ヲ超ユルトキハ之ヲ五位ニ止メ、若シ五位ニ滿タザルトキハ「0」ヲ添ヘ五位トシテ記入スルコト

例
金庫破　キンコヤブ　20286
居空　イアキ00　11200

ニ　小種別欄中上欄ニハ「燒切」「列車内」「演藝」等ノ侵入方法、犯行場所又ハ詐欺犯人ノ物語リタル話題等犯行手口ノ小種別名ヲ記入シ、中欄及下欄ニハ前掲「ハ」ノ中種別欄記載例ニ依リ假名及換數番號ヲ記入スルコト

〔山梨警〕

（四）手口番號欄ハ左ノ區別ニ依リ記入スルコト

イ　左側ノ左枠内ニハ犯罪別欄ノ記號ヲ記入シ、其ノ右枠内ニハ大種別欄ノ記號ヲ記入スルコト

ロ　右側ノ下欄ニハ中種別欄ノ換數番號ヲ記入シ、其ノ上欄ニハ小種別欄ノ換數番號ヲ記入スルコト

例

手口番號	1	2	8 2 2 9 0 / 1 2 3 5 9
犯罪別	大種別	中種別	小種別
盗犯	侵入竊盗	空巣狙	燒切
1	2	アキスネラ 1 2 3 5 9	ヤキキリ0 8 2 2 9 0

手口番號	2	1	3 8 1 3 0 / 4 6 3 0 0
犯罪別	大種別	中種別	小種別
詐欺	賣付ケ	ちに預	商事
2	1	チバシ00 4 6 3 0 0	シヨウジ0 3 8 1 3 0

十　原紙及通報票ノ整理ハ左ノ各號ニ依ルベシ

(一)(二)(三)(四)手口番號欄左側ノ記號ヲ組合セタル數字別ニ分類スルコト

(一)(二)左側ノ記號ヲ組合セタル數字同數ノモノハ右側下欄ノ番號(分母)ニ依リ小ナル數ヨリ順次大ナル數ニ排列スルコト

(三)右側下欄ノ番號(分母)同數ノモノハ更ニ右側上欄ノ番號(分子)ニ依リ小ナル數ヨリ順次大ナル數ニ排列スルコト

(四)右側上欄ノ番號(分子)亦同數ナルトキハ左ノ方法ニ依リ排列スルコト

イ　生年數ニ依リ小ナル數ヨリ順次大ナル數ニ排列スルコト

ロ　生年數同數ナルトキハ身長ニ依リ小ナル數ヨリ順次大ナル數ニ排列スルコト

ハ　身長數亦同數ナルトキハ更ニ體格ニ依リ小ナルモノヨリ順次大ナルモノニ排列スルコト

(五)通報票中生年、身長又ハ體格不明ノモノハ其ノ欄ヲ「零」ト看做シテ排列スルコト

(六)別紙第一號表、第二號表及第三號表中「其ノ他」ニ屬スルモノハ假ニ適宜ノ種目名ヲ附シ別ニ整理スルコト

十一(一)被疑者氏名索引票及手口別寫眞票ノ整理ハ左ノ各號ニ依ルベシ

被疑者氏名索引票ハ其ノ姓、名各二音位ヲ組合セ別紙第六號表ニ依リ換數シタル氏名番號ヲ小ナル數ヨリ順次大ナル數ニ排列スルコト

但シ姓又ハ名ニシテ一音位ナルトキハ「0」ヲ添ヘ二位トスルコト

(二)手口別寫眞票ハ男女別ニ分類シ前項ニ準ジ排列スルコト

十二　被害者氏名索引票ハ前項第一號ニ準ジ排列スベシ

十三　贓品票ノ整理ハ左ノ各號ニ依ルベシ

(一)(二)(三)(四)別紙第五號表ニ依リ贓品ノ番號別ニ分類スルコト

贓品ニシテ製造、發行等ノ記號、番號ヲ附シアルモノハ其ノ記號、番號順ニ排列スルコト

衣類ハ紋又ハ模樣別ニ整理スルコト

其ノ他ノ贓品ハ地質別、型別、製作又ハ發行者別、重量別等ニ依リ適宜整理スルコト

●犯罪手口票取扱細則

昭和十一年八月二十日
山梨縣訓令乙第二〇八號

第一條　犯罪手口票ノ取扱ハ昭和十一年六月內務省訓第五五五號犯罪手口票取扱規程(以下單ニ規程ト稱ス)並犯罪手口票記載例及取扱心得ニ依ルノ外本令ニ依ルベシ

第二條　規程第一條ニ該當スル被疑者ヲ檢擧シタルトキハ規程第一號樣式ノ被疑者原紙(以下單ニ原紙ト稱ス)ヲ一事件毎ニ一枚ヲ作成シ別ニ豫備票トシテ自署及指紋ノミ押捺シタルモノ一枚ト共ニ規程第八號樣式ノ送付書(以下單ニ送付書ト稱ス)ヲ添付シ速ニ之ヲ警察部刑事課(以下單ニ刑事課ト稱ス)ニ送付スベシ

第三條　刑事課ニ於テハ警察署ヨリ送付ノ原紙ヲ審査シ豫備票ニ所定事項ヲ記入シ一枚ヲ犯罪手口廳(以下單ニ手口廳ト稱ス)ニ送付シ一枚ヲ規程第四條ニ準ジ之ヲ整理保存スベシ

第四條　規程第一條ニヨリ原紙ヲ作成シタル場合ハ被疑者ノ寫眞ヲ撮影シ規程第三號樣式ノ手口別寫眞票一葉及別ニ寫眞一葉ヲ作成シ原板ト共ニ刑事課ニ送付スベシ

刑事課ニ於テハ規程第四條ニ準ジ之ヲ整理保存スベシ

第五條　規程第八條ニ該當スル犯罪發生シタルトキハ規程第四號樣式ノ被害通報票(以下單ニ通報票ト稱ス)ヲ一事件毎ニ一枚ヲ作成シ規程第八號樣式ノ送付書ヲ添付シ速ニ之ヲ刑事課ニ送付スベシ但シ規程第八條第一項第二號ニ該當スル場合ハ之ガ作成ヲ省略スルコトヲ得

第六條　刑事課ニ於テ通報票ヲ受理シタルトキハ直ニ規程第三號表ニ依リ手口分類ノ上原紙ト對照シ該當原紙ヲ發見ノ場合ハ其ノ旨通報票ヲ送付シタル警察署ニ速ニ通知シ該當原紙ヲ發見セザルトキハ通報票ノ寫ヲ作成シ本紙ヲ手口廳ニ送付スベシ

第七條　前條ニ依リ作成シタル通報票寫ハ規程第十條ニ依リ之ヲ處理保存スベシ

第八條　原紙及通報票ノ作成ニ當リテハ左ノ事項ニ注意スベシ

イ　原紙及通報票ノ記載ハ必ズ「ペン」「インク」(黑色又ハ藍色)ヲ用ヒ明瞭ニ記載スルコト但シ原紙自署欄ノ被疑者自署ノ氏名ハ毛筆ヲ使用セシムルコト

ロ　原紙及通報票中表面、右側上欄ノ生年、身長體格、手口番號、犯罪別、大種別、中種別、小種別ノ各欄ハ空白ト爲スコト

ハ　原紙表面被疑者氏名ノ記載ハ「氏」ト「名」トヲ判然區別シ難解又ハ特種ノ讀方アルモノハ必ズ振假名ヲ附スルコト

ニ　原紙住所欄ニシテ住所不定ナルトキハ最近ノ住所ヲ必ズ記載スルコト

ホ　指紋ノ押捺ハ後日現場指紋ト對照スベキモノナルコトヲ考慮シ鮮明ニ押捺スルコト

ヘ　原紙兵役欄ノ兵役關係中補充兵ノ場合ハ兵種關係ノ記載ヲ爲サザルコト

ト　原紙結果欄ハ被疑者ヲ檢擧セル警察署ニ於テ直接身柄ヲ釋放シタルモノ及令狀請求ノ場合發令ナキ爲釋放シタルモノニ付之ヲ記入スルコト

チ　通報票中共犯者アル場合ノ記載ハ共犯、風體、語話、特癖、犯人人相ノ各欄共甲、乙、丙等ノ印ノ下ニ記入スルコト

第九條　警察署ニ於テ原紙又ハ通報票ノ送付後記載事項中ニ追加、削除、訂正ノ必要ヲ生ジタルトキハ規程第十五條ニ基キ速ニ之ヲ刑事課ニ通報スベシ

第十條　警察署ニ於テ規程第十九條第二十條各號ニ該當スルモノアリタルトキハ規程第十號樣式ニ依リ速ニ刑事課ニ通報スベシ

第十一條　警察署ハ規程第十三條各號ノ照會ヲ刑事課ニ爲スコトヲ得前項ノ照會ヲ受ケタル刑事課ハ直ニ精査シ又ハ手口廳ニ照會シ其ノ結果ヲ速ニ回答スベシ

第十二條　規程第十七條ニ依ル刑事日報ハ刑事課ヨリ警察署ニ送付スベシ

第十三條　警察署ニ於テハ作成送付シタル原紙竝寫眞ニ付テハ別紙第一號樣式ノ被疑者原紙竝手口別寫眞票作成控簿通報票ニ付テハ第二號樣式ノ被害通報票作成控簿ヲ調製シ整理スベシ

第十四條　警察署ニ於テハ每年一月十五日迄ニ規程第十二號樣式ニ依リ前年中ニ於ケル原紙通報票及手口別寫眞票ノ作成數ヲ調査シ之ヲ警察部長ニ報告スベシ

附　則

本令ハ昭和十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年五月警訓第二〇號犯罪手口索引原紙取扱標準、昭和二年十月警訓第二三號被害品カード整理心得制定ノ件ハ之ヲ廢止ス